

宮城県

少子化施策等に関する意識調査

– 調査結果報告書 –

令和6年12月

宮城県 保健福祉部 子育て社会推進課

＜目 次＞

I 調査概要.....	1
II 分析結果の概要.....	3
III 調査結果.....	9
1 あなた自身について	9
1-1 性別	9
1-2 年齢	9
1-3 居住地	10
1-4 就労状況／業種	11
1-5 結婚経験の有無	14
1-6 結婚した年齢	16
1-7 配偶者等の就労状況／業種	18
1-8 子どもの有無及び人数	21
1-9 同居家族	24
2 恋人との交際について	26
2-1 交際相手との出会いを求めるために必要な機会	26
3 結婚について	29
3-1 結婚に対する考え方	29
3-2 結婚したい（した）理由	32
3-3 理想の結婚時期	36
3-4 理想の結婚年齢	38
3-5 結婚相手に望むこと	41
3-6 結婚生活で不安に感じること	44
3-7 夫婦間の家事負担	46
3-8 夫婦間の育児負担	48
3-9 結婚に関して行政に実施してほしい取組	50
3-10 交際相手の有無	52
3-11 交際相手は欲しいか	54
3-12 交際相手が欲しくない理由	57
3-13 結婚の時期	59
3-14 現在結婚していない理由	64
4 子どもや育児について	69
4-1 第一子を持つ理想の年齢	69
4-2 理想の子どもの人数	71
4-3 実際に持てると思う子どもの数が理想より少ない、 または子どもを 持つつもりがない理由	74
4-4 子育てをしていて良かったと思うこと	76
4-5 子育てをしていて負担に思うこと	78

5 仕事と生活について	80
5－1 現在の生活にどの程度満足しているか	80
5－2 仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度	82
5－3 「男は仕事、女は家庭」という考え方	87
5－4 「子育ては母親でなければならない」という考え方	89
5－5 結婚した女性の働き方について	91
5－6 女性の生き方について	97
5－7 仕事と生活の調和を図るために必要だと思うこと	100
6 行政の取組みについて	102
6－1 妊娠・出産時の身体的・精神的・経済的負担を軽減する施策で重要と思うもの	102
6－2 育児を支援する施策として重要だと思うもの	104
7 自由意見	106
IV 総括	109
V 使用した調査票	111

I 調査概要

1 調査の目的

こども基本法第10条に規定する「都道府県こども計画」である「宮城県こども計画（仮称）」の策定に向けて、「こども」や「子育て当事者等」の意識や実態等の把握、及び同法第11条に規定することも施策の策定等に当たり「こども」や「子育て当事者等」の意見を聴取することを目的に実施した。

2 調査期間

令和6年7月22日（月）～令和6年8月9日（金）

※9月2日（月）回収分までを集計に含めた

3 調査対象

宮城県に在住する満18歳以上49歳以下の男女 合計3,000人

4 調査方法

郵送配布／郵送回収及びWEB回答を併用し回収

5 回答状況

配布数①	総回答数		有効回答数②		有効回答率 ②／①	
	紙	WEB	紙	WEB	紙	WEB
3,000	351	559	350	550	11.7%	18.3%
	合計		合計		合計	
	910		900		30.0%	

6 調査結果の見方

- n (number of cases) は回答割合算出における基数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを表しています。
- 回答割合は百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。したがって、单一回答式の質問においては、回答割合を合計しても 100.0%にならない場合があります。また、複数回答式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の割合を合計すると 100.0%を超える場合があります。
- 回答が皆無（0件）であった選択肢の回答割合は、図表中では「-」と表記しています。
- 図表中またはコメント中で2つ以上の選択肢の回答割合の合算値を掲載している箇所は、四捨五入の関係で、個々の回答割合の単純な足し上げ値と一致しない場合があります。
- 調査数（n）が少數のものは、回答割合の信頼性が低いため、コメントを省略している場合があります。
- 図表及びコメントで、選択肢の語句等を一部簡略化等している場合があります。
- 一部の設問では過去に宮城県や国で実施された調査結果との比較分析を行っており、その際の図表及びコメントでは調査名を以下のように表記しています。

図表及びコメント上の表記	調査名	調査主体
令和6年度県調査	宮城県少子化施策等に関する意識調査	宮城県
令和2年度国調査	令和2年度少子化社会に関する 国際意識調査	内閣府
平成28年度県調査	宮城県結婚・出産・子育てに関する 意識調査	宮城県

II 分析結果の概要

1. 宮城県の婚姻・出生数の現状

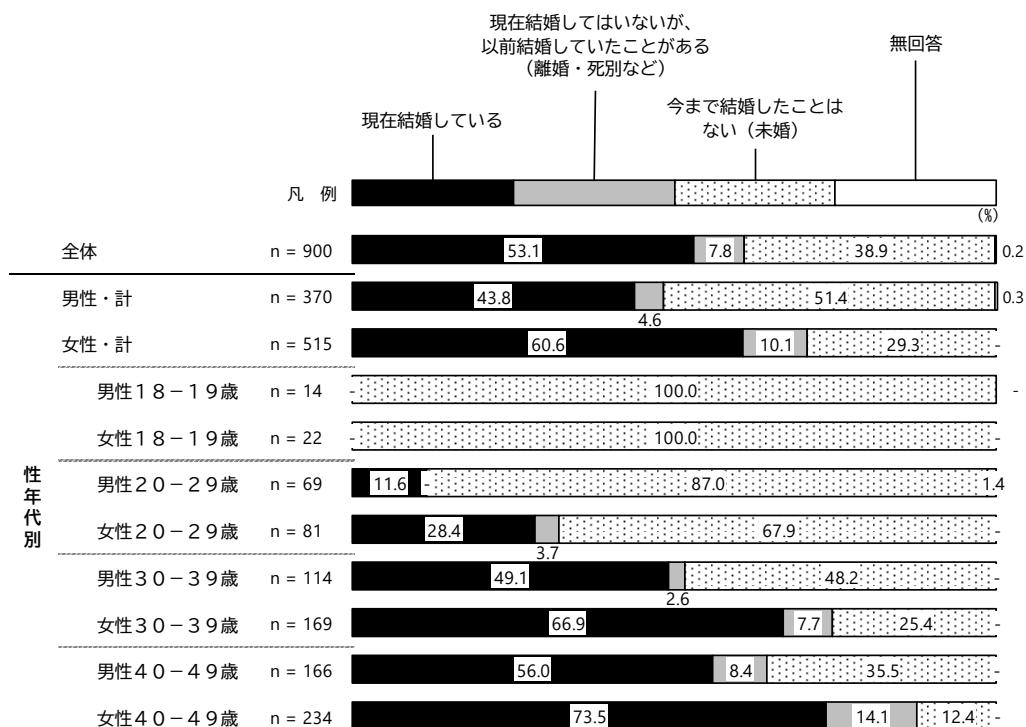
結婚経験の有無について、「現在結婚している」が 53.1%、「今まで結婚したことはない（未婚）」が 38.9% となっています。平成 28 年度県調査と比較すると、「現在結婚している」が 6.0 ポイント低くなっている一方、「今まで結婚したことはない（未婚）」は 6.7 ポイント高くなっています。人口に占める未婚者の割合が増加の傾向にあります。性年代別にみると、男性の 20-29 歳で 87.0%、女性の 20-29 歳で 67.9% が未婚となっています。

結婚した年齢について、平均年齢は 27.35 歳で平成 28 年度県調査の 26.69 歳と比較すると、平均年齢は微増しているものの、大きな変化はみられませんでした。

未婚の 20-29 歳男女の割合をみると、今後の初婚年齢の上昇が予見されます。

子どもの有無について、「いる」が 54.1%、「いない」が 45.6% となっています。平成 28 年度県調査と比較すると、「いる」が 5.6 ポイント低くなっています。既婚者をみると 87.8% と過半数が「いる」と回答しています。子どもがいない方が増加している状況にあるものの、既婚者が子どもを持つ傾向に変化はみられませんでした。

また、子どもの人数は「2人」が 43.7% と最も高く、次いで「1人」（30.2%）、「3人」（22.4%）となっています。令和 6 年度県調査の平均子どもの人数は 1.99 人となっており、平成 28 年度県調査の平均子どもの人数 2.04 人と比較すると、平均値が僅かに減少して 2 人を下回っています。子どもがいる場合の子どもの人数はほぼ平成 28 年度の平均値と変わりませんが、合計特殊出生率は低下し続けています。その要因として、平成 27 年度と令和 2 年度の国勢調査から 20 歳未満～49 歳の単独世帯女性人口の増加や未婚の女性の増加等が考えられます。



2. 交際状況と考え方について

交際相手の有無について、「現在交際相手はいない（かつてはいた）」が41.7%と最も高く、次いで「現在交際相手はいない（まだ交際経験がない）」（38.6%）、「現在交際相手がいる」（17.1%）となっています。性別にみると、「現在交際相手がいる」は男性で10.0%、女性で26.5%と男性は女性に比べ16.5ポイント低くなっています。平成28年度県調査と比較すると、「現在交際相手はいない（まだ交際経験がない）」が11.3ポイント高くなっています。、交際していない方が増加している傾向にあります。

交際相手は欲しいかについて、「はい」が51.6%、「いいえ」が48.4%となっており、平成28年度県調査と比較すると、「いいえ」が12.6ポイント高くなっています。

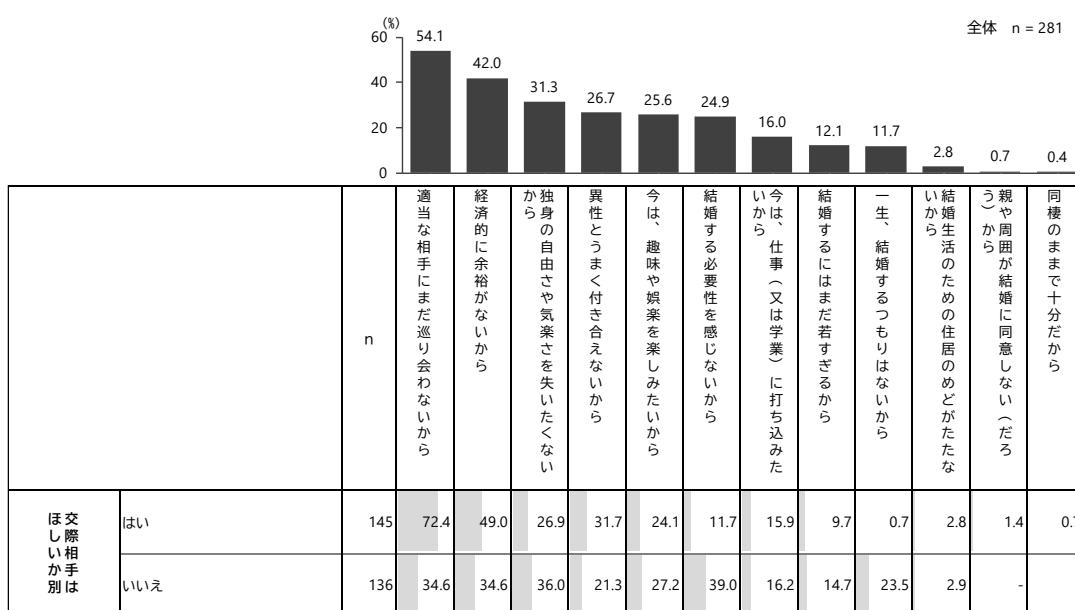
交際相手が欲しくない理由について、「恋愛が面倒」が42.6%と最も高く、次いで「自分の趣味に力を入れたい」（36.8%）、「恋愛に興味がない」（34.6%）となっています。

交際相手が欲しくない理由についてさらに分析するため、結婚生活について不安に感じること別に交際相手は欲しいかをみると、『交際相手が欲しくない』方は、『交際相手が欲しい』方に比べ「自分の自由の制約」が20.1ポイント高くなっています。

また、結婚していない理由別に交際相手は欲しいかをみると、『交際相手が欲しくない』方は、『交際相手が欲しい』方に比べ「結婚する必要性を感じないから」が27.3ポイント、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が9.1ポイント高くなっています。

交際相手が欲しいと思わない理由として恋愛、結婚への興味が希薄であることや自由の制約に対する嫌悪感があるとみてとれます。

交際相手との出会いを求めるために必要な機会について、「友人・知人に紹介を頼む（紹介をうける）」が58.6%と最も高く、次いで「趣味のサークル、資格取得・スキルアップのための学校で知り合う」（39.8%）、「職場の同僚や先輩・後輩に紹介を頼む（紹介をうける）」（38.2%）となっています。婚姻別にみると、未婚者では既婚者と順位にそれほど違いはみられないものの全体的に割合が低く、その一方で「特ない」が既婚者に比べて14.9ポイント高くなっています。出会いの機会への期待値は低いことがうかがえます。



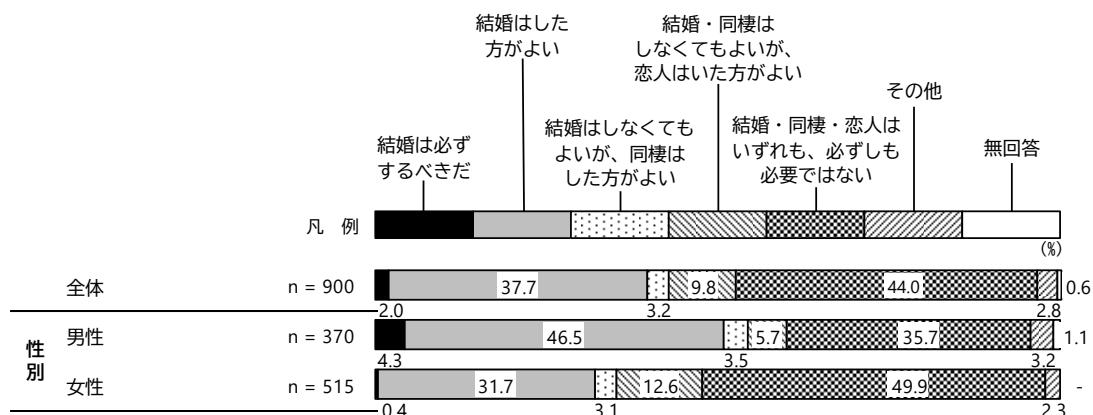
※「その他」「特ない」「無回答」は非掲載

3. 結婚についての考え方

結婚についての考え方について、「結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない」(44.0%)、「結婚はした方がよい」(37.7%)で8割を占めています。令和2年度国調査と比較すると、「結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない」が5.0ポイント高くなっている一方、「結婚はした方がよい」は6.5ポイント低くなっています。結婚することへの意識が国調査と比べてやや薄くなっていることがうかがえます。性年代別にみると、男性では「結婚した方がよい」が女性に比べ14.8ポイント高く、一方で女性では「結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない」が男性に比べ14.2ポイント高くなっています。全ての年代で概ね同様の傾向がみられます。令和2年度国調査と比較すると、宮城県では男性20-29歳を除き、全ての性年代で国調査と比べて「結婚した方がよい」が低く、特に女性の結婚に対する意識が国と比較しても低下傾向にあることがうかがえます。

結婚の時期について、《結婚したい》(「1年以内に結婚したい」+「2~3年以内に結婚したい」+「いずれは結婚したい」の合計)は55.7%となっており、平成28年度県調査の73.4%と比較すると17.7ポイント低くなっています。「結婚するつもりはない」は18.0%と約2割みられます。性年代別に平成28年度県調査と比較すると、《3年以内に結婚したい》(「1年以内に結婚したい」+「2~3年以内に結婚したい」の合計)は男女ともに全ての年代で回答割合が低くなっています。全体では26.8%から17.7%へと9.1ポイント、特に、女性20~30歳代で10ポイント以上低くなっています。結婚生活について不安に感じること別にみると、『結婚するつもりはない』方は「自分の自由の制約」が『結婚したい』方に比べ29.4ポイント高くなっています。晩婚化は自身の自由の制約に対する嫌悪感や人々の結婚に対する価値観の変化による影響が関係していると考えられます。

理想の結婚時期について、「いわゆる結婚適齢期に結婚する」が32.3%と最も高く、次いで「ある程度年齢を重ねてから結婚する」(30.7%)、「できるだけ若いうちに結婚する」(28.4%)となっています。平成28年度県調査と比較すると、「ある程度年齢を重ねてから結婚する」が18.9ポイントと大幅に高くなっています。一方、「いわゆる結婚適齢期に結婚する」は22.2ポイント低くなっています。性年代別にみると、男性では「できるだけ若いうちに結婚する」が女性に比べ4.8ポイント高く、一方女性では「ある程度年齢を重ねてから結婚する」が男性に比べ6.4ポイント高くなっています。主に女性で「ある程度年齢を重ねてから結婚する」への回答が多くなっています。男性では早く結婚したい希望がある一方で、女性ではある程度年齢を重ねてから結婚したいといった性別間でのギャップがうかがえます。

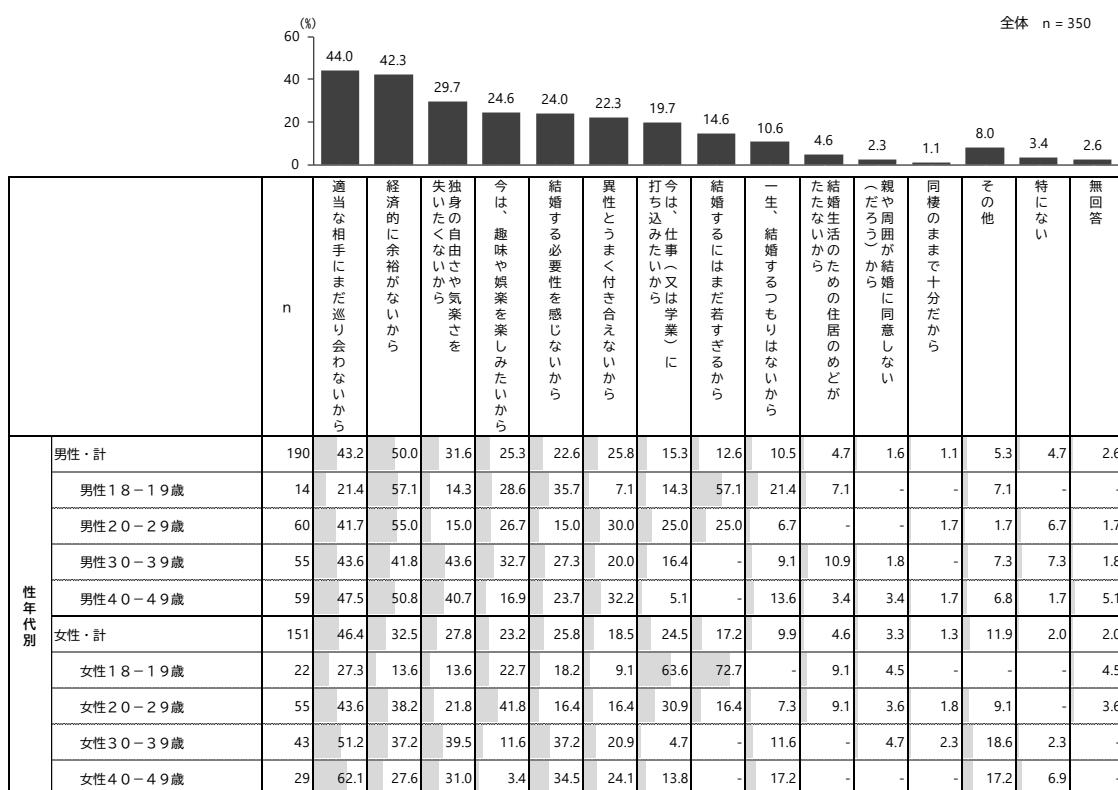


4. 結婚の疎外要因について

結婚したい（した）理由について、「好きな人と一緒にいたい（いたかった）」が 57.7% と最も高く、次いで「家族を持ちたい（持ちたかった）」（50.2%）、「子どもが欲しい（欲しかった）」（49.0%）となっています。平成 28 年度県調査と比較すると、「やすらぎが欲しい（欲しかった）・一人で寂しい（寂しかった）」が 11.8 ポイント、「子どもが欲しい（欲しかった）」が 10.9 ポイント低くなっています。

現在結婚していない理由について、上位 3 項目を合わせて集計したところ、「適当な相手にまだ巡り会わないから」が 44.0% と最も高く、次いで「経済的に余裕がないから」（42.3%）、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」（29.7%）となっています。令和 2 年度国調査と比較すると、「経済的に余裕がないから」が 12.5 ポイント高くなっています。性年代別にみると、男性では「経済的に余裕がないから」が全ての年代で女性に比べ高い一方、女性 10~20 歳代では「今は、仕事（又は学業）に打ち込みたいから」が男性の同年代に比べて高くなっています。また、女性 20~29 歳では「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」が全ての性年代で最も高くなっています。男性の場合は経済的に余裕がないこと等が、女性の場合は、社会進出が進んだことで仕事に打ち込みたい方が増加し、経済的余裕ができたことや、価値観が多様化したことが晩婚化の後押しになっていることが考えられます。

結婚に関して行政に実施してほしい取組について、「結婚後の生活資金の支援」が 53.3% と最も高く、次いで「雇用の安定化」（46.0%）、「結婚資金の支援」（38.9%）となっています。平成 28 年度県調査と比較すると、「結婚後の生活資金の支援」及び「結婚資金の支援」で 10 ポイント以上高くなっています。行政への希望では経済面での支援が多くなっています。

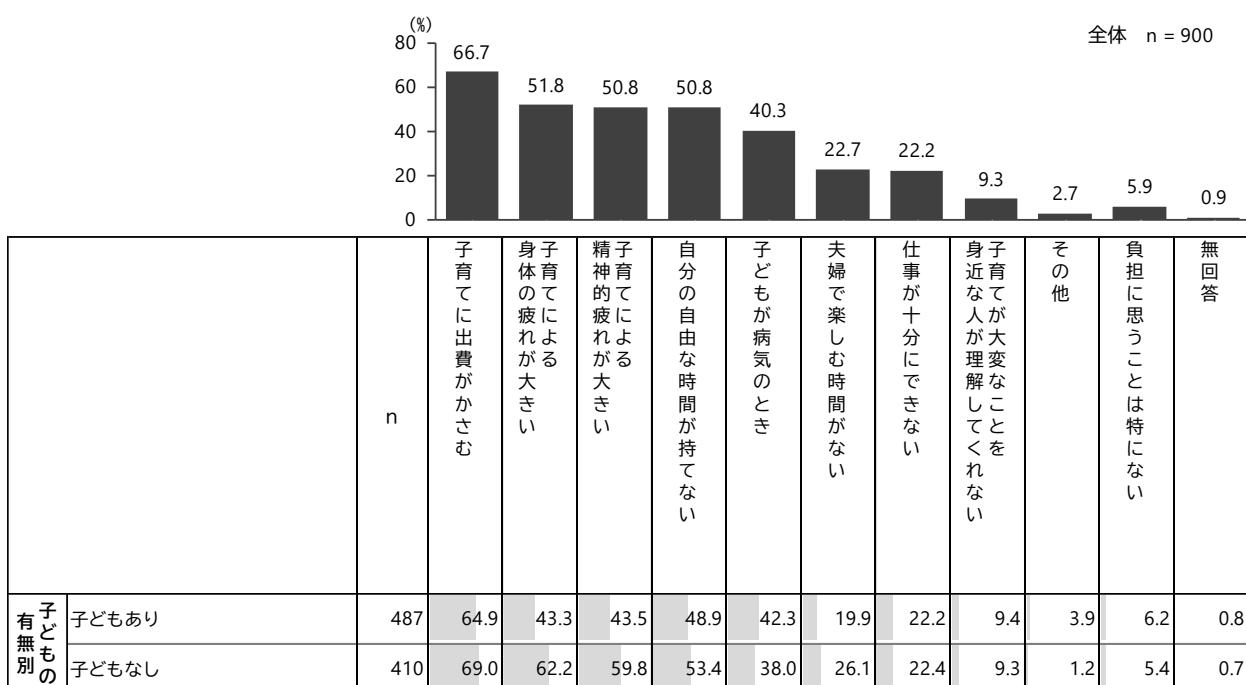


5. 子どもを持つことについての考え方について

理想の子どもの人数は、平均値が 2.43 人となっており、令和 2 年度国調査の 2.06 人と比較すると国調査の人数を上回っています。一方で、実際に持てると思う人数では平均値が 1.77 人と、0.66 人の乖離があり、理想の子どもの人数を下回っています。

実際に持てると思う子どもの数が理想より少ない、または子どもを持つつもりがない理由について、「子育てや教育にお金がかかりすぎているから」が 74.2% と極めて高くなっています。子どもの有無別にみると、子どもありの方では「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が子どもなしの方に比べ 12.2 ポイント、「働きながら子育てができる職場環境にないから」が 11.5 ポイント高くなっています。一方、子どもなしの方では「妊娠・出産のときの身体的・精神的な苦痛が嫌だから」は 6.1 ポイント高くなっています。子どもがいる方では、子育てにかかる経済的負担や職場環境などの実体験による回答割合が高いことが考えられます。

子育てをしていて負担に思うことについて、「子育てに出費がかさむ」が 66.7% と最も高く、次いで「子育てによる身体の疲れが大きい」(51.8%)、「子育てによる精神的疲れが大きい」「自分の自由な時間が持てない」(いずれも 50.8%) となっています。令和 2 年度国調査と比較すると、「子育てに出費がかさむ」が 11.1 ポイント高くなっています。子どもの有無別にみると、子どものいない方はいる方に比べ多くの項目で割合が高くなっています。特に、「子育てによる身体の疲れが大きい」「子育てによる精神的疲れが大きい」が 10 ポイント以上高くなっています。このため、子どもを持っていない方に子育てに対するネガティブな印象を緩和し、ポジティブな印象を増やす周知・啓発が重要と考えられます。



6. 家庭生活での役割分担について

結婚相手に望むことについて、「価値観が近いこと」が77.4%と最も高く、次いで「一緒にいて気をつかわないこと」(68.2%)、「一緒にいて楽しいこと」(66.3%)となっています。平成28年度県調査と比較すると、「価値観が近いこと」が9.0ポイント、「家事を分担してくれること」が11.6ポイント高くなっています。

「家事を分担してくれること」が増加した要因として、夫婦間の家事・育児負担についてみると、家事・育児ともに「どちらも同じくらい負担する」が最も高く、《妻のほうが多く負担する》(「どちらかといふと妻のほうが多く負担する」+「妻のほうが多く負担する」の合計)は家事・育児とも2割台となっています。平成28年度県調査と比較すると、《妻のほうが多く負担する》は家事で24.1ポイント、育児で17.8ポイント低くなっている一方、「どちらも同じくらい負担する」が同程度高くなっています。

夫婦間の家事・育児の負担において、家事・育児を夫婦で同じくらい負担したいとの回答が高くなっています。そのため、夫婦間の家事・育児の負担が結婚相手に望むことに反映されたものと考えられます。

「子育ては母親でなければならない」という考え方について、《同感しない》(「どちらかといえば同感しない」+「同感しない」の合計)は6割以上となり、《同感する》(「同感する」+「どちらかといえば同感する」の合計)の27.3%を大幅に上回っています。平成28年度県調査と比較すると、《同感する》は15.7ポイント低くなっています。

全国的な傾向として、令和元年及び令和4年度に実施された「男女共同参画社会に関する世論調査」を比較すると、令和4年度調査では、男女ともに「自分と配偶者で半分ずつ」の回答が増加しています。全国的に広がりつつある固定的性別役割分担意識の改善が宮城県においても波及していることがうかがえます。

7. ワーク・ライフ・バランスについて

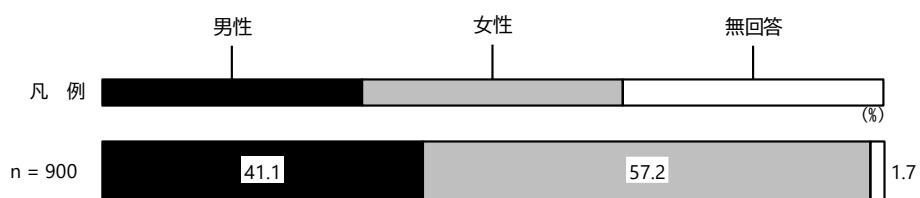
仕事と生活の調和を図るために必要だと思うことについて、「職場が育児や介護などの両立に配慮や理解があり、制度を利用しやすい環境であること」が77.6%と最も高く、次いで「育児休業・介護休業などの制度が利用できること」(75.3%)、「有給休暇が取りやすいこと」(73.1%)となっています。平成28年度県調査と比較すると、全ての項目で回答割合が高くなっています。特に、「フレックスタイム、在宅勤務など多様な働き方ができること」が15.2ポイントと大幅に高くなっています。働き方改革や新型コロナウイルス感染症の流行などをきっかけに、多様な働き方への理解や期待が広がったことがうかがえます。

III 調査結果

1 あなた自身について

1-1 性別

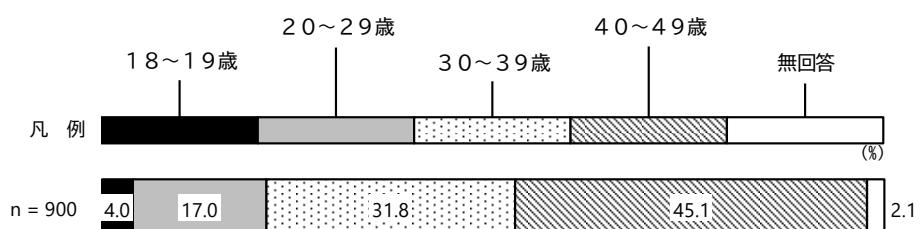
問1 あなたの性別をお知らせください。 (○は1つ)



1-2 年齢

問2 あなたの満年齢をお知らせください。

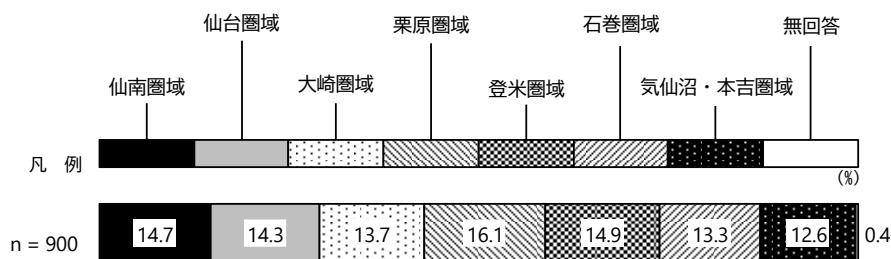
令和6年5月1日時点でお答えください。 (数字を記入)



1-3 居住地

問3 あなたが現在お住まいの市町村名をお答えください。 (○は1つ)

※県内35市町村を7圏域に区分して集計



仙南圏域：白石市、角田市、蔵王町、七ヶ宿町、大河原町、村田町、柴田町、川崎町、丸森町

仙台圏域：仙台市、塩竈市、名取市、多賀城市、岩沼市、富谷市、亘理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町、大和町、大郷町、大衡村

大崎圏域：大崎市、色麻町、加美町、涌谷町、美里町

栗原圏域：栗原市

登米圏域：登米市

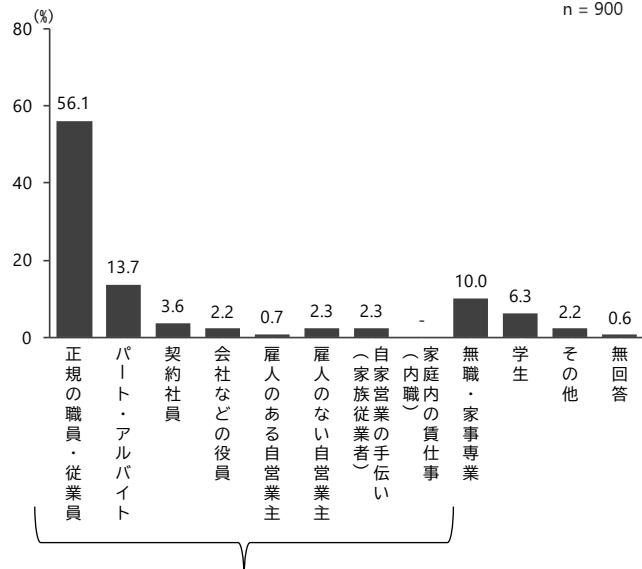
石巻圏域：石巻市、東松島市、女川町

気仙沼・本吉圏域：気仙沼市、南三陸町

1-4 就労状況／業種

問4 あなたのお仕事についておたずねします。（A）お勤めの状況、（B）業種について、当てはまるものを1つずつお選びください。（○はそれぞれ1つずつ）
 ※仕事先が複数ある場合は、主に働いているところ（時間が多いところ）を選んでお答えください。

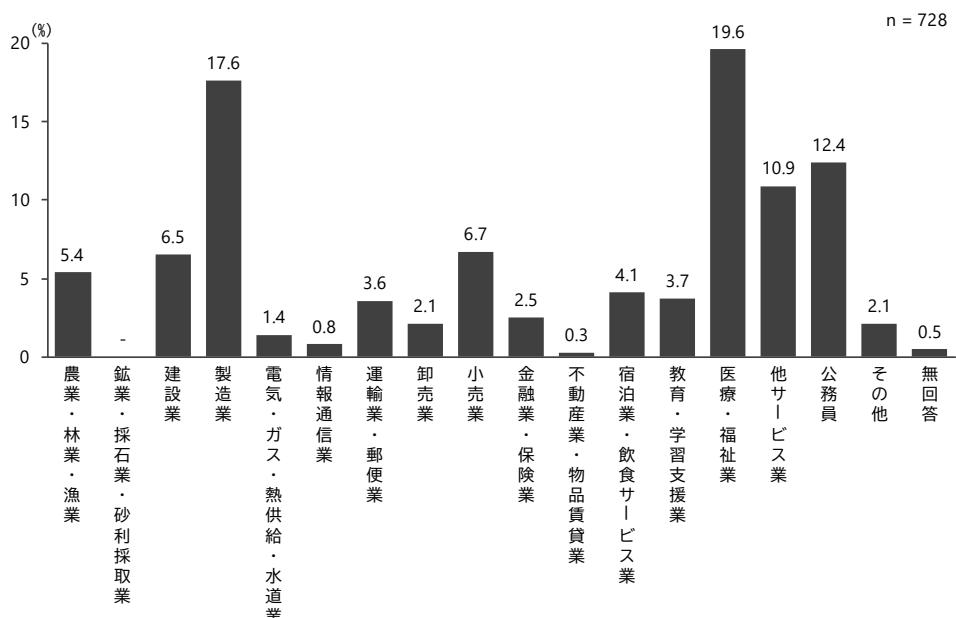
(A) 就労状況



(B) 業種へ

(B) 業種

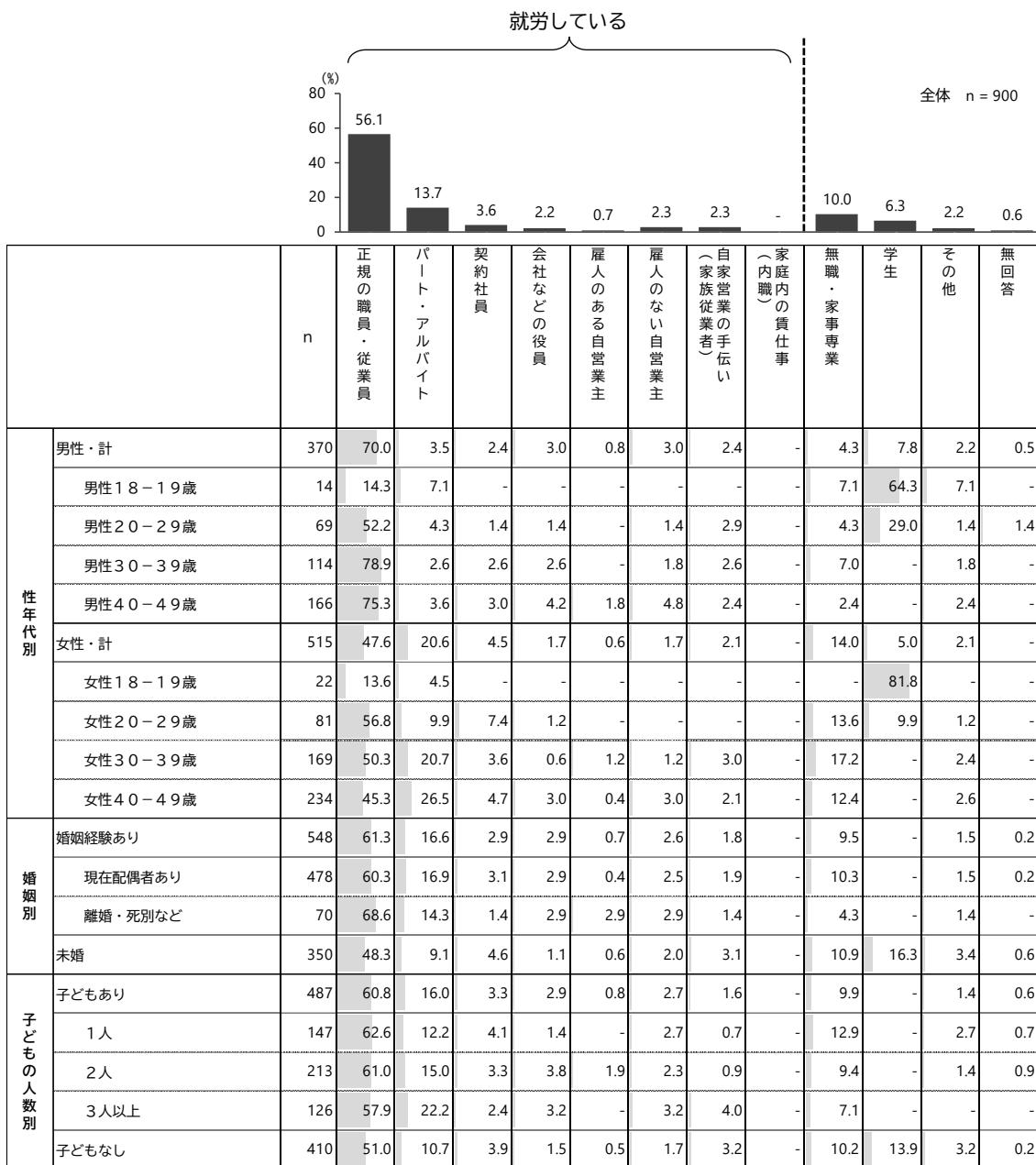
※就労状況で「正規の職員・従業員」～「家庭内の賃仕事（内職）」に該当する方



就労状況については、「正規の職員・従業員」が56.1%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」(13.7%)、「無職・家事専業」(10.0%)となっています。

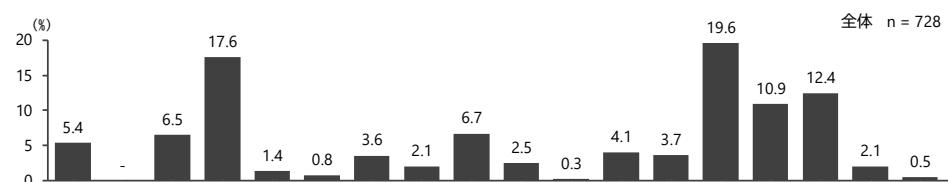
業種については、「医療・福祉業」が19.6%と最も高く、次いで「製造業」(17.6%)、「公務員」(12.4%)となっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／就労状況



性年代別にみると、「正規の職員・従業員」は女性・計が男性・計に比べ 22.4 ポイント低くなっています。また、女性の 30 歳以上では「パート・アルバイト」が 2 割を超えています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／業種



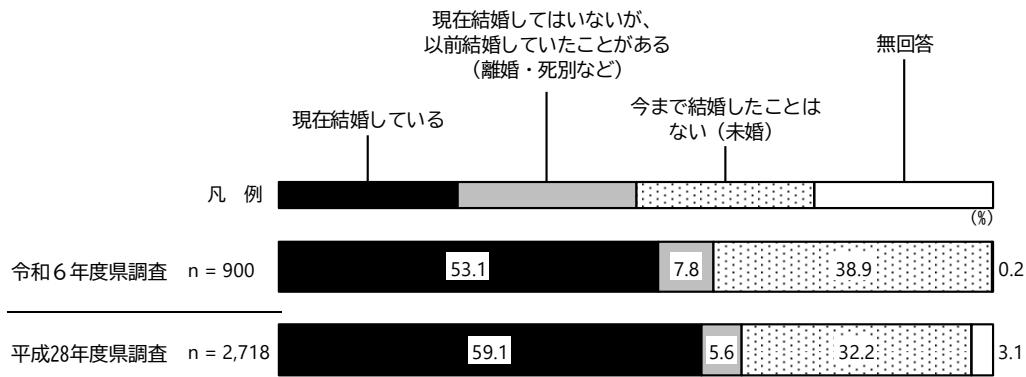
		n	農業・林業・漁業	砂鉱利採・採取業	建設業	製造業	水道業・ガス・熱供給	情報通信業	運輸業・郵便業	卸売業	小売業	金融業・保険業	不動産業・物品販貸業	飲食宿泊業・サービス業	教育・学習支援業	医療・福祉業	他サービス業	公務員	その他	無回答
性年代別	男性・計	315	8.9	-	9.8	22.5	2.9	1.0	5.7	2.2	4.4	1.0	0.3	1.9	2.5	9.2	13.0	12.7	1.6	0.3
	男性18-19歳	3	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-	-	33.3	-	-	-
	男性20-29歳	44	11.4	-	6.8	20.5	2.3	-	2.3	4.5	4.5	2.3	-	4.5	-	4.5	13.6	15.9	6.8	-
	男性30-39歳	104	8.7	-	10.6	20.2	1.9	2.9	5.8	2.9	2.9	-	-	-	4.8	12.5	13.5	12.5	1.0	-
	男性40-49歳	158	8.2	-	10.8	24.7	3.8	-	6.3	1.3	5.7	1.3	0.6	1.9	1.9	8.2	11.4	12.7	0.6	0.6
	女性・計	406	2.5	-	3.9	14.0	0.2	0.5	2.0	2.0	8.4	3.7	0.2	5.9	4.7	27.6	9.4	12.3	2.0	0.7
	女性18-19歳	4	-	-	-	50.0	-	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	25.0	-	-	-
	女性20-29歳	61	-	-	-	14.8	-	-	1.6	1.6	3.3	4.9	-	9.8	6.6	27.9	6.6	18.0	1.6	3.3
	女性30-39歳	136	1.5	-	4.4	14.0	-	1.5	1.5	2.2	10.3	5.1	0.7	3.7	2.9	26.5	8.1	14.0	2.9	0.7
	女性40-49歳	199	4.0	-	4.5	13.1	0.5	-	2.0	2.0	8.5	2.5	-	6.5	5.5	28.6	10.6	10.1	1.5	-
婚姻別	婚姻経験あり	487	4.7	-	6.8	15.8	1.6	1.0	3.1	2.3	5.7	2.3	0.2	3.7	4.7	23.6	10.3	11.9	1.8	0.4
	現在配偶者あり	421	4.3	-	7.1	14.3	1.9	1.2	3.1	2.4	5.7	1.9	0.2	3.6	4.8	23.3	10.9	13.5	1.7	0.2
	離婚・死別など	66	7.6	-	4.5	25.8	-	-	3.0	1.5	6.1	4.5	-	4.5	4.5	25.8	6.1	1.5	3.0	1.5
	未婚	241	6.6	-	5.8	21.2	0.8	0.4	4.6	1.7	8.7	2.9	0.4	5.0	1.7	11.6	12.0	13.3	2.5	0.8
子どもの人数別	子どもあり	429	4.7	-	7.7	15.4	1.6	0.9	3.3	2.3	5.8	2.6	0.2	4.0	4.4	23.8	9.3	11.4	2.1	0.5
	1人	123	6.5	-	4.9	14.6	-	2.4	2.4	1.6	7.3	1.6	0.8	4.1	4.9	25.2	9.8	8.1	4.1	1.6
	2人	188	4.3	-	8.0	17.6	2.7	0.5	4.3	2.7	4.8	3.2	-	4.3	3.7	19.7	7.4	14.9	2.1	-
	3人以上	117	3.4	-	10.3	12.0	1.7	-	2.6	2.6	6.0	2.6	-	3.4	5.1	29.1	12.0	9.4	-	-
	子どもなし	297	6.4	-	4.7	20.9	1.0	0.7	4.0	1.7	7.7	2.4	0.3	4.4	2.7	13.8	12.8	13.8	2.0	0.7

性年代別にみると、男性では全ての年代で「製造業」、女性では18-19歳を除く全ての年代で「医療・福祉業」が最も高くなっています。

1-5 結婚経験の有無

問5 あなたは、結婚なさっていますか。 (○は1つ)

※結婚には事実婚を含みます。 (以下同じ)

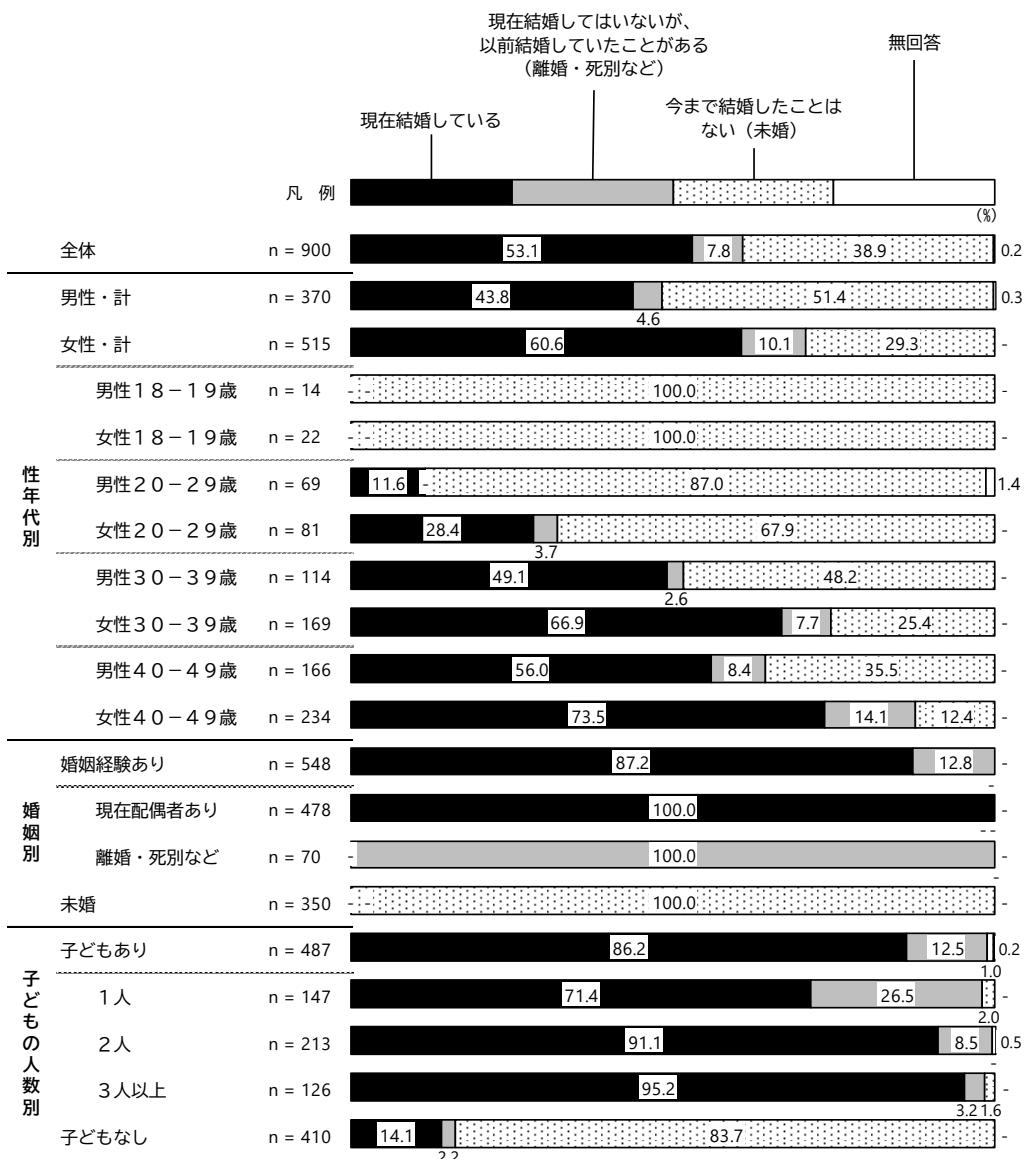


平成28年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」

結婚経験の有無については、「現在結婚している」が53.1%と最も高く、次いで「今まで結婚したことはない（未婚）」（38.9%）、「現在結婚してはいないが、以前結婚していたことがある（離婚・死別など）」（7.8%）となっています。

平成28年度県調査と比較すると、「現在結婚している」は6.0ポイント低くなり、「今まで結婚したことはない（未婚）」は6.7ポイント高くなっています。

◆性年代別／結婚経験の有無

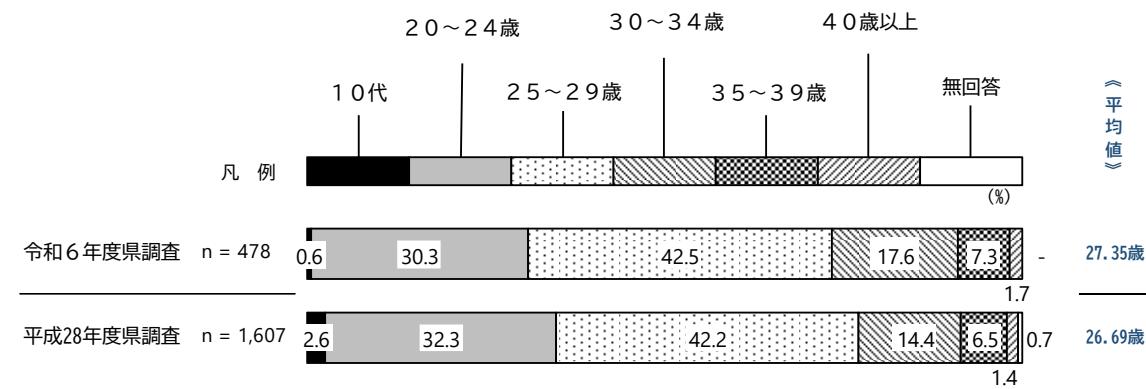


性年代別にみると、男女ともに18-19歳を除く全ての年代で「現在結婚している」は女性が男性に比べ回答割合が高く、「今まで結婚したことはない（未婚）」は男性が女性に比べ回答割合が高くなっています。

1-6 結婚した年齢

【問5で「現在結婚している」とお答えの方にお伺いします】

問6 あなたがご結婚された年齢を教えてください。（数字を記入）

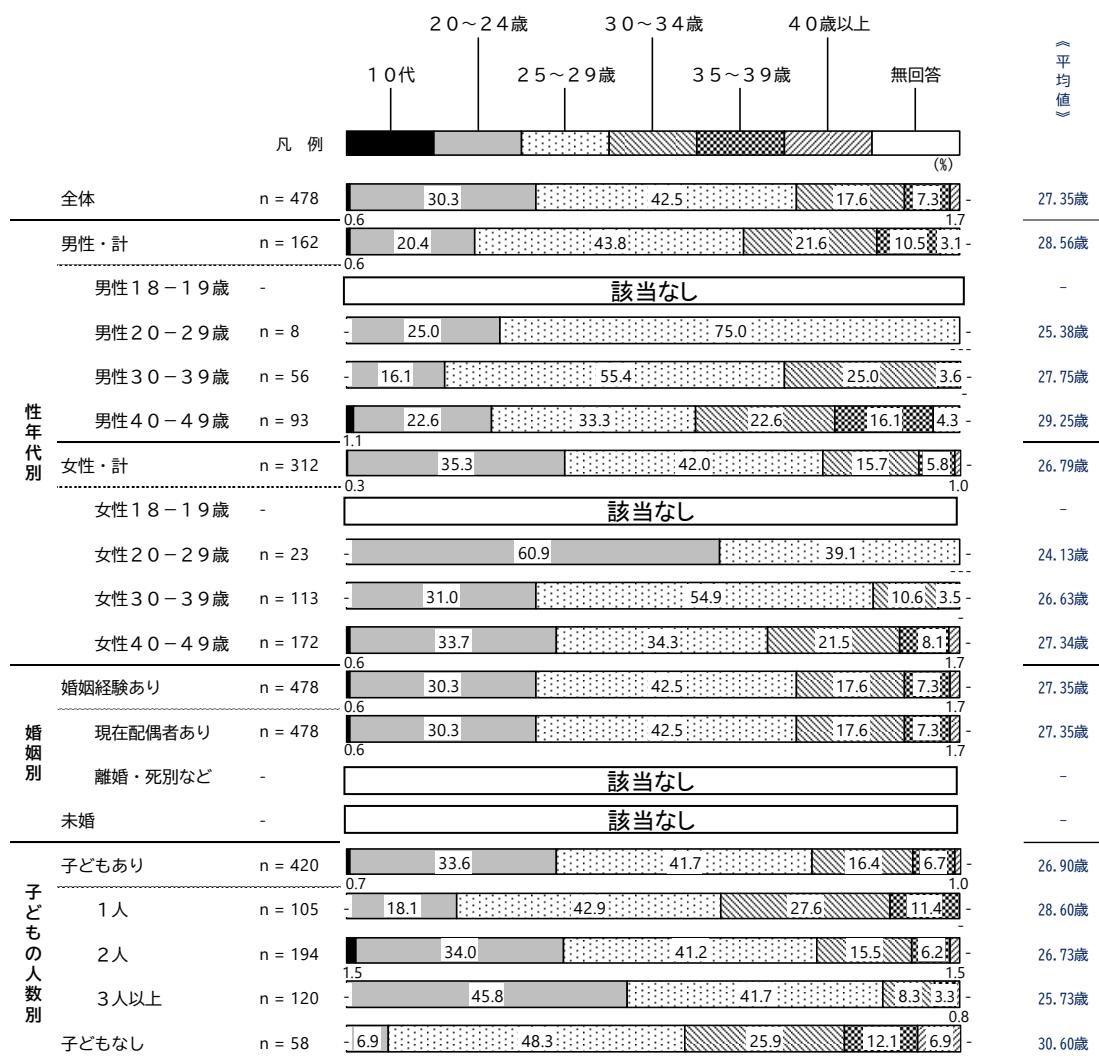


平成 28 年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」

結婚した年齢については、「25~29 歳」が 42.5% と最も高く、次いで「20~24 歳」(30.3%)、「30~34 歳」 (17.6%) となっています。

平成 28 年度県調査と比較すると、平均値は微増しているものの、大きな変化はみられませんでした。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／結婚した年齢



性年代別にみると、女性・計では「20～24歳」が35.3%と男性・計に比べ14.9ポイント高くなっている一方、「25歳」以上では女性に比べ男性で回答割合が高くなっています。平均値（男性28.56歳、女性26.79歳）をみても、女性は男性に比べ結婚年齢が低い傾向があることがうかがえます。

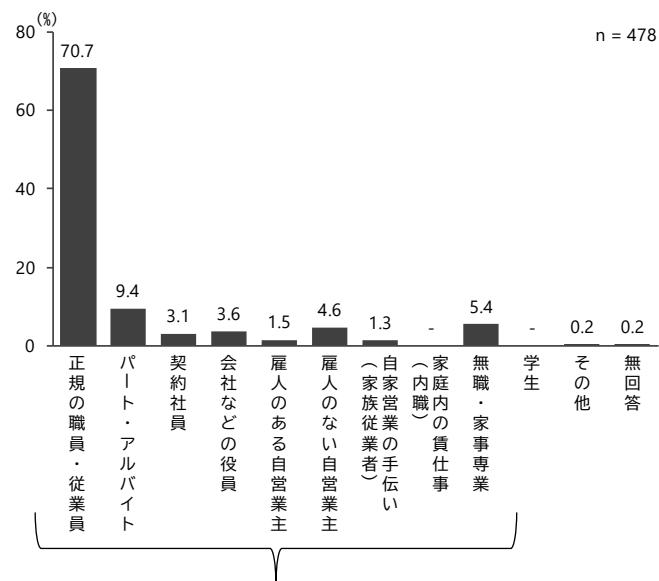
子どもの人数別にみると、子どもの有無に関わらず「25～29歳」が最も高くなっています。また、子どもありの方では子どもの人数が増えるにつれて「20～24歳」が増加する傾向にあります。

1-7 配偶者等の就労状況／業種

問7 あなたの配偶者等のお仕事についておたずねします。 (A) お勤めの状況、(B) 業種について、当てはまるものを1つずつお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
 ※仕事先が複数ある場合は、主に働いているところ(時間が多いところ)を選んでお答えください。

(A) 配偶者の就労状況

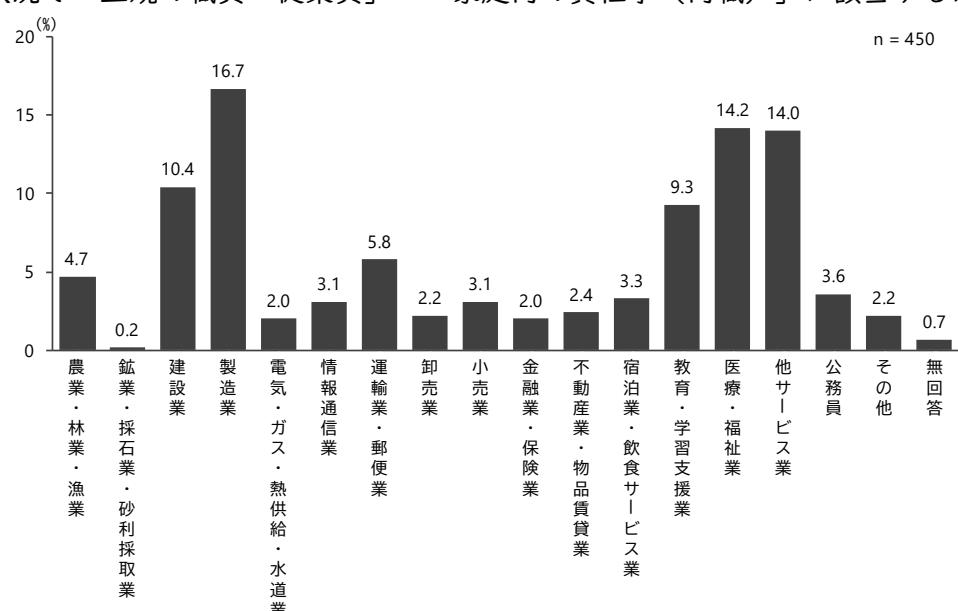
※「配偶者等」には事実婚相手を含む(以下同じ)



(B) 配偶者の業種

(B) 業種へ

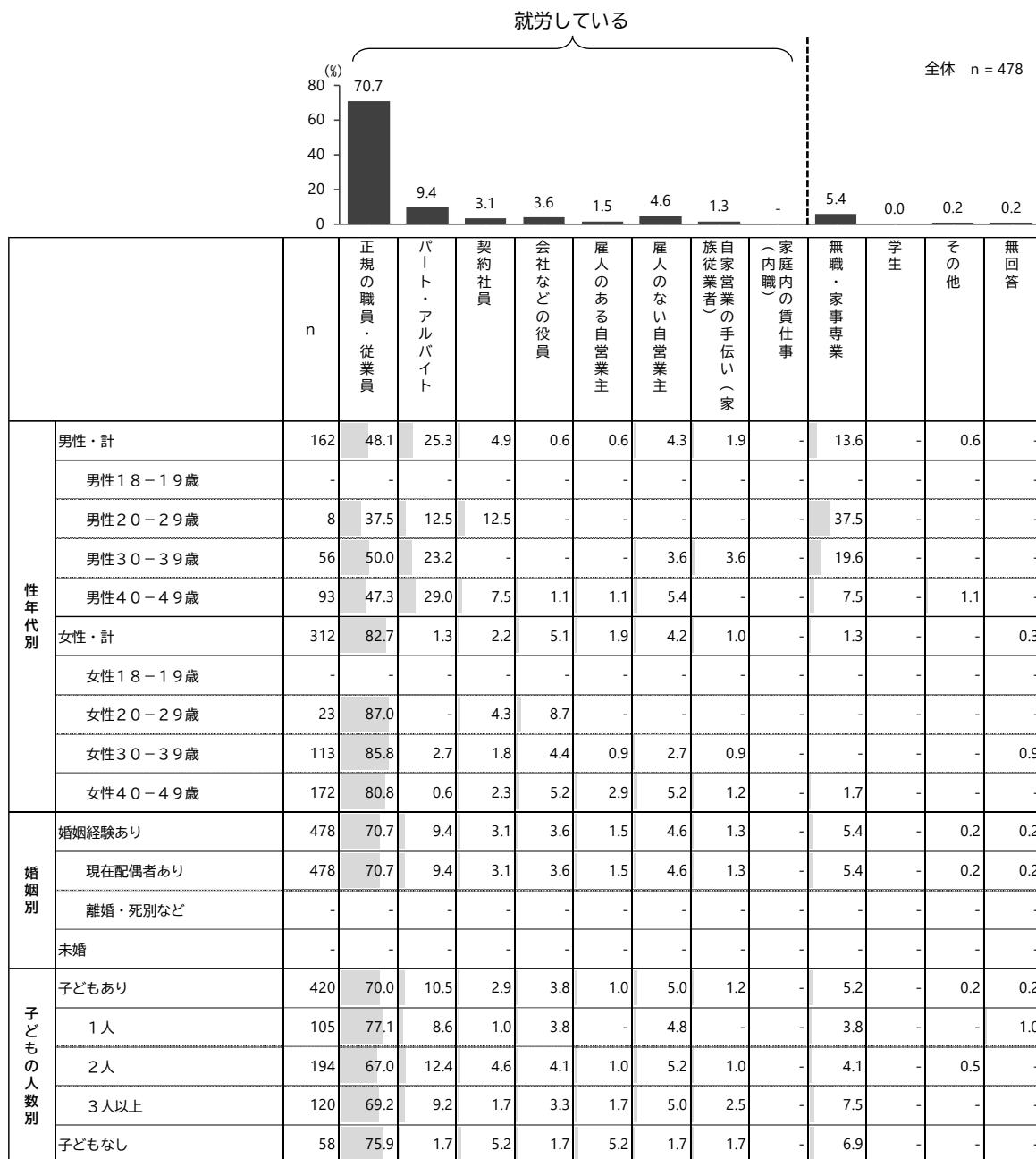
※就労状況で「正規の職員・従業員」～「家庭内の賃仕事(内職)」に該当する方



配偶者の就労状況については、「正規の職員・従業員」が70.7%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」(9.4%)、「無職・家事専業」(5.4%)となっています。

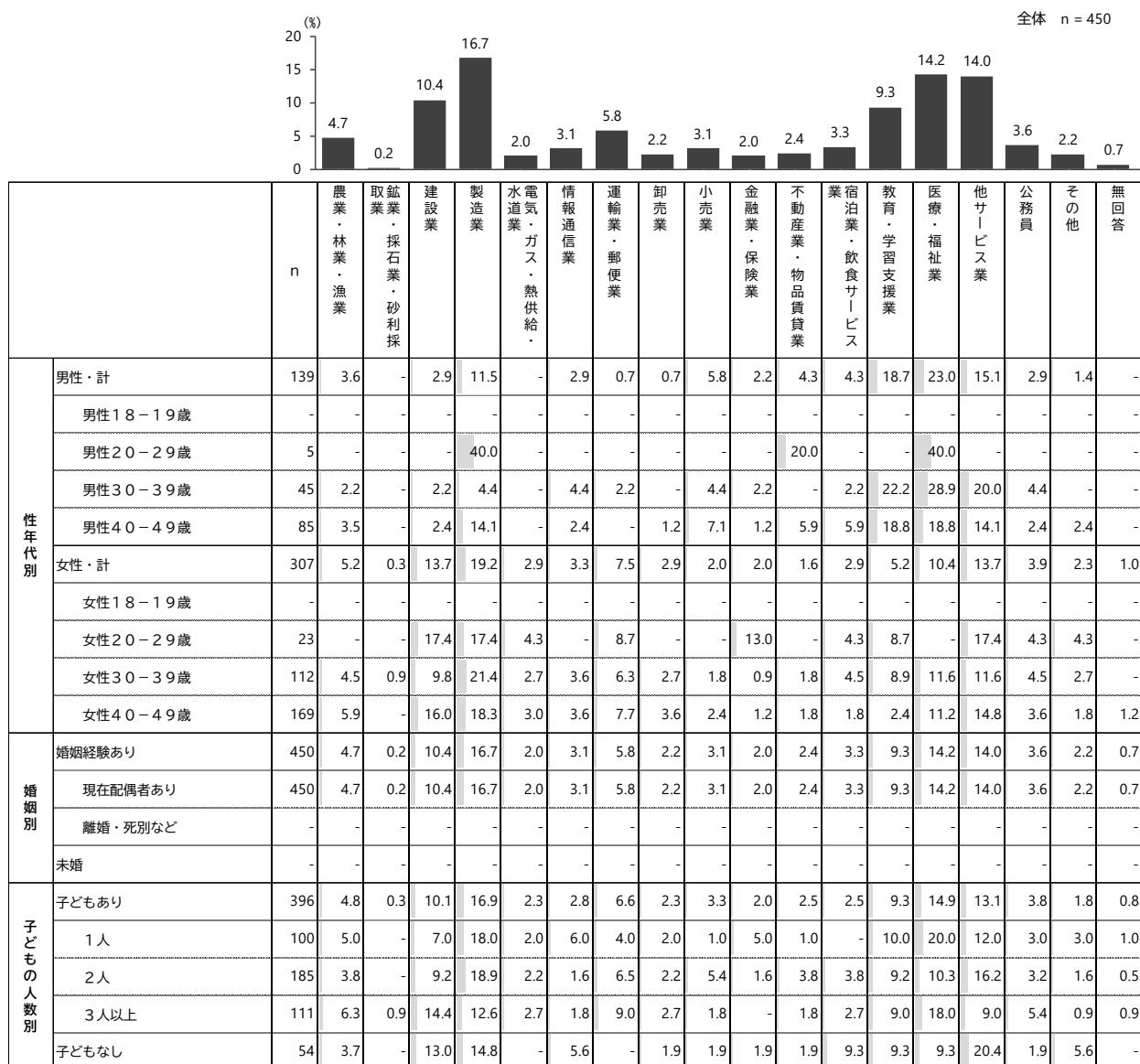
配偶者の業種については、「製造業」が16.7%と最も高く、次いで「医療・福祉業」(14.2%)、「他サービス業」(14.0%)となっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／配偶者等の就労状況



性年代別にみると、男女ともに18-19歳を除く全ての年代で「正規の職員・従業員」が最も高くなっています。男性（配偶者等は女性）では18-19歳を除く全ての年代で「正規の職員・従業員」が4～5割程度となっていますが、20-29歳では「無職・家事専業」も「正規の職員・従業員」と同順となっています。また、年代が上がるにつれて「パート・アルバイト」の回答割合が高くなる一方、「無職・家事専業」は低くなっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／配偶者等の業種

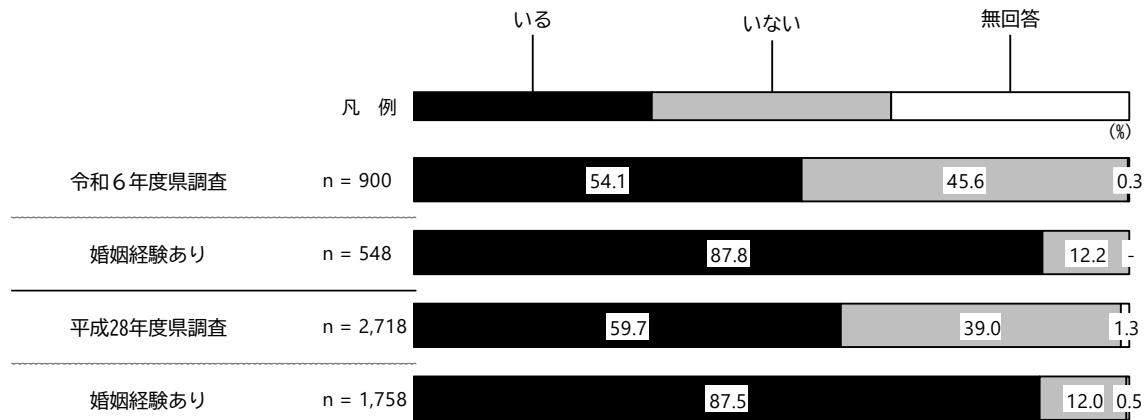


性年代別にみると、男性（配偶者等は女性）では18-19歳を除く全ての年代で「医療・福祉業」、女性（配偶者等は男性）では18-19歳を除く全ての年代で「製造業」が最も高くなっています。

1-8 子どもの有無及び人数

問8 あなたにはお子さんはいらっしゃいますか。 (○は1つ)

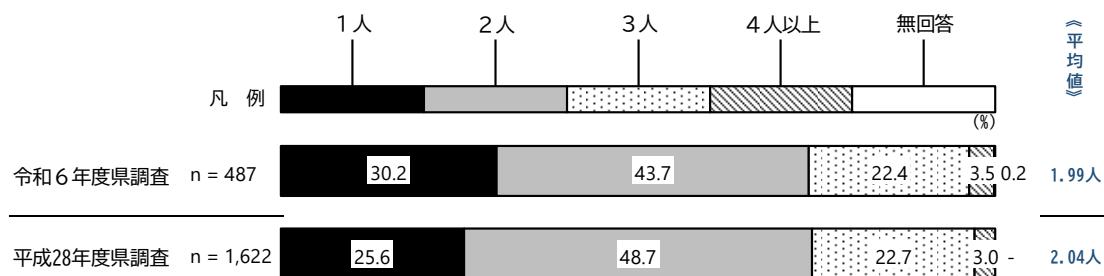
お子さんがいらっしゃる方は、お子さんの人数もお知らせください。 (数字で記入)



平成 28 年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」

子どもの有無については、「いる」が 54.1%、「いない」が 45.6% となっています。
 これを既婚者（現在は結婚していないが以前していた方を含む）のみの結果でみた場合、「いる」が 87.8% と 9 割弱を占めています。
 平成 28 年度県調査と比較すると、「いる」が 5.6 ポイント低くなっているものの、既婚者に限ってみると、ほぼ同水準となっています。

◆子どもの人数

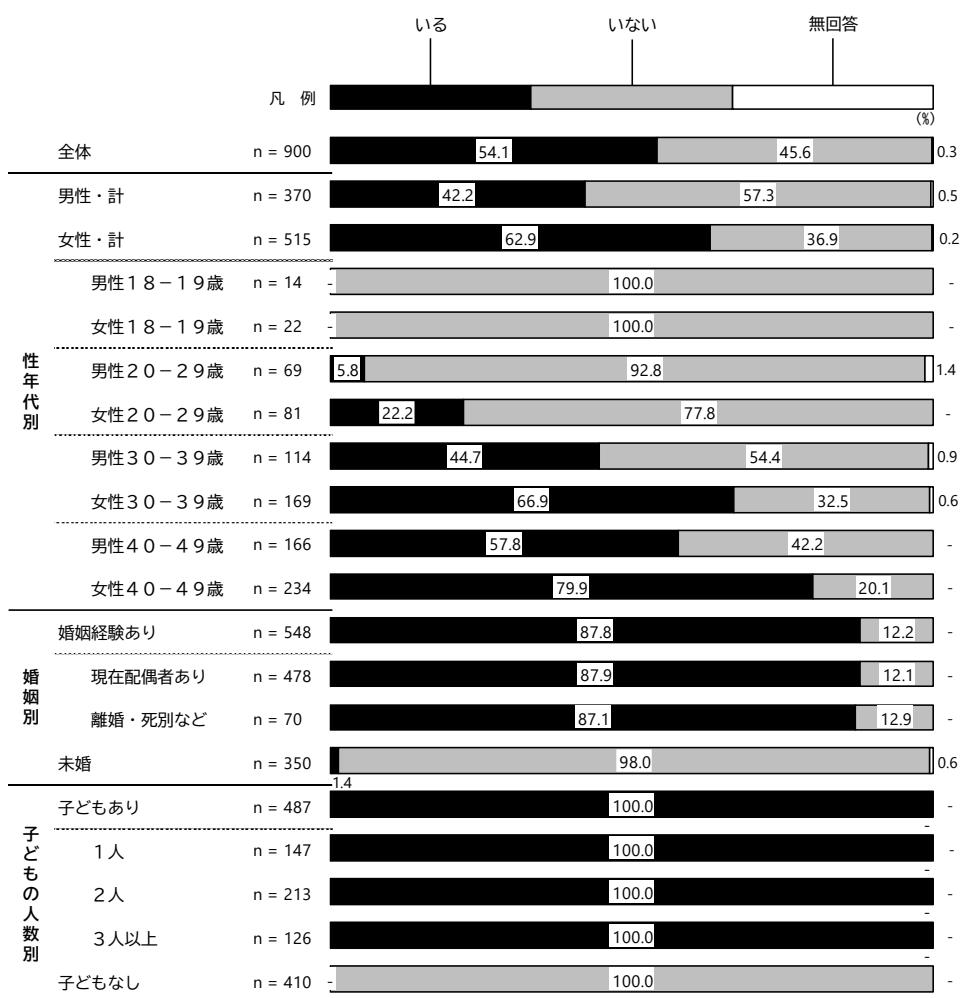


平成 28 年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」

子どもがいる場合の人数について、「2人」が 43.7% と最も高く、次いで「1人」(30.2%)、「3人」(22.4%) となっています。

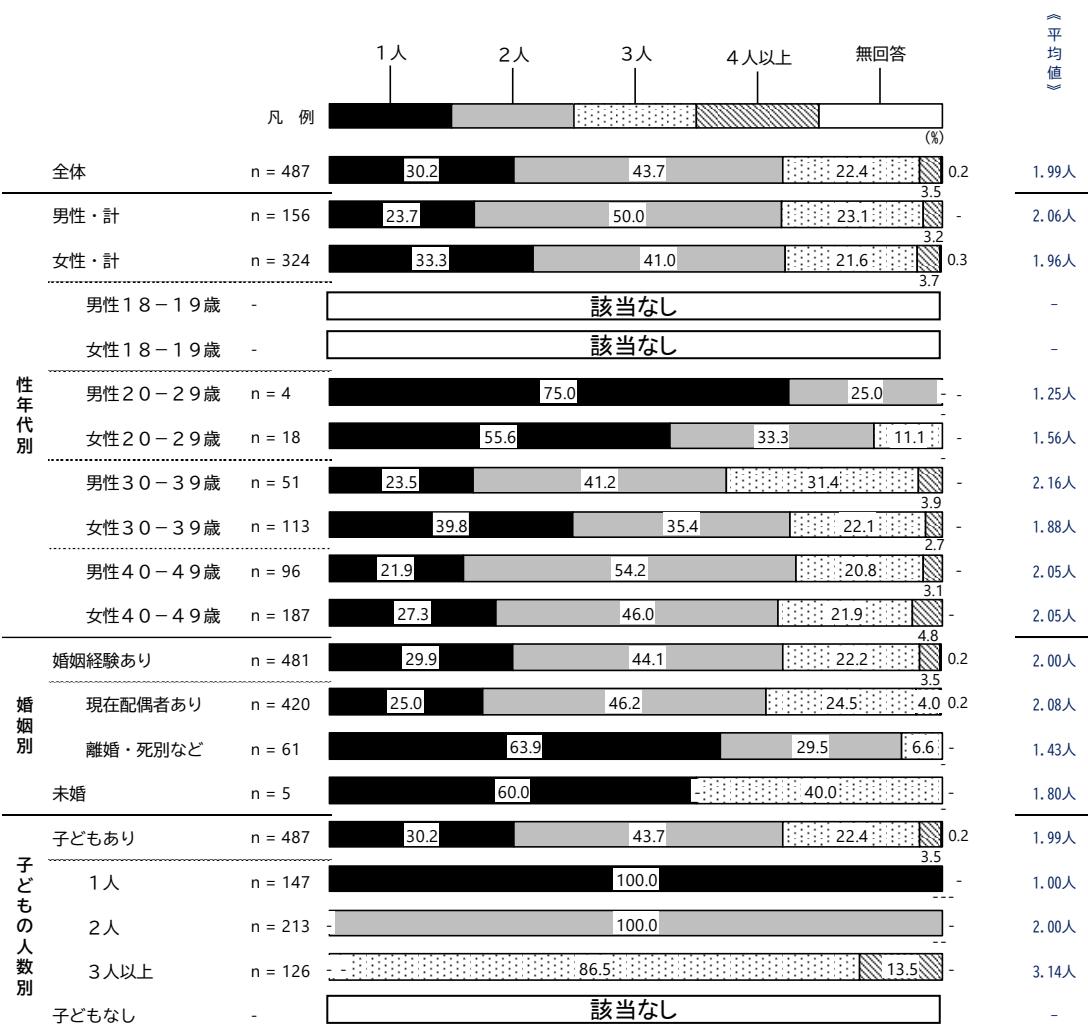
平成 28 年度県調査と比較すると、平均値が僅かに減少して 2 人を下回っているものの、子どもがいる場合の子どもの人数はほぼ平成 28 年度の平均値と変わりません。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／子どもの有無



性年代別にみると、いずれの年代でも男性では「いる」が女性に比べ低くなっています。特に男性 20-29 歳では女性の同年代に比べ 16.4 ポイント、男性 30-39 歳及び男性 40-49 歳では女性の同年代に比べ 20 ポイント以上低くなっています。

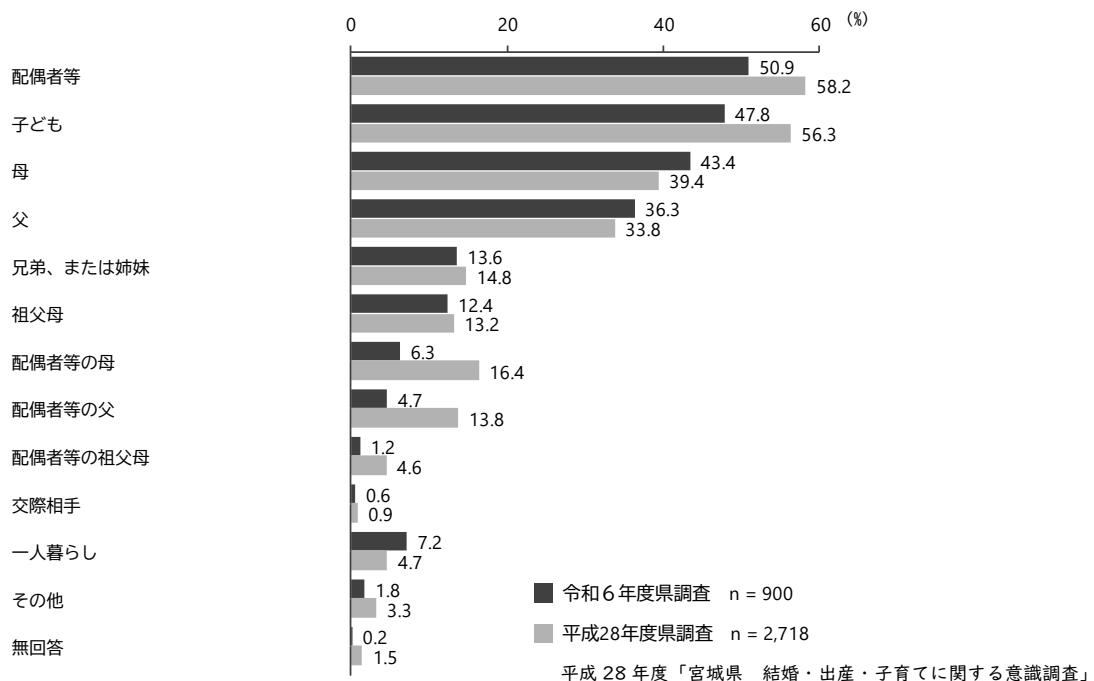
◆性年代別・婚姻別／子どもの人数



性年代別にみると、年代が上がるにつれて「2人」が高くなっています。また、女性30-39歳では「1人」が「2人」をやや上回っており、男性の同年代に比べ10ポイント以上高くなっています。

1-9 同居家族

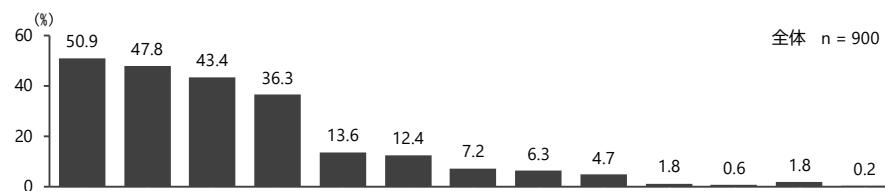
問9 現在どなたと一緒に暮らしていますか。あなたご自身からみた続柄でお答えください。(○はいくつでも)



同居家族については、「配偶者等」が50.9%と最も高く、次いで「子ども」(47.8%)、「母」(43.4%) となっています。

平成28年度県調査と比較すると、「配偶者等」「子ども」「配偶者等の母」「配偶者等の父」の回答割合が低くなっています。特に、「配偶者等の母」及び「配偶者等の父」は約10ポイント低くなっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／同居家族



		n	配偶者等	子ども	母	父	兄弟、または姉妹	祖父母	一人暮らし	配偶者等の母	配偶者等の父	配偶者等の祖父母	交際相手	その他	無回答
性年代別	男性・計	370	41.6	36.2	54.6	44.3	16.5	14.1	10.3	2.4	1.9	0.5	0.3	1.9	0.3
	男性18-19歳	14	-	-	64.3	50.0	35.7	35.7	28.6	-	-	-	-	-	-
	男性20-29歳	69	11.6	5.8	68.1	58.0	37.7	37.7	15.9	-	-	-	-	2.9	1.4
	男性30-39歳	114	46.5	42.1	49.1	42.1	14.0	10.5	9.6	3.5	2.6	0.9	-	3.5	-
	男性40-49歳	166	53.0	46.4	51.2	39.8	8.4	5.4	7.2	3.0	2.4	0.6	0.6	0.6	-
	女性・計	515	58.1	56.3	35.3	30.7	11.5	11.5	4.9	9.3	6.8	1.7	0.8	1.7	0.2
	女性18-19歳	22	-	-	81.8	72.7	54.5	40.9	18.2	-	-	-	-	4.5	-
	女性20-29歳	81	27.2	17.3	53.1	44.4	24.7	25.9	14.8	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	-
	女性30-39歳	169	63.3	62.1	30.8	28.4	8.3	11.8	2.4	6.5	5.3	1.8	1.2	3.0	0.6
	女性40-49歳	234	70.9	71.4	28.2	23.1	5.6	3.0	2.1	15.4	10.7	2.1	0.4	0.9	-
婚姻別	婚姻経験あり	548	83.4	77.6	23.4	18.6	3.8	5.1	1.3	10.4	7.7	2.0	0.5	0.5	-
	現在配偶者あり	478	95.6	79.1	17.6	14.2	2.7	4.2	0.4	11.9	8.8	2.3	-	0.6	-
	離婚・死別など	70	-	67.1	62.9	48.6	11.4	11.4	7.1	-	-	-	4.3	-	-
	未婚	350	0.3	1.1	74.9	64.3	28.9	24.0	16.6	-	-	-	0.6	3.7	0.3
子どもの人数別	子どもあり	487	83.4	88.3	23.4	18.9	4.1	4.9	1.0	10.9	8.2	2.1	0.2	0.6	-
	1人	147	68.0	85.0	29.9	20.4	6.1	6.1	2.0	8.2	4.8	2.0	-	-	-
	2人	213	87.8	87.8	20.7	17.4	3.8	4.2	0.9	10.3	8.0	1.9	0.5	1.4	-
	3人以上	126	93.7	93.7	20.6	19.8	2.4	4.8	-	15.1	12.7	2.4	-	-	-
	子どもなし	410	12.7	-	67.3	57.3	24.6	21.5	14.6	1.0	0.5	0.2	1.0	3.2	-

性年代別にみると、男女ともに「母」「父」「兄弟、または姉妹」「祖父母」は年代が上がるにつれて回答割合が低くなる一方、「配偶者等」及び「子ども」の回答割合は高くなっています。

婚姻別にみると、婚姻経験ありの中でも現在配偶者ありの方では父母との同居は2割未満となっています。

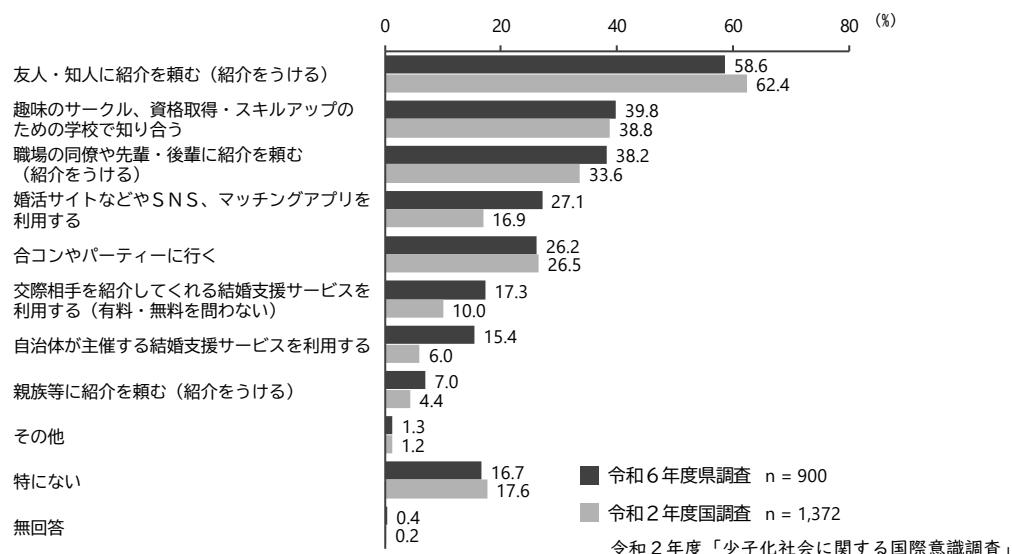
2 恋人との交際について

2-1 交際相手との出会いを求めるために必要な機会

問10 交際相手との出会いを求めるとしたら、どんな機会があるとよいですか。

※現在配偶者等や交際相手のいる方は、いないと仮定してお答えください。

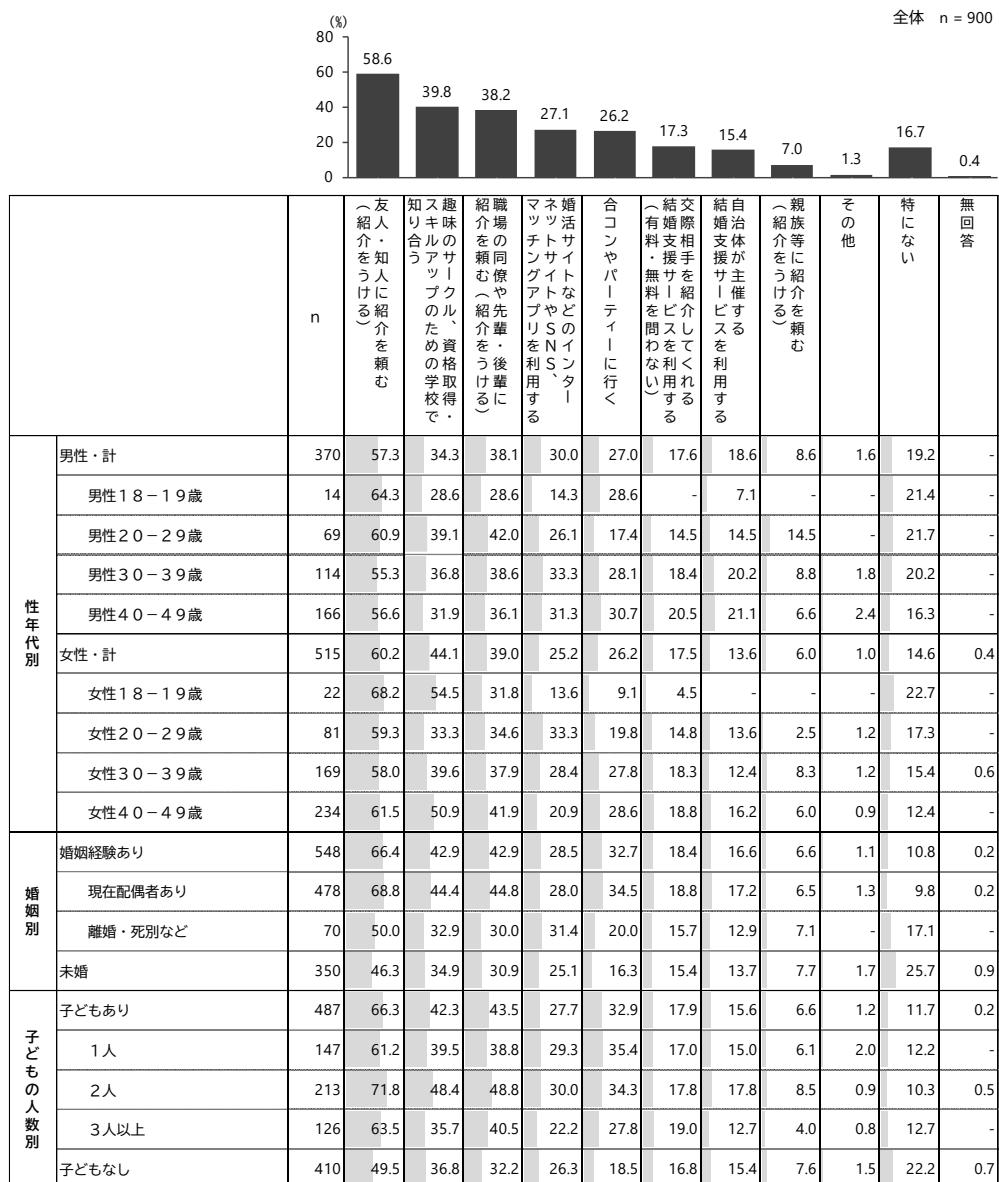
(○はいくつでも)



交際相手との出会いを求めるために必要な機会については、「友人・知人に紹介を頼む（紹介をうける）」が58.6%と最も高く、次いで「趣味のサークル、資格取得・スキルアップのための学校で知り合う」（39.8%）、「職場の同僚や先輩・後輩に紹介を頼む（紹介をうける）」（38.2%）となっています。

令和2年度国調査と比較すると、「婚活サイトなどやSNS、マッチングアプリを利用する」が10.2ポイント高くなっています。

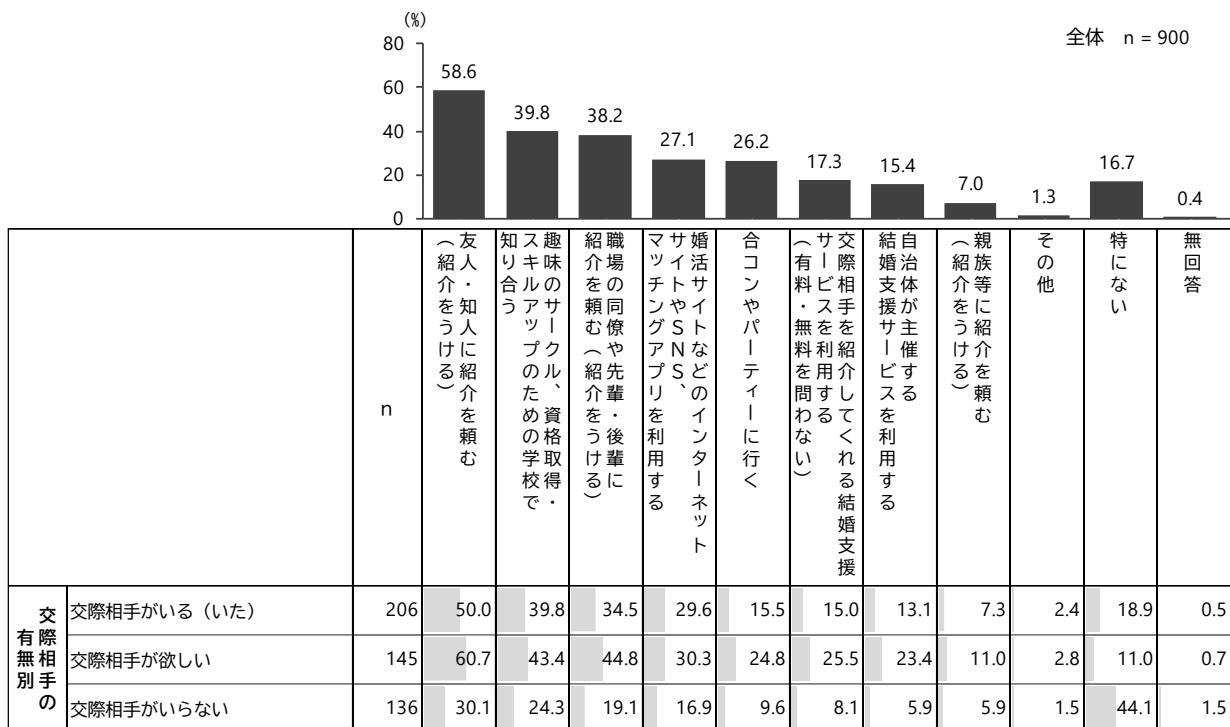
◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／交際相手との出会いを求めるために必要な機会



性年代別にみると、男女ともに全ての年代で「友人・知人に紹介を頼む（紹介をうける）」が最も高くなっています。次いで、男性では全ての年代で「職場の同僚や先輩・後輩に紹介を頼む（紹介をうける）」、女性では20-29歳を除く全ての年代で「趣味のサークル、資格取得・スキルアップのための学校で知り合う」が男性に比べて高く、特に、女性18-19歳で20ポイント以上、40-49歳で10ポイント以上同年代の男性に比べ高くなっています。また、男女ともに概ね年代が上がるにつれて「合コンやパーティーに行く」の回答割合が高くなっています。

婚姻別にみると、既婚者（現在は結婚していないが以前していた方を含む）では「親族等に紹介を頼む（紹介をうける）」を除いた項目で未婚者に比べ割合が高く、特に、「友人・知人に紹介を頼む（紹介をうける）」が20.1ポイント、「合コンやパーティーに行く」が16.4ポイント、「職場の同僚や先輩・後輩に紹介を頼む（紹介をうける）」が12.0ポイント高くなっています。一方、未婚者では既婚者と順位にそれほど違いはみられないものの全体的に割合が低く、「特にない」が14.9ポイント高くなっています。

◆交際相手の有無別／交際相手との出会いを求めるために必要な機会

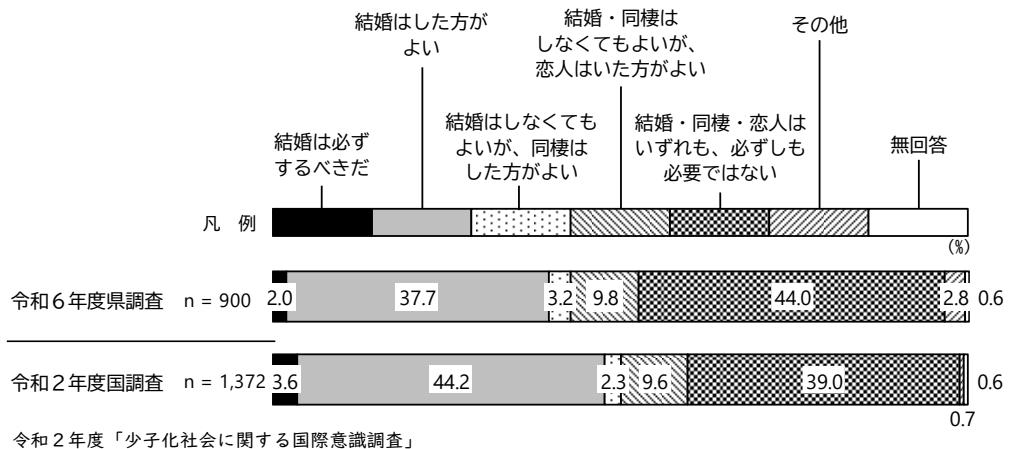


交際相手の有無別にみると、『交際相手が欲しい』方では「友人・知人に紹介を頼む（紹介をうける）」「職場の同僚や先輩・後輩に紹介を頼む（紹介をうける）」「交際相手を紹介してくれる結婚支援サービスを利用する（有料・無料を問わない）」「自治体が主催する結婚支援サービスを利用する」が『交際相手がいる（いた）』方に比べ 10 ポイント以上高くなっています。一方、『交際相手がいらない』方では全体的に回答割合が低く、「特にない」が 4 割を超えています。

3 結婚について

3-1 結婚に対する考え方

問11 結婚についてあなたの考えに近いものを、以下から1つ選んでください。 (○は1つ)

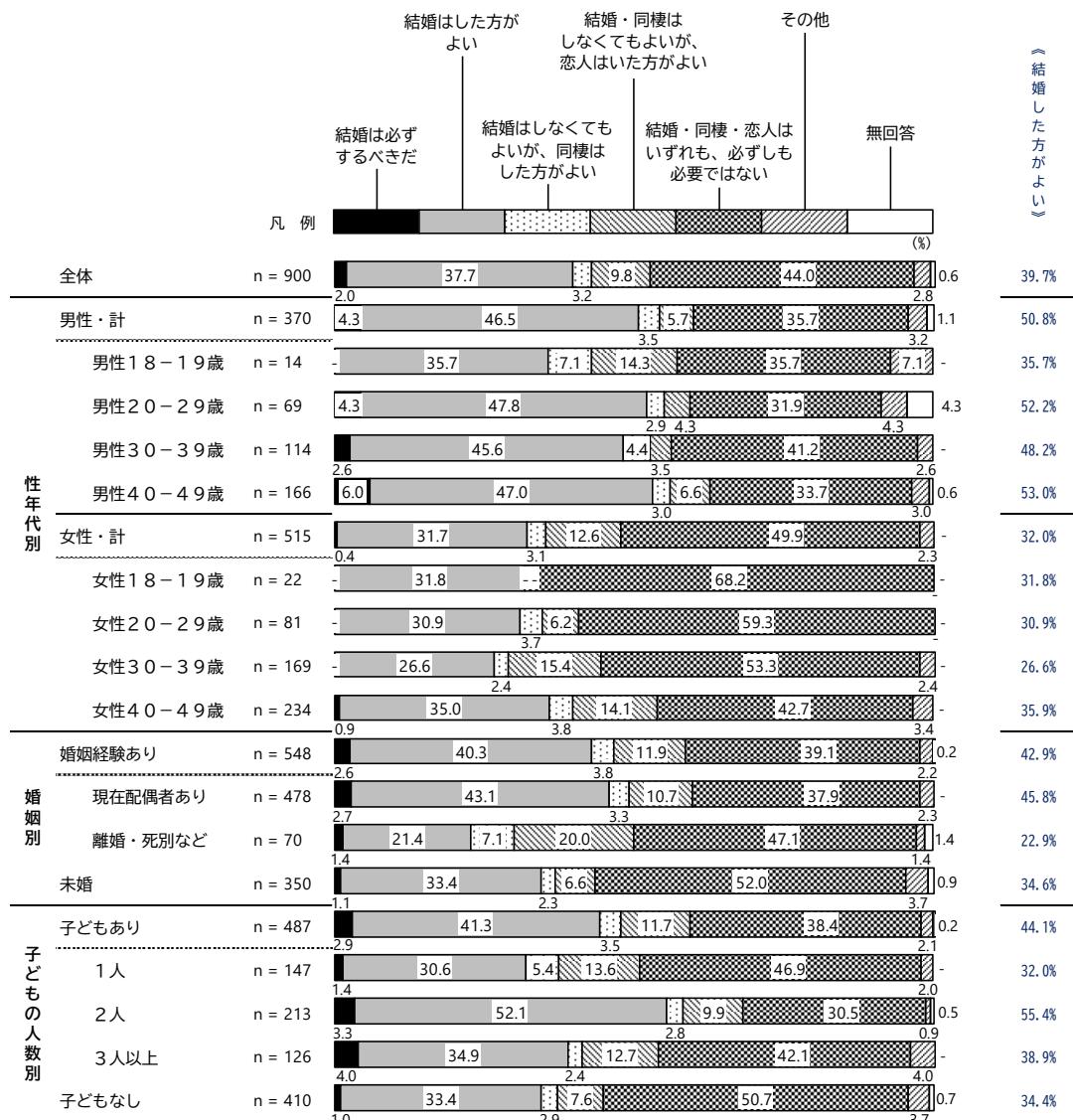


結婚に対する考え方について、「結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない」が44.0%と最も高く、次いで「結婚はした方がよい」(37.7%)、「結婚・同棲はしなくてもよいが、恋人はいた方がよい」(9.8%)となっています。

令和2年度国調査と比較すると、「結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない」が5.0ポイント高くなっている一方、「結婚はした方がよい」は6.5ポイント低くなっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／結婚に対する考え方

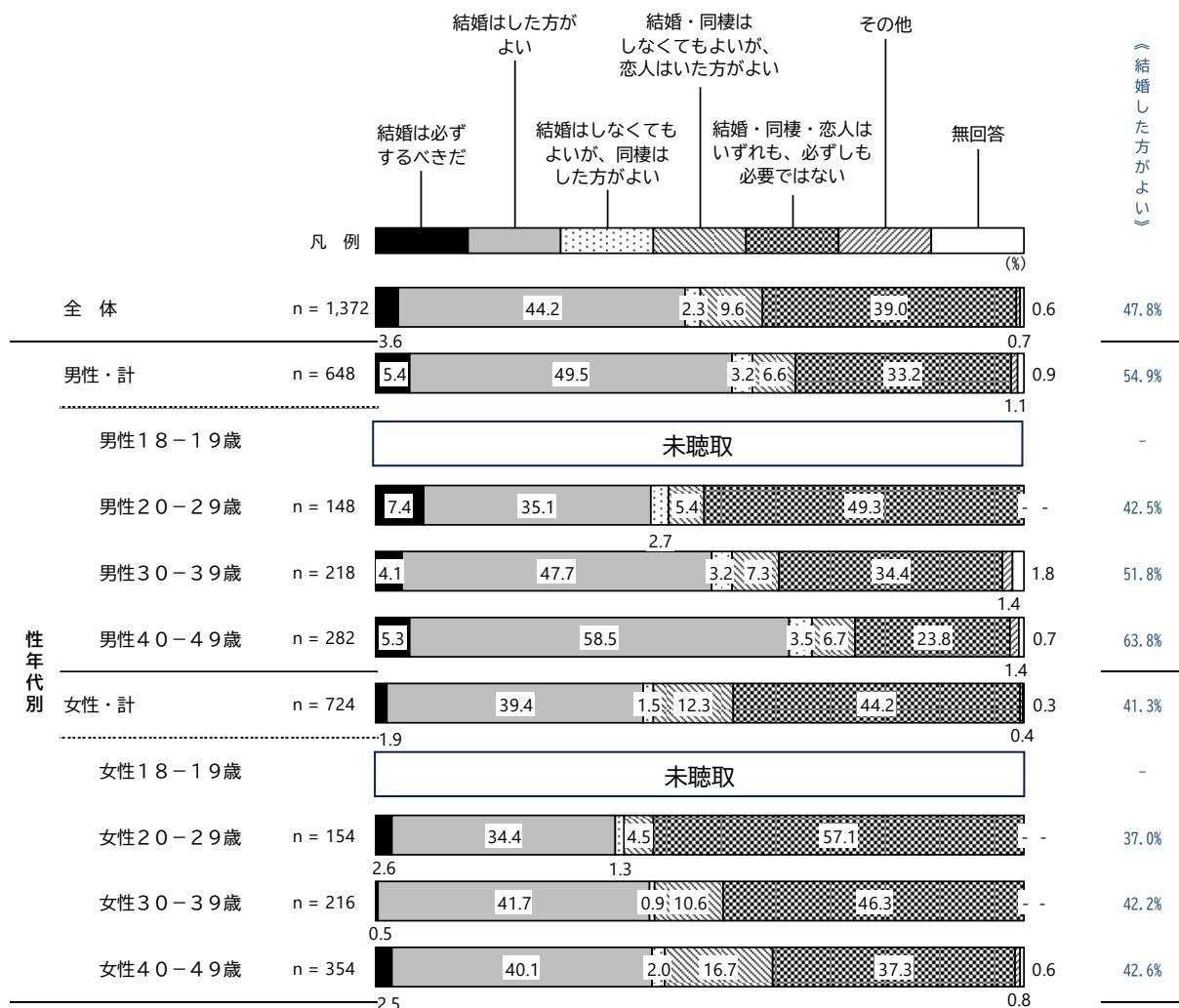
【令和6年度県調査】



性年代別にみると、男性・計では『結婚した方がよい』（「結婚は必ずすべきだ」 + 「結婚はした方がよい」の合計）が女性・計に比べ 18.8 ポイント高くなっている一方、女性・計では「結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない」が男性・計に比べ 14.2 ポイント高くなっています。全年代で概ね同様の傾向がみられます。

【令和2年度国調査】

令和2年度「少子化社会に関する国際意識調査」

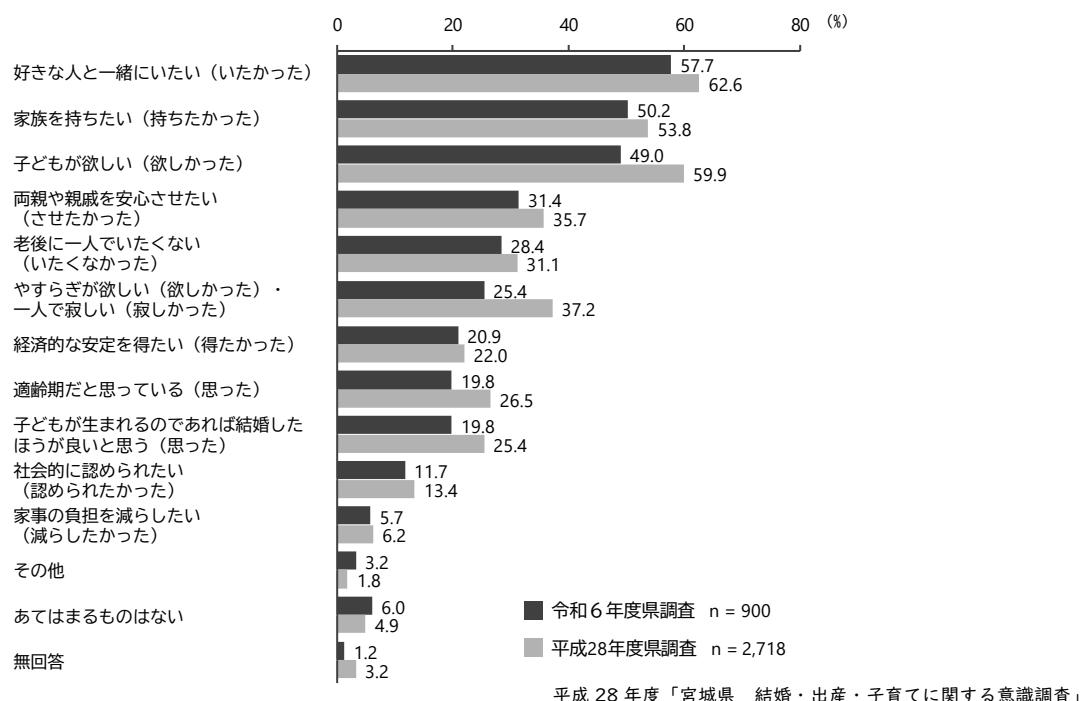


性年代別の集計結果について令和2年度国調査と比較すると、男性 20-29 歳では「結婚した方がよい」が国調査に比べ 9.7 ポイント高くなっている一方、それ以外の性年代では国調査に比べ「結婚した方がよい」が低く、特に、女性 30-39 歳で 15.6 ポイント、男性 40-49 歳で 10.8 ポイント低くなっています。

3-2 結婚したい（した）理由

問12 結婚の理由について伺います。現在未婚の方は、今後結婚したいと思う理由を、また現在結婚している方（これまで結婚の経験がある方）は、当時結婚した理由を教えてください。（○はいくつでも）
 また、その中で、結婚したい（した）最も大きな理由を教えてください。（○は1つ）
 ※結婚するつもりがない方は、結婚すると仮定してお答えください。

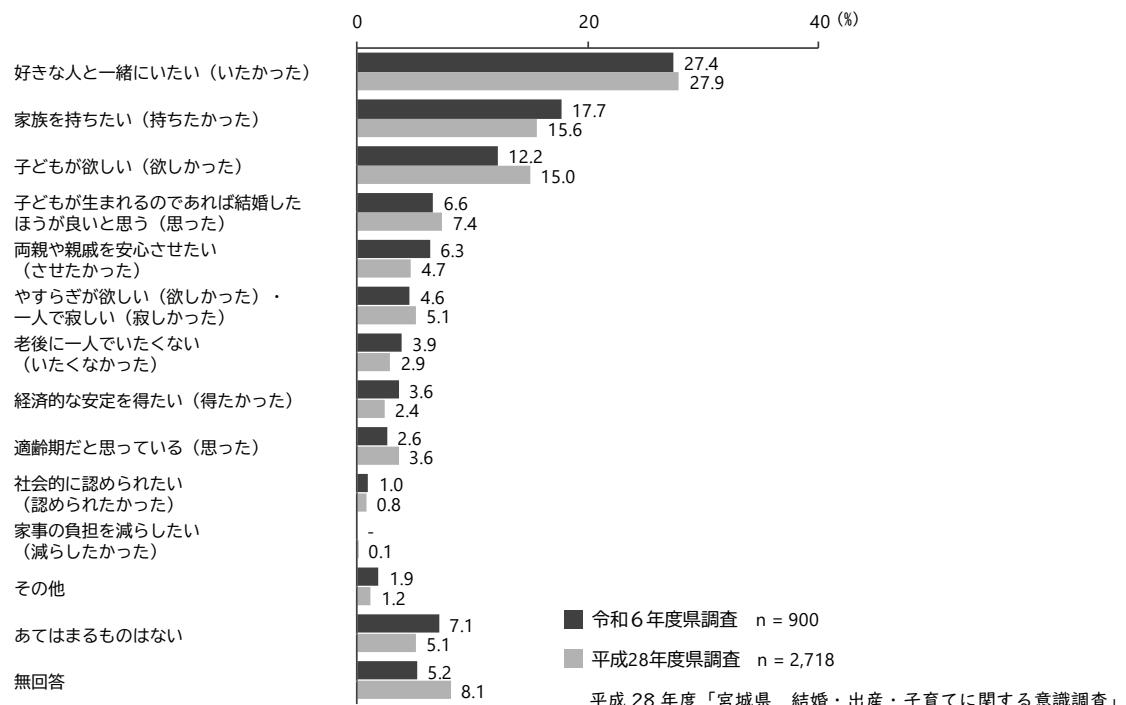
◆結婚したい（した）最も大きな理由（複数回答可）



結婚したい（した）理由（複数回答可）については、「好きな人と一緒にいたい（いたかった）」が57.7%と最も高く、次いで「家族を持ちたい（持ちたかった）」（50.2%）、「子どもが欲しい（欲しかった）」（49.0%）となっています。

平成28年度県調査と比較すると、「やすらぎが欲しい（欲しかった）・一人で寂しい（寂しかった）」が11.8ポイント、「子どもが欲しい（欲しかった）」が10.9ポイント低くなっています。

◆結婚したい（した）最も大きな理由（1つ選択）



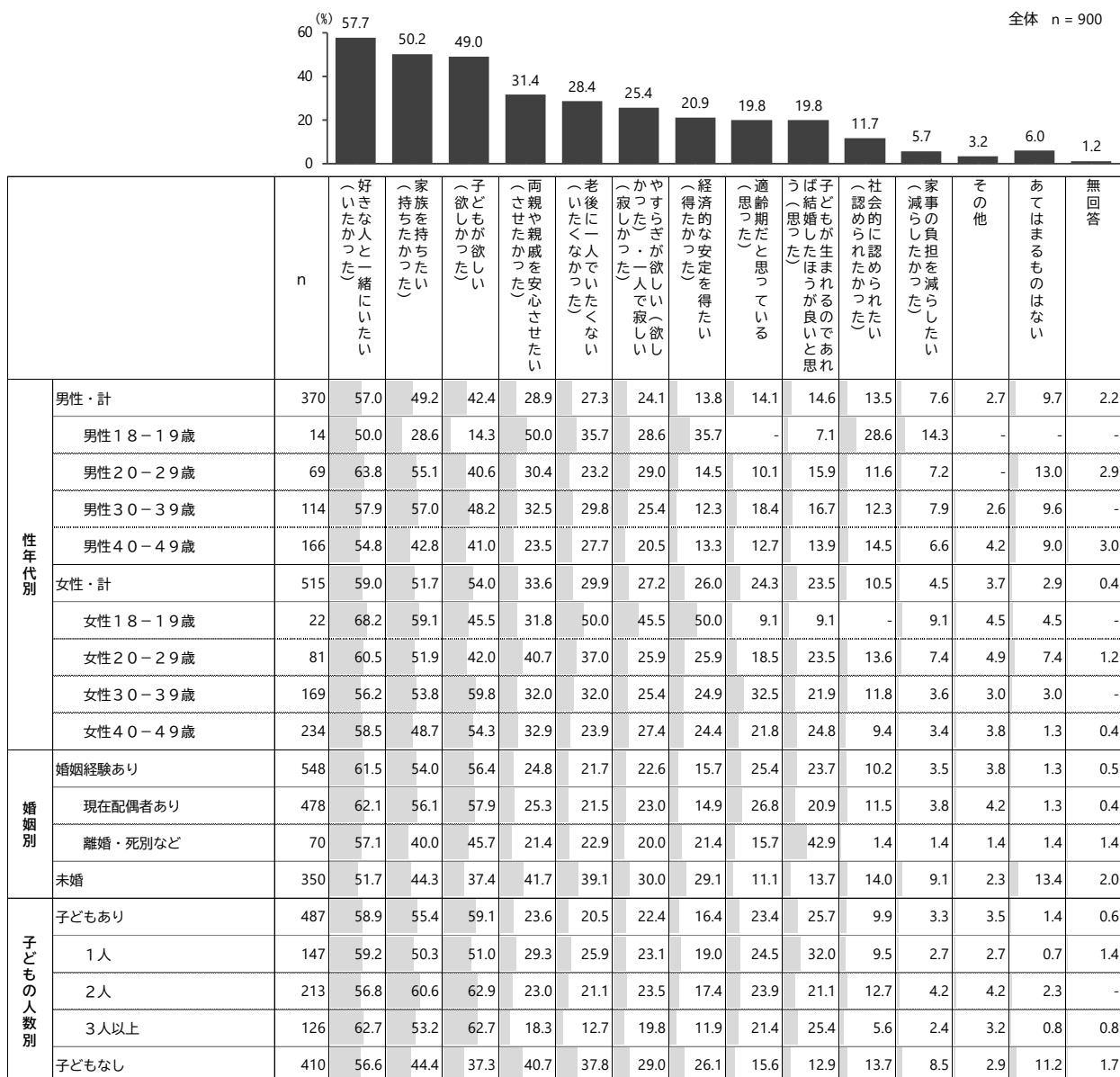
結婚したい（した）最も大きな理由（1つだけ選択）についても、前ページの複数回答可能な形での聴取結果と同様に、「好きな人と一緒にいたい（いたかった）」が 27.4% と最も高く、次いで「家族を持ちたい（持ちたかった）」（17.7%）、「子どもが欲しい（欲しかった）」（12.2%）となっています。

平成28年度県調査と比較しても、全体的な回答割合に大きな差はみられませんでした。

III 調査結果

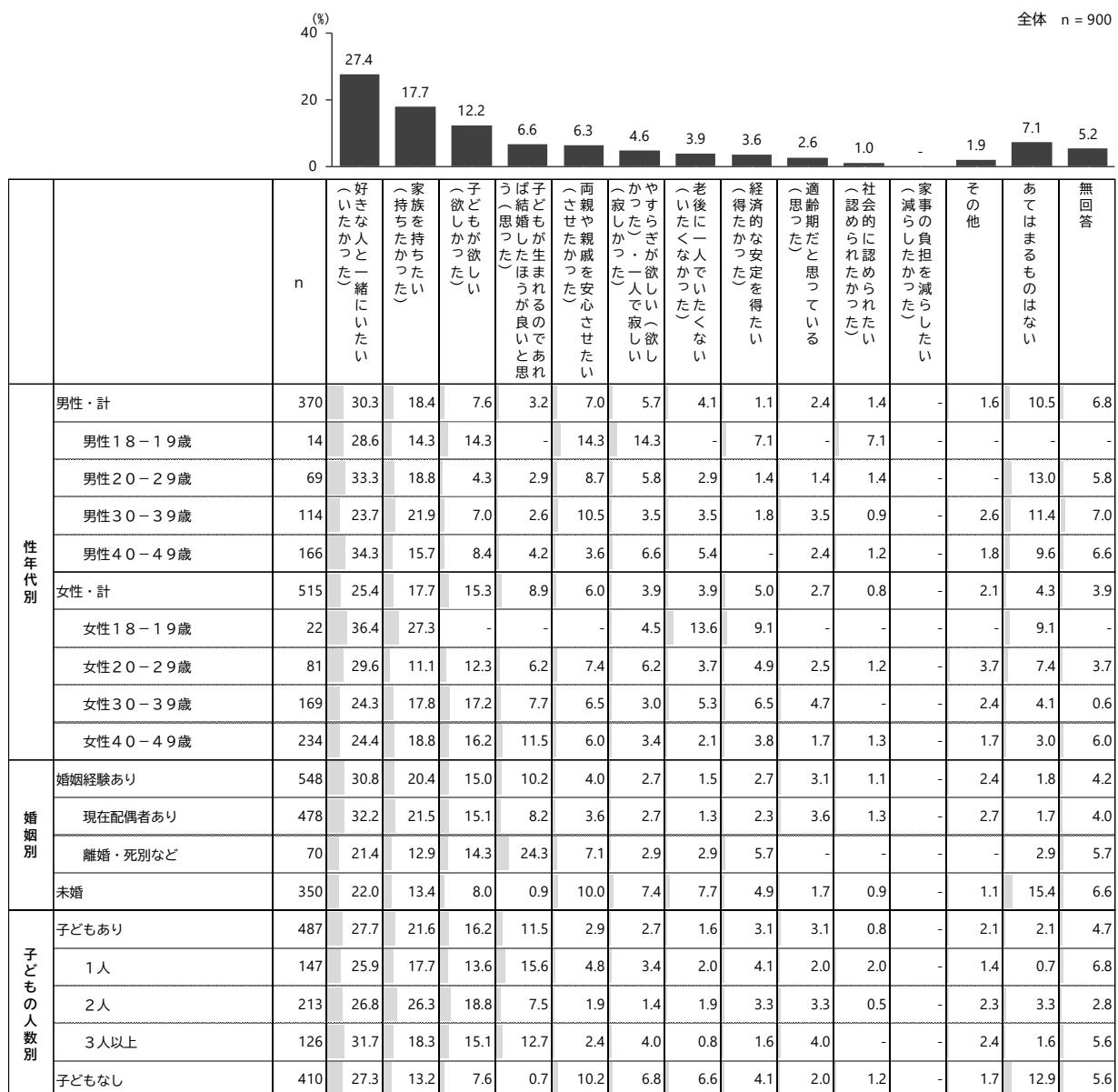
宮城県少子化施策等に関する意識調査

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／結婚したい（した）理由（複数回答可）



結婚したい（した）理由（複数回答可）を婚姻別にみると、未婚の方では「両親や親戚を安心させたい（させたかった）」「老後に一人でいたくない（いたくなかった）」「経済的な安定を得たい（得たかった）」が婚姻経験ありの方に比べ 10 ポイント以上高くなっています。一方、婚姻経験ありの方では「子どもが欲しい（欲しかった）」「適齢期だと思っている（思っていた）」「子どもが生まれるのであれば結婚したほうが良いと思う（思った）」が未婚の方に比べ 10 ポイント以上高くなっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／結婚したい（した）最も大きな理由（1つ選択）

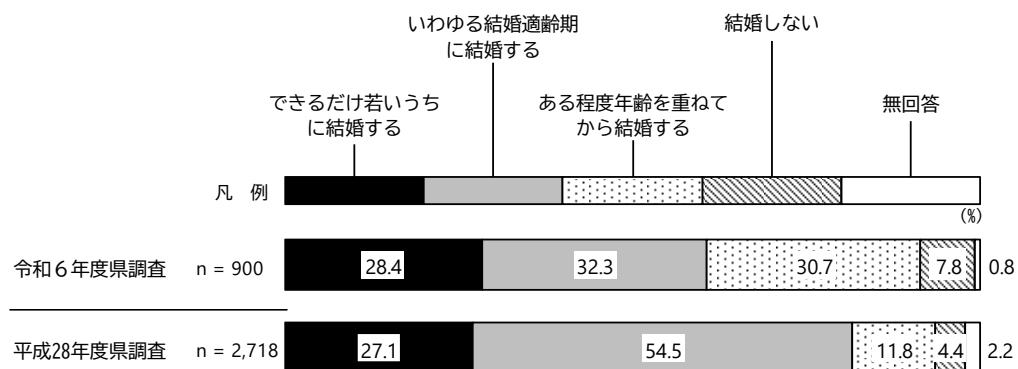


結婚したい（した）最も大きな理由（1つ選択）を性年代別、婚姻別、子どもの人数別にみると、離婚・死別などの方を除き「好きな人と一緒にいたい（いたかった）」が最も高くなっています。一方、離婚・死別などの方では「子どもが生まれるのであれば結婚したほうが良いと思う（思った）」が最も高くなっています。

性年代別にみると、男性 18-19 歳では同年代の女性に比べ「家族を持ちたい（持ちたかった）」が、男性 30-39 歳では同年代の女性に比べ「子どもが欲しい（欲しかった）」が 10 ポイント以上低くなっています。

3-3 理想の結婚時期

問13 あなたが理想とする結婚の時期について伺います。実際にどうであるかは別として、あなたにとってこうしたい(こうしたかった)というものをお選びください。
(○は1つ)

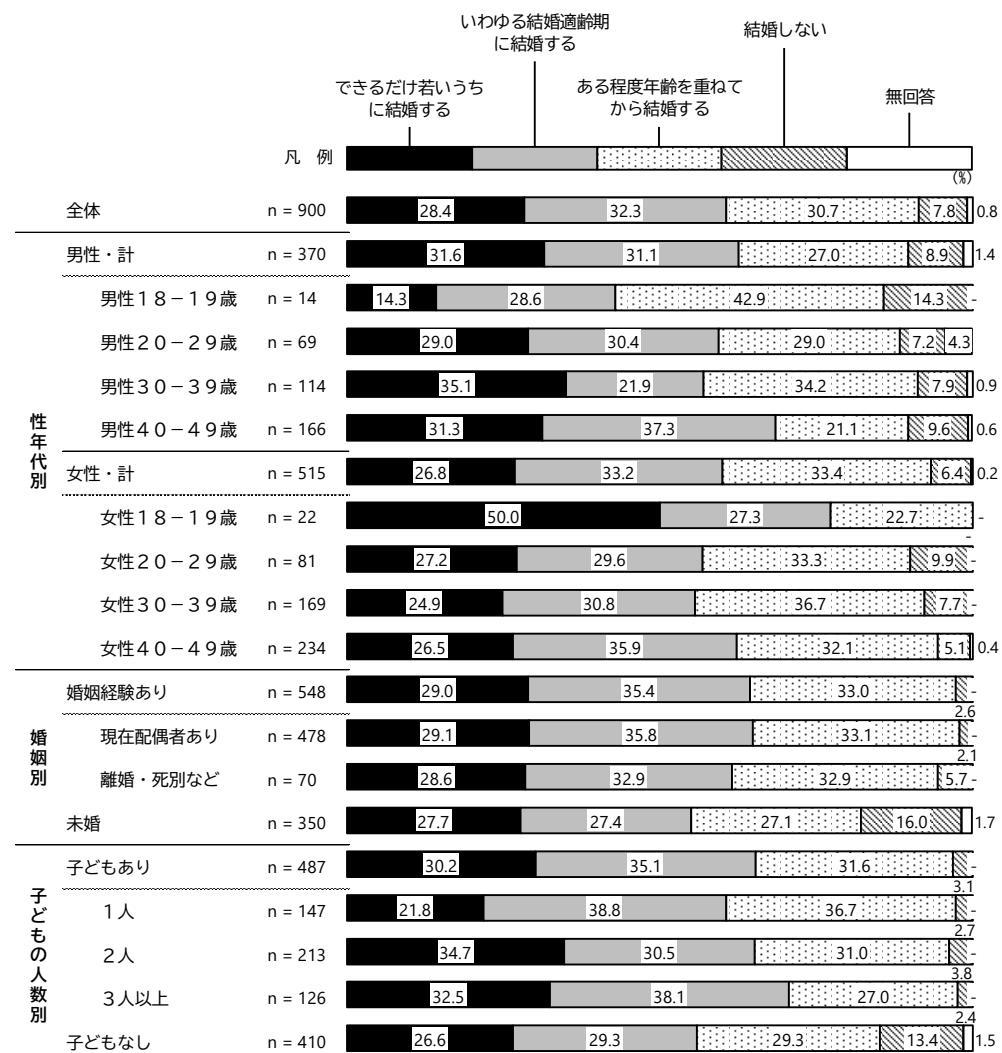


平成28年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」

理想の結婚時期については、「いわゆる結婚適齢期に結婚する」が32.3%と最も高く、次いで「ある程度年齢を重ねてから結婚する」(30.7%)、「できるだけ若いうちに結婚する」(28.4%)となっています。

平成28年度県調査と比較すると、「ある程度年齢を重ねてから結婚する」が18.9ポイント高くなっている一方、「いわゆる結婚適齢期に結婚する」は22.2ポイントと大幅に低くなっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／理想の結婚時期

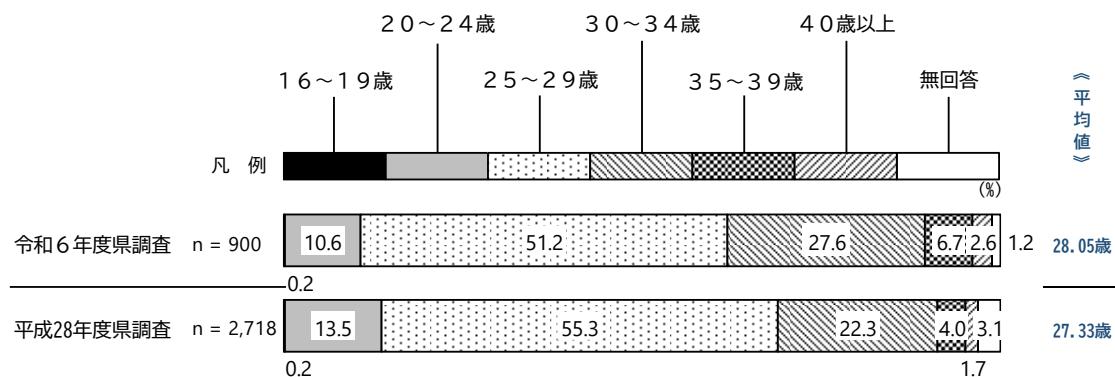


性年代別にみると、男性・計では「できるだけ若いうちに結婚する」が女性・計に比べ 4.8 ポイント高く、一方女性・計では「ある程度年齢を重ねてから結婚する」が男性・計に比べ 6.4 ポイント高くなっています。

婚姻別にみると、未婚の方では「結婚しない」が婚姻経験ありの方に比べ 13.4 ポイント高くなっています。

3-4 理想の結婚年齢

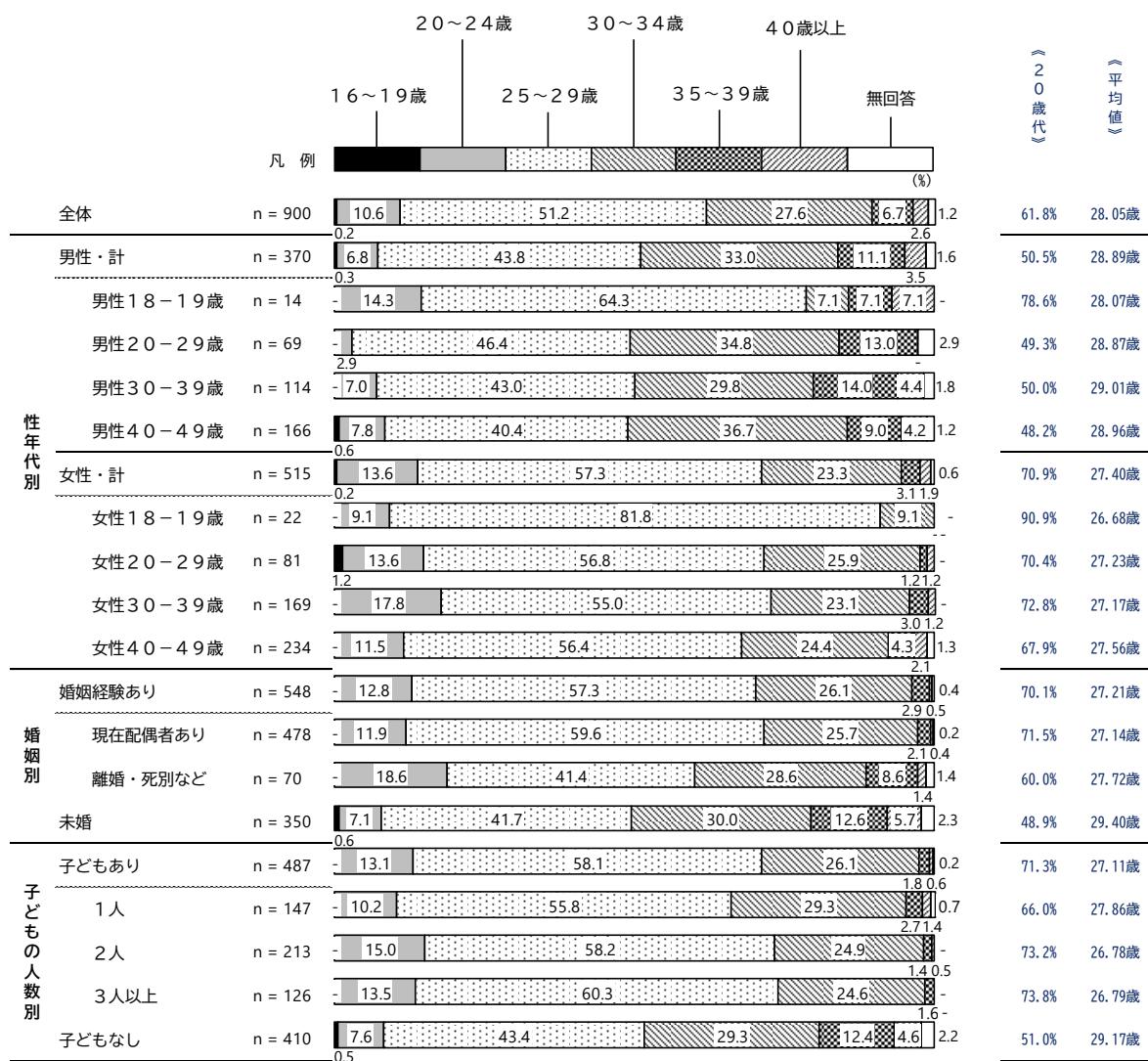
問14 あなたご自身は、理想的には何歳くらいで結婚するのが良いと思いますか。実際にどうであるかは別として、あなたにとっての理想の年齢をお答えください。
※結婚するつもりがない方は、結婚すると仮定してお答えください。（数字を記入）



平成 28 年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」

理想の結婚年齢について、年齢を 5 歳ごとに区分して集計したところ、「25～29 歳」が 51.2% と最も高く、次いで「30～34 歳」（27.6%）、「20～24 歳」（10.6%）となっています。平成 28 年度県調査と比較すると、「20～24 歳」及び「25～29 歳」といった低い年齢では僅かに回答割合が低くなっている一方、それ以上の年齢では高くなっています。平均値としても 0.72 歳と僅かに高くなっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／理想の結婚年齢



性年代別にみると、《20歳代》（「20~24歳」+「25~29歳」の合計）では18~19歳を除く年代で男性は約50%となっている一方、女性は約70%となっています。

また、平均値は性年代別、婚姻別、子どもの人数別にみると、いずれも28歳前後となっています。

◆理想の結婚年齢

性年代別・婚姻別・子どもの人数別／理想の結婚時期（平均値）

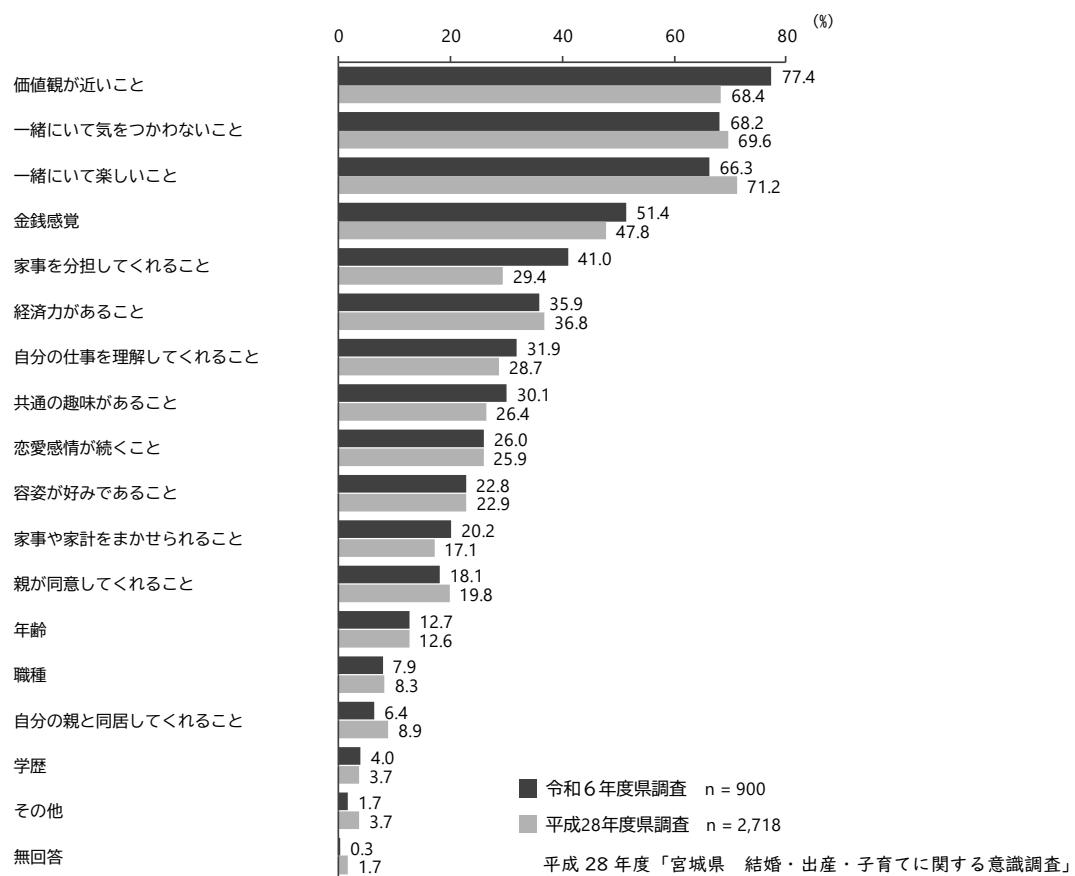
【理想の結婚の時期】					
理想の結婚年齢	できるだけ若いうちに結婚する	いわゆる結婚適齢期に結婚する	ある程度年齢を重ねてから結婚する	結婚しない	
全体	28.05歳	25.95歳	28.80歳	28.91歳	29.23歳
性年代別					
男性・計	28.89歳	26.93歳	29.95歳	29.77歳	29.26歳
男性18～19歳	28.07歳	24.00歳	26.00歳	31.83歳	25.00歳
男性20～29歳	28.87歳	26.90歳	29.29歳	29.80歳	31.00歳
男性30～39歳	29.01歳	26.56歳	30.76歳	29.85歳	31.11歳
男性40～49歳	28.96歳	27.35歳	30.24歳	29.31歳	28.00歳
女性・計	27.40歳	25.10歳	28.04歳	28.33歳	29.00歳
女性18～19歳	26.68歳	25.73歳	28.00歳	27.20歳	-
女性20～29歳	27.23歳	25.59歳	27.21歳	27.56歳	30.75歳
女性30～39歳	27.17歳	24.69歳	28.17歳	28.16歳	26.38歳
女性40～49歳	27.56歳	25.05歳	28.12歳	28.55歳	31.00歳
婚姻別					
婚姻経験あり	27.21歳	25.01歳	28.21歳	27.95歳	29.00歳
現在配偶者あり	27.14歳	24.99歳	28.11歳	27.80歳	30.22歳
離婚・死別など	27.72歳	25.10歳	29.00歳	29.05歳	26.25歳
未婚	29.40歳	27.50歳	30.00歳	30.72歳	29.28歳
子どもの人数別					
子どもあり	27.11歳	24.97歳	28.14歳	27.75歳	29.73歳
1人	27.86歳	25.22歳	28.65歳	28.36歳	31.25歳
2人	26.78歳	24.96歳	27.97歳	27.36歳	29.13歳
3人以上	26.79歳	24.78歳	27.81歳	27.56歳	29.33歳
子どもなし	29.17歳	27.28歳	29.74歳	30.28歳	29.08歳

理想の結婚時期ごとに理想の結婚年齢の平均値をみると、「できるだけ若いうちに結婚する」と回答した方の平均値は25歳前後となっていますが、「いわゆる結婚適齢期に結婚する」及び「ある程度年齢を重ねてから結婚する」と回答した方の平均値に大きな差はみられず、いずれも28～29歳前後となっています。

また、性年代別にみると、女性では男性に比べ結婚適齢期の年齢の認識が早くなっています。

3-5 結婚相手に望むこと

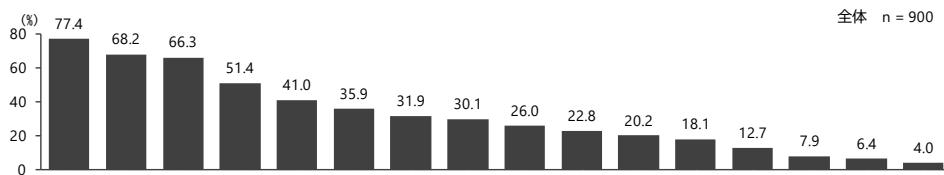
問15 結婚相手に望むことは何ですか(何でしたか)。(○はいくつでも)
※結婚するつもりがない方は、結婚すると仮定してお答えください。



結婚相手に望むことについては、「価値観が近いこと」が77.4%と最も高く、次いで「一緒にいて気をつかわないこと」(68.2%)、「一緒にいて楽しいこと」(66.3%)となっています。

平成28年度県調査と比較すると、「価値観が近いこと」が9.0ポイント、「家事を分担してくれること」が11.6ポイント高くなっています。また、平成28年度県調査では、「一緒にいて楽しいこと」(71.2%)、「一緒にいて気をつかわないこと」(69.6%)、「価値観が近いこと」(68.4%)の順に回答割合が高くなっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／結婚相手に望むこと

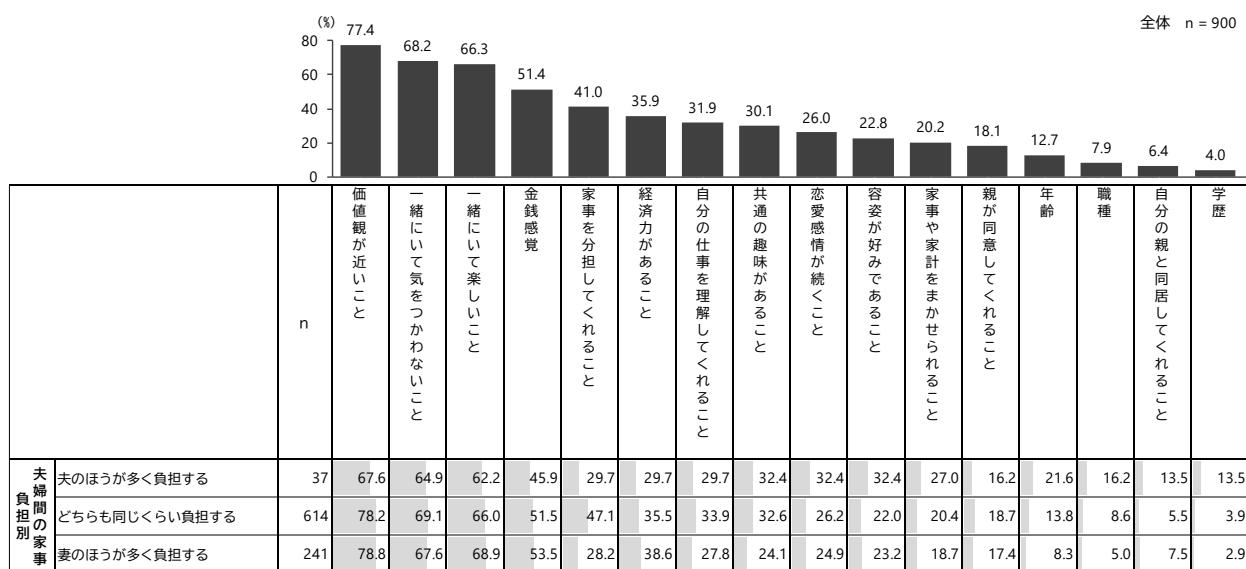


	n	価値観が近いこと	気と一緒にいかでないこと	一緒にいて楽しいこと	金銭感覚	家事を分担してくれること	経済力があること	理解して仕事をくれること	共通の趣味があること	恋愛感情が続くこと	容姿が好みであること	こ家事や家計をまかせられる	親が同意してくれること	年齢	職種	こと自分の親と同居してくれる	学歴	
性年代別	男性・計	370	73.0	62.7	63.5	38.4	22.4	10.0	33.8	29.5	25.7	23.2	21.1	10.0	13.5	4.3	6.8	2.7
	男性18～19歳	14	71.4	78.6	85.7	50.0	42.9	21.4	42.9	50.0	35.7	35.7	35.7	7.1	28.6	7.1	-	7.1
	男性20～29歳	69	72.5	68.1	69.6	42.0	26.1	13.0	36.2	44.9	20.3	26.1	17.4	14.5	18.8	7.2	8.7	2.9
	男性30～39歳	114	77.2	68.4	56.1	43.0	30.7	7.9	36.0	28.9	23.7	22.8	17.5	11.4	14.9	4.4	4.4	3.5
	男性40～49歳	166	70.5	55.4	65.7	33.1	14.5	9.0	30.7	22.9	28.9	22.3	24.1	7.2	7.8	3.0	7.8	1.8
	女性・計	515	81.2	72.4	69.7	61.2	55.0	54.8	30.5	30.9	26.8	22.9	20.0	23.9	12.4	10.7	6.2	5.0
	女性18～19歳	22	77.3	77.3	63.6	72.7	59.1	68.2	50.0	27.3	27.3	22.7	9.1	27.3	13.6	22.7	9.1	4.5
	女性20～29歳	81	77.8	69.1	69.1	63.0	64.2	50.6	27.2	33.3	34.6	30.9	34.6	34.6	17.3	16.0	7.4	6.2
	女性30～39歳	169	81.1	70.4	75.1	61.5	53.3	51.5	31.4	28.4	27.2	22.5	20.1	23.1	11.2	7.1	4.7	5.9
	女性40～49歳	234	83.8	74.4	67.1	60.3	53.8	57.3	29.1	32.9	23.9	20.5	15.8	19.7	11.5	10.7	6.8	4.3
婚姻別	婚姻経験あり	548	79.0	68.2	70.1	50.5	43.4	39.8	32.1	25.9	25.4	20.6	19.2	17.9	10.8	7.3	6.0	3.5
	現在配偶者あり	478	78.7	68.2	70.7	50.6	43.5	39.1	31.6	24.5	24.7	19.7	18.2	18.0	10.7	7.9	5.9	3.1
	離婚・死別など	70	81.4	68.6	65.7	50.0	42.9	44.3	35.7	35.7	30.0	27.1	25.7	17.1	11.4	2.9	7.1	5.7
	未婚	350	75.1	68.3	60.9	52.9	37.4	30.0	31.7	36.9	27.1	26.3	22.0	18.6	15.7	8.9	6.9	4.9
子どもの人数別	子どもあり	487	78.9	68.6	68.4	51.5	43.5	40.9	31.6	24.8	25.7	19.5	21.1	17.5	10.9	7.8	5.3	3.5
	1人	147	81.6	70.7	74.8	59.2	48.3	42.9	36.7	32.7	29.9	19.7	18.4	23.8	13.6	7.5	5.4	4.8
	2人	213	77.5	67.6	64.3	51.2	42.3	39.4	30.0	18.3	22.1	16.4	23.9	11.3	10.3	9.9	5.2	3.3
	3人以上	126	78.6	67.5	68.3	42.9	40.5	41.3	28.6	27.0	27.0	24.6	19.8	20.6	8.7	4.8	5.6	2.4
	子どもなし	410	76.1	68.0	63.9	51.5	38.0	30.0	32.2	36.3	26.6	26.8	19.3	19.0	14.9	8.0	7.8	4.6

※「その他」「特ない」「無回答」は非掲載

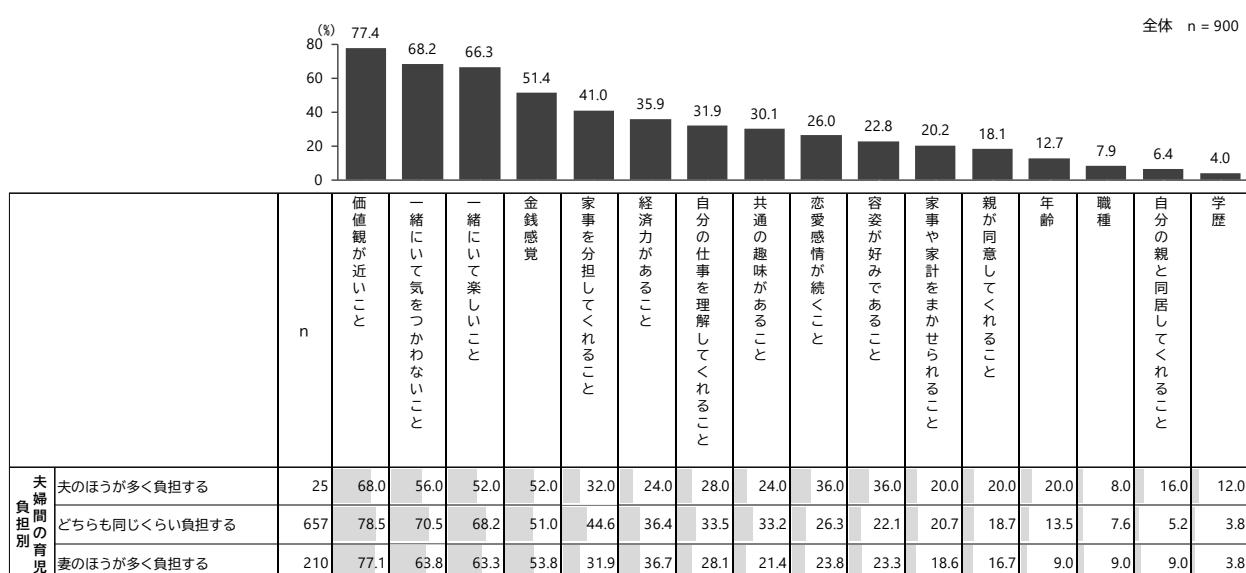
性年代別にみると、「家事を分担してくれること」及び「経済力があること」ではいずれの年代でも女性が男性に比べ10ポイント以上高くなっています。

◆夫婦間の家事負担別／結婚相手に望むこと



※「その他」「無回答」は非掲載

◆夫婦間の育児負担別／結婚相手に望むこと



※「その他」「無回答」は非掲載

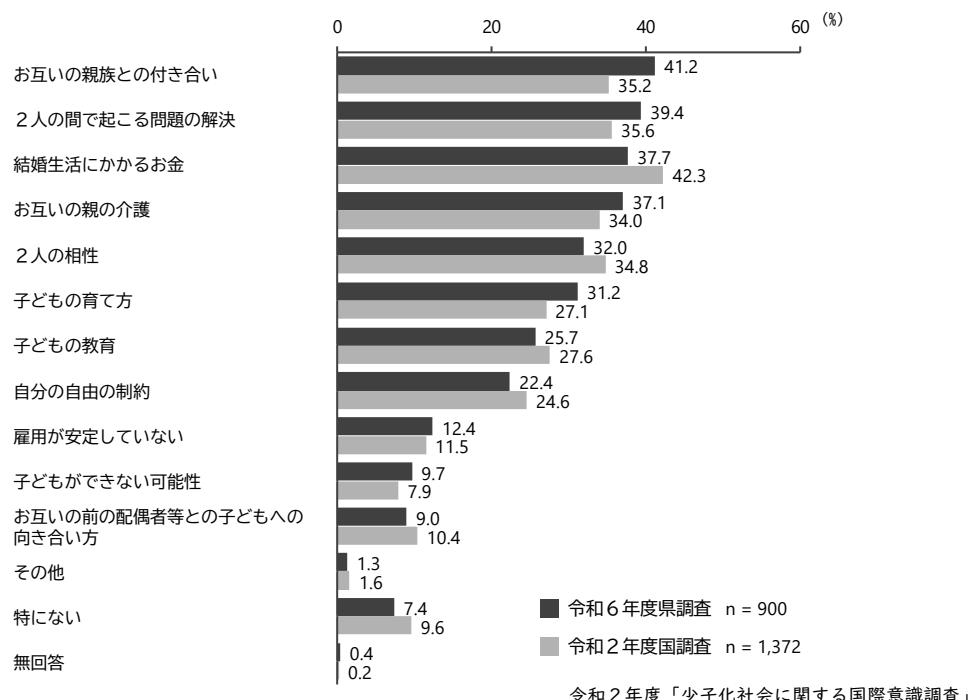
夫婦間の家事負担別・育児負担別にみると、『どちらも同じくらい負担する』方では「家事を分担してくれること」が『夫のほうが多く負担する』方と『妻のほうが多く負担する』方に比べ10ポイント以上高くなっています。

3-6 結婚生活で不安に感じること

問16 あなたが、結婚生活について不安に感じることは何ですか。あなたの考えに近いものをいくつでもお選びください。 (○はいくつでも)

※同棲している方は、同棲相手との生活についてお答えください。

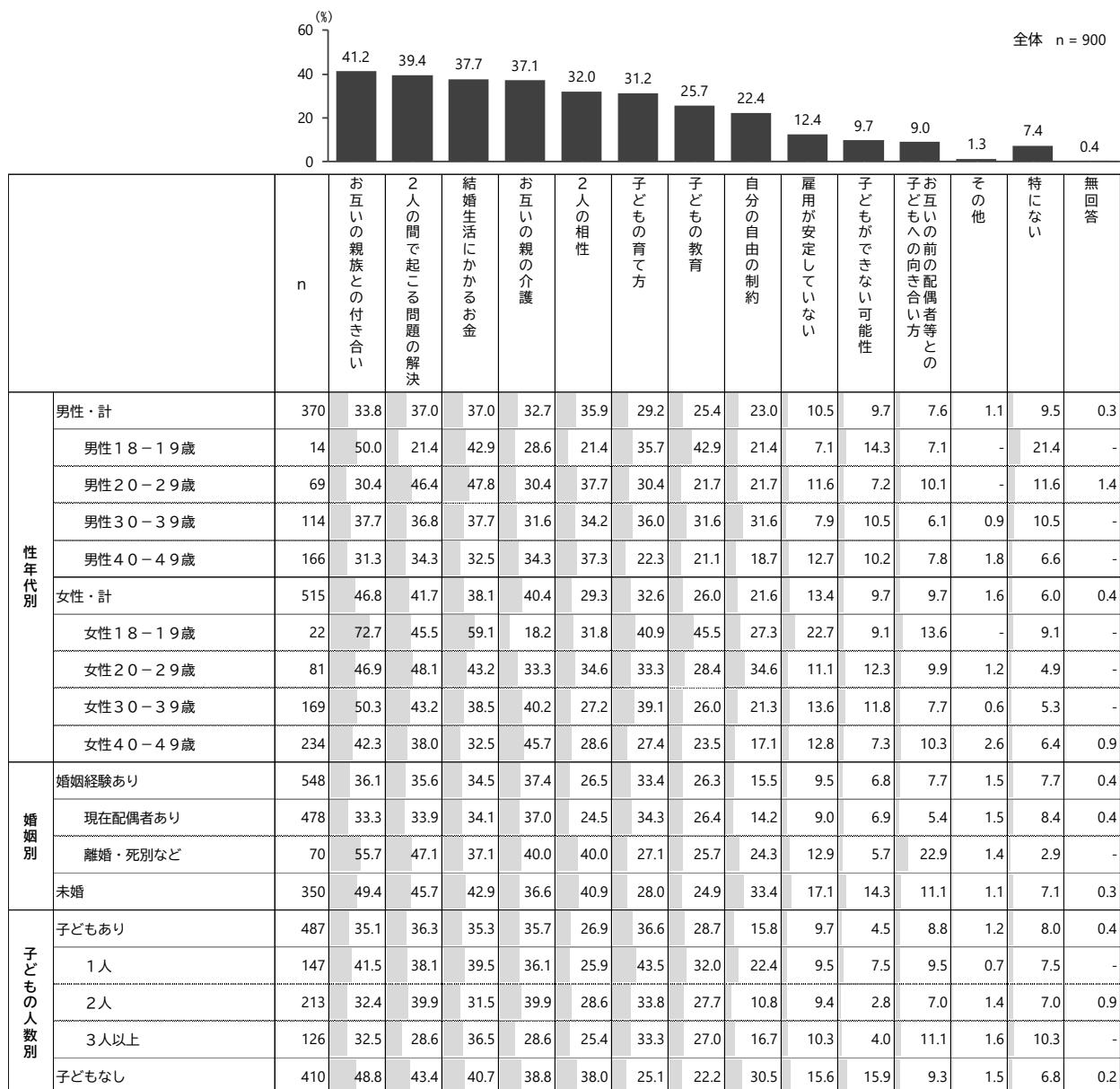
※結婚するつもりがない方は、結婚すると仮定してお答えください。



結婚生活で不安に感じることについては、「お互いの親族との付き合い」が41.2%と最も高く、次いで「2人の間で起こる問題の解決」(39.4%)、「結婚生活にかかるお金」(37.7%)となっています。

令和2年度国調査と比較すると、「お互いの親族との付き合い」は6.0ポイント高くなっているものの、全体的な回答結果に大きな差はみられませんでした。

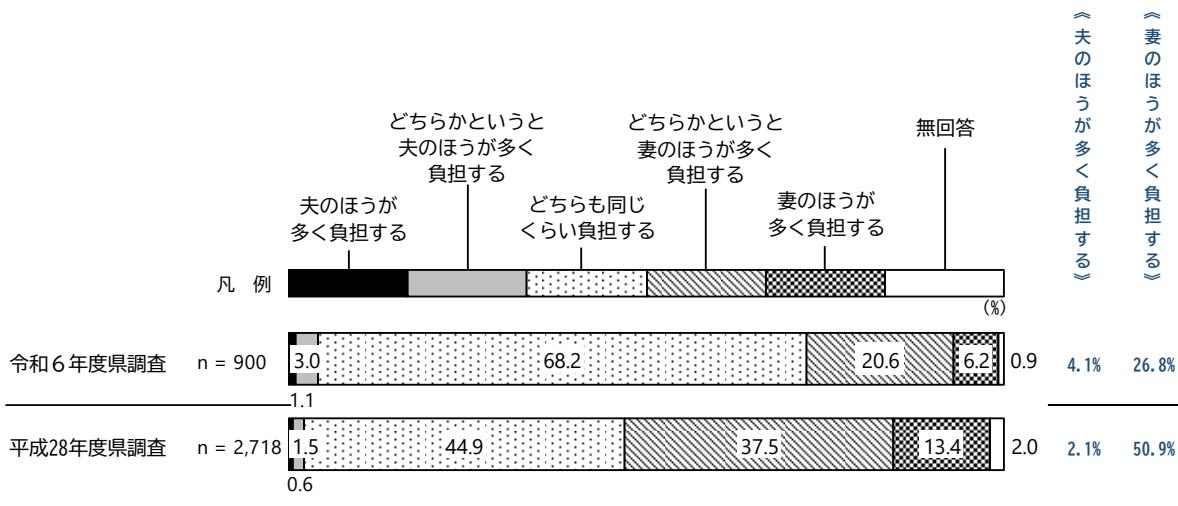
◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／結婚生活で不安に感じること



婚姻別にみると、未婚の方では「お互いの親族との付き合い」「2人の間で起こる問題の解決」「2人の相性」「自己の自由の制約」が婚姻経験ありの方に比べ 10 ポイント以上高くなっています。特に、「自己の自由の制約」では 17.9 ポイント高くなっています。

3-7 夫婦間の家事負担

問17 あなたは、夫婦の間で家事の負担はどのようにしたいと思っていますか。 (○は1つ)
※配偶者等がいない方は、いると仮定してお答えください。

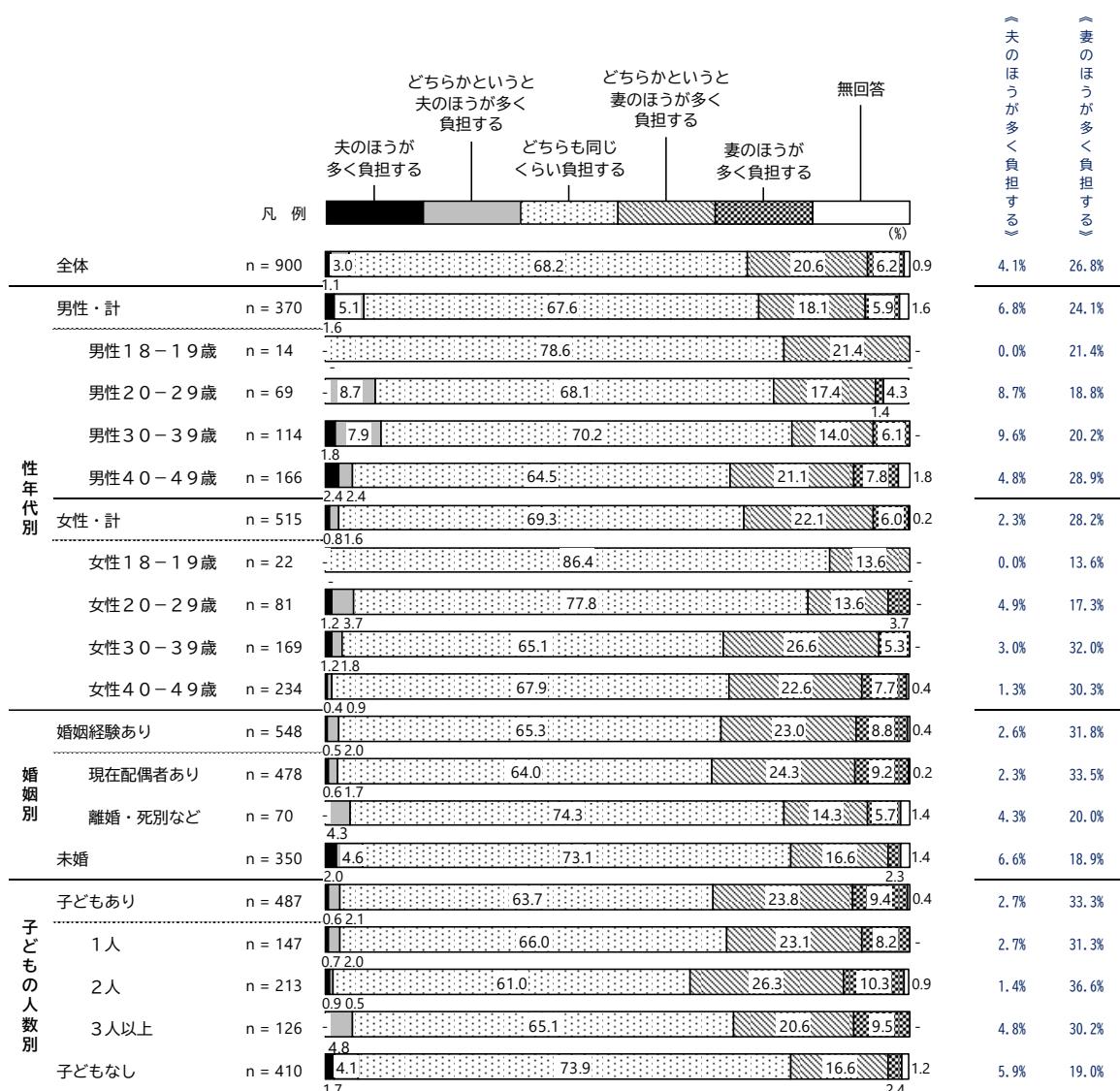


平成28年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」

夫婦間の家事負担については、「どちらも同じくらい負担する」が68.2%と最も高く、次いで「どちらかというと妻のほうが多く負担する」(20.6%)、「妻のほうが多く負担する」(6.2%)となっています。

平成28年度県調査と比較すると、「どちらも同じくらい負担する」が23.3ポイント高くなっています。《妻のほうが多く負担する》(「どちらかというと妻のほうが多く負担する」+「妻のほうが多く負担する」の合計)は24.1ポイント低くなっています。

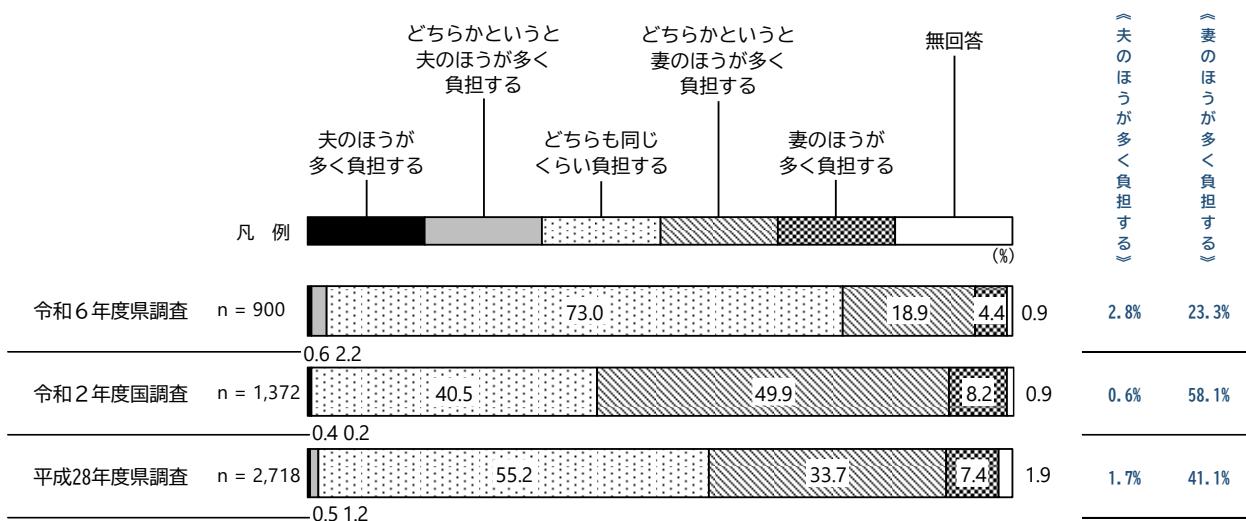
◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／夫婦間の家事負担



婚姻別、子どもの人数別にみると、婚姻経験の有無や子どもの有無に関わらず「どちらも同じくらい負担する」が最も高くなっているものの、未婚の方や子どもなしの方では《妻のほうが多く負担する》が2割未満となっている一方、婚姻経験ありの方や子どもありの方では同割合が3割を超えています。

3-8 夫婦間の育児負担

問18 あなたは、夫婦の間で育児の負担はどのようにしたいと思っていますか。 (○は1つ)
 ※配偶者等がいない方は、いると仮定してお答えください。



令和2年度「少子化社会に関する国際意識調査」

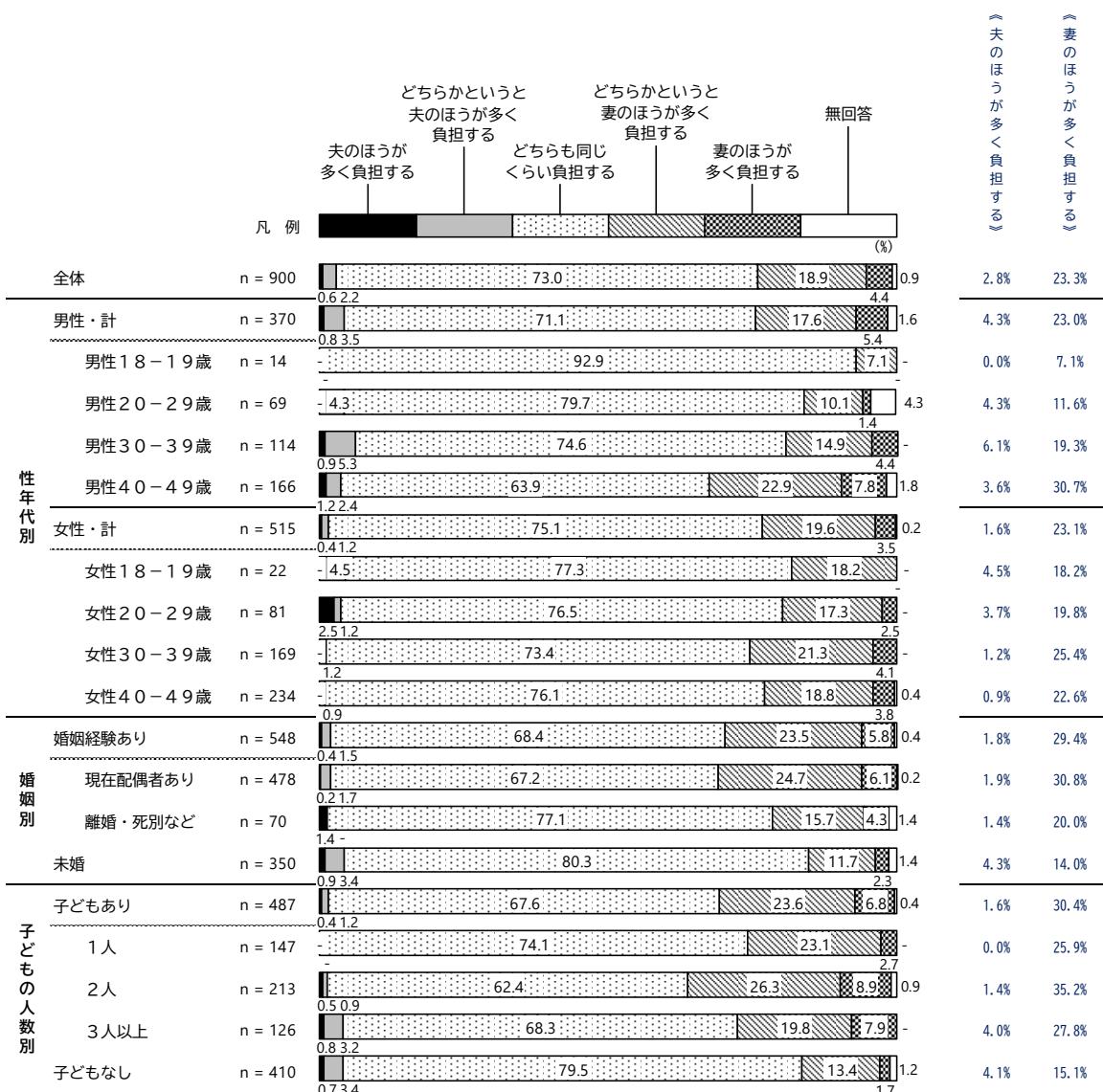
平成28年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」

夫婦間の育児負担については、「どちらも同じくらい負担する」が73.0%と最も高く、次いで「どちらかというと妻のほうが多く負担する」(18.9%)、「妻のほうが多く負担する」(4.4%)となっています。

平成28年度県調査と比較すると、「どちらも同じくらい負担する」が17.8ポイント高くなっています。《妻のほうが多く負担する》(「どちらかというと妻のほうが多く負担する」+「妻のほうが多く負担する」の合計)が17.8ポイント低くなっています。

令和2年度国調査と比較すると、「どちらも同じくらい負担する」が32.5ポイント高くなっています。《妻のほうが多く負担する》が34.8ポイント低くなっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／夫婦間の育児負担

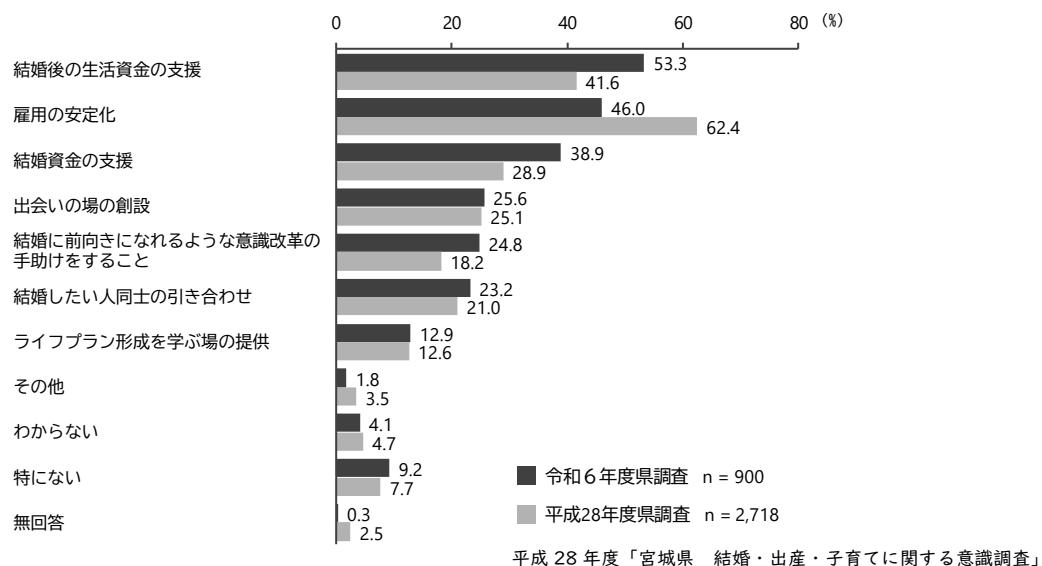


性年代別にみると、男女・計ともに《妻のほうが多く負担する》が約2割となっています。男性では年代が上がるにつれて《妻のほうが多く負担する》が高くなっています。

婚姻別、子どもの人数別にみると、婚姻経験の有無や子どもの有無に関わらず「どちらも同じくらい負担する」が最も高くなっているものの、未婚の方や子どもなしの方では《妻のほうが多く負担する》が2割未満となっている一方、婚姻経験ありの方や子どもありの方では同割合が約3割となっています。

3-9 結婚に関して行政に実施してほしい取組

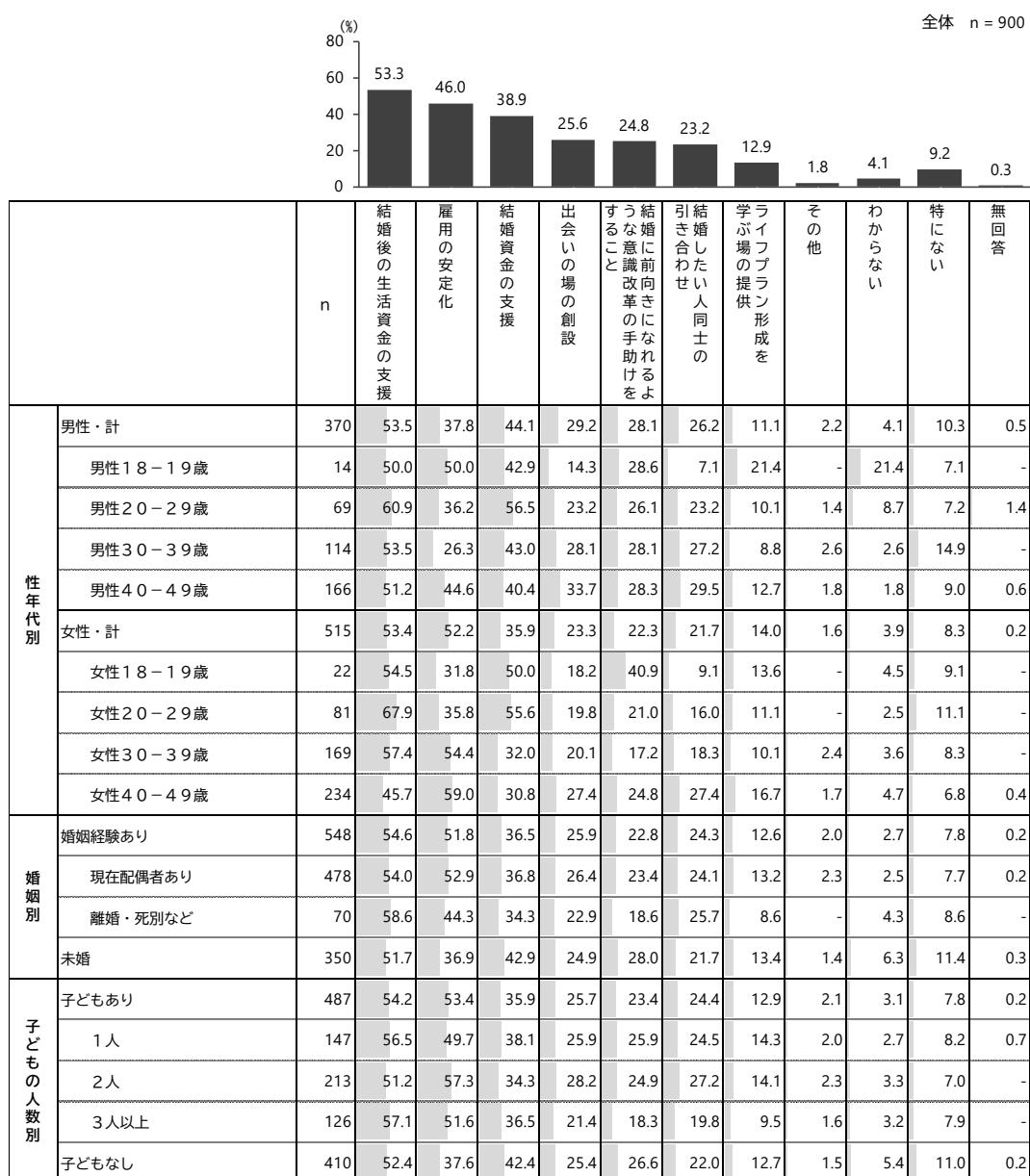
問19 結婚に関して、行政に実施してほしい取組は何ですか。(○はいくつでも)



結婚に関して行政に実施してほしい取組については、「結婚後の生活資金の支援」が53.3%と最も高く、次いで「雇用の安定化」(46.0%)、「結婚資金の支援」(38.9%)となっています。

平成28年度県調査と比較すると、「結婚後の生活資金の支援」で11.7ポイント、「結婚資金の支援」で10.0ポイント高くなっています。一方、「雇用の安定化」は16.4ポイント低くなっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／結婚に関して行政に実施してほしい取組



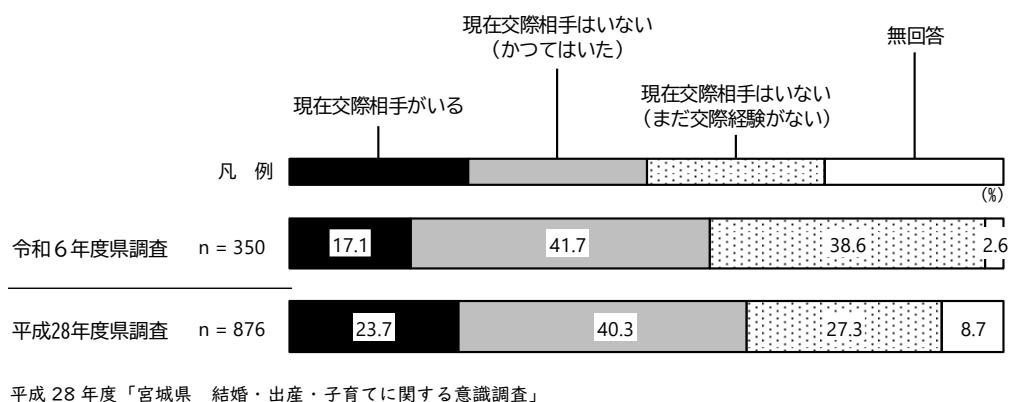
性年代別にみると、男女ともに概ね全ての年代で「結婚後の生活資金の支援」が最も高くなっています。女性18-19歳及び男女20-29歳では「結婚資金の支援」50%以上となっており、全体と比べ10ポイント以上高くなっています。また、「雇用の安定化」は女性30-39歳では同世代の男性に比べ20ポイント以上、女性40-49歳では10ポイント以上高くなっています。

男女ともに比較的若い年代や未婚の方、子どもなしの方では「結婚後の生活資金の支援」に次いで「結婚資金の支援」が高くなっている一方、婚姻経験がある方や子どもがいる方では「雇用の安定化」が高くなっています。

3-10 交際相手の有無

【問 20～問 24 は、未婚の方(問5で「今まで結婚したことはない(未婚)」)とお答えの方にお伺いします。】

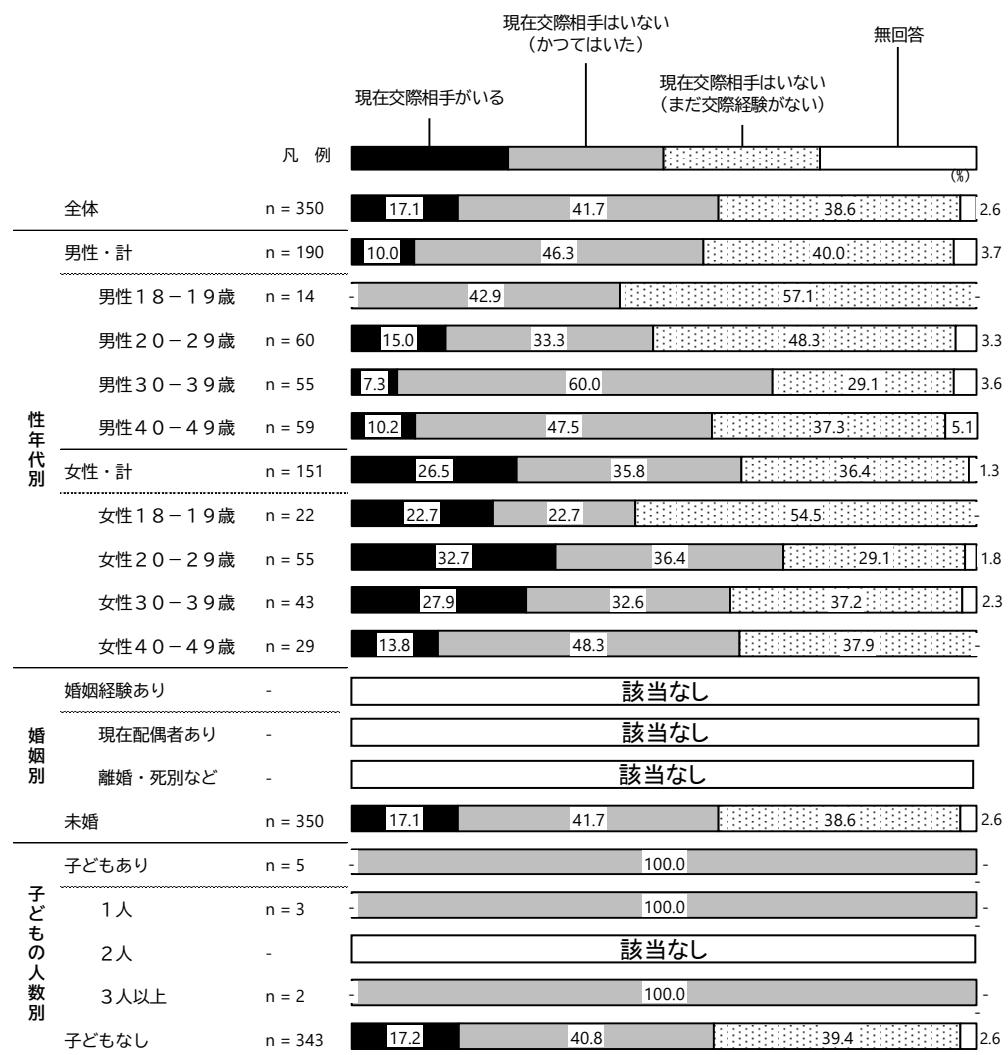
問 20 交際相手の有無についておたずねします。次のうち、あなたに当てはまるものをお選びください。 (○は1つ)



交際相手の有無については、「現在交際相手はいない（かつてはいた）」が41.7%と最も高く、次いで「現在交際相手はいない（まだ交際経験がない）」（38.6%）、「現在交際相手がいる」（17.1%）となっています。

平成 28 年度県調査と比較すると、「現在交際相手はいない（まだ交際経験がない）」が 11.3 ポイント高くなっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／交際相手の有無

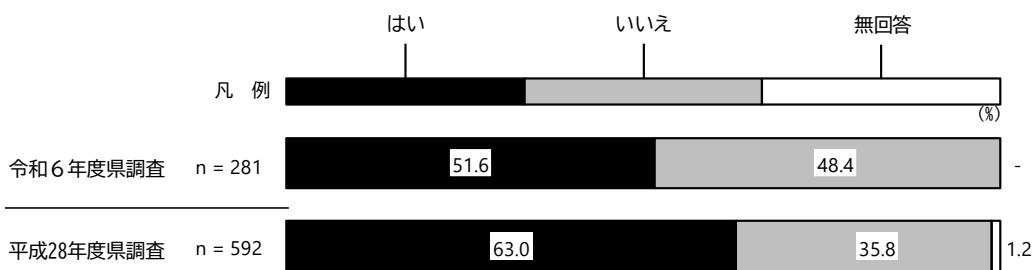


性年代別にみると、女性・計では「現在交際相手がいる」が 26.5% と男性・計に比べ 16.5 ポイント高くなっている一方、男性・計では「現在は交際相手がいない（かつてはいた）」が 46.3% と女性・計に比べ 10.5 ポイント高くなっています。また、「現在交際相手はいない（まだ交際経験がない）」は男女・計ともに約 4 割となっています。

3-11 交際相手は欲しいか

【問20で「現在交際相手はいない（かつてはいた／まだ交際経験がない）」とお答えの方にお伺いします】

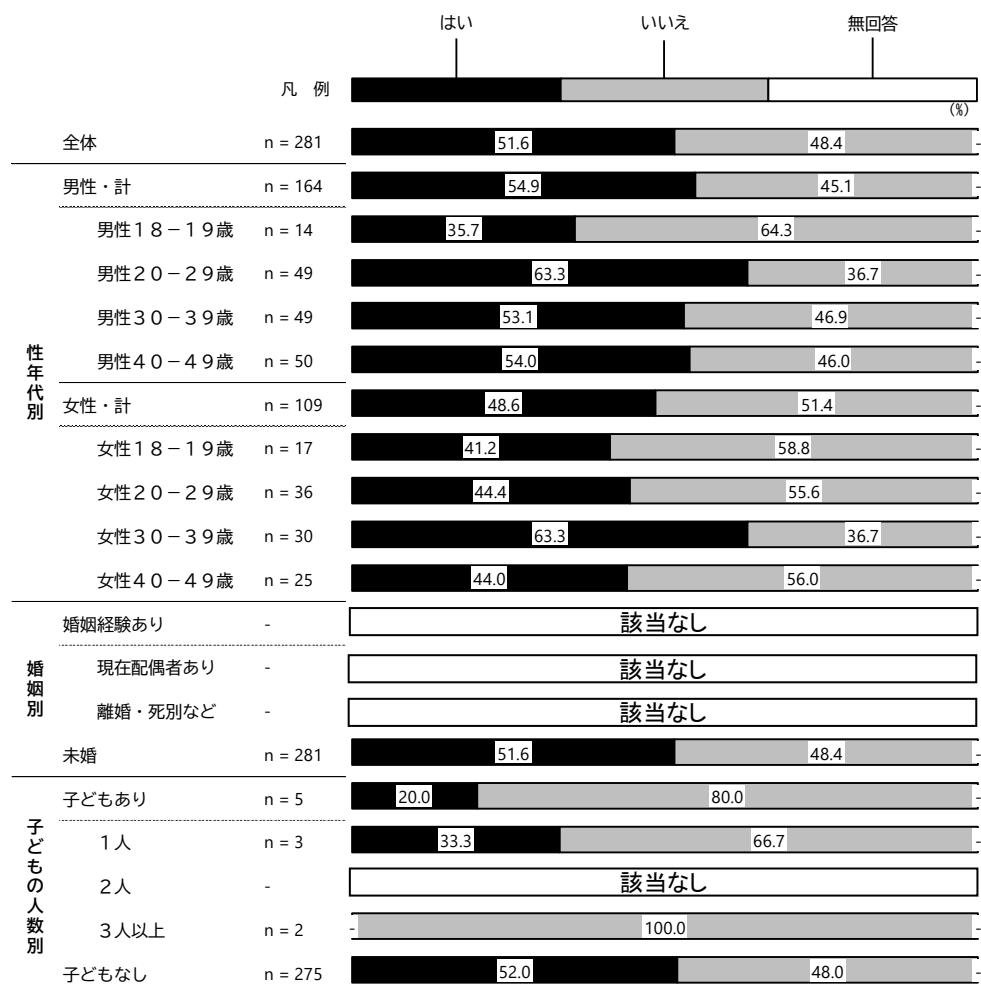
問21 あなたは今、交際相手が欲しいですか。 (○は1つ)



平成28年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」

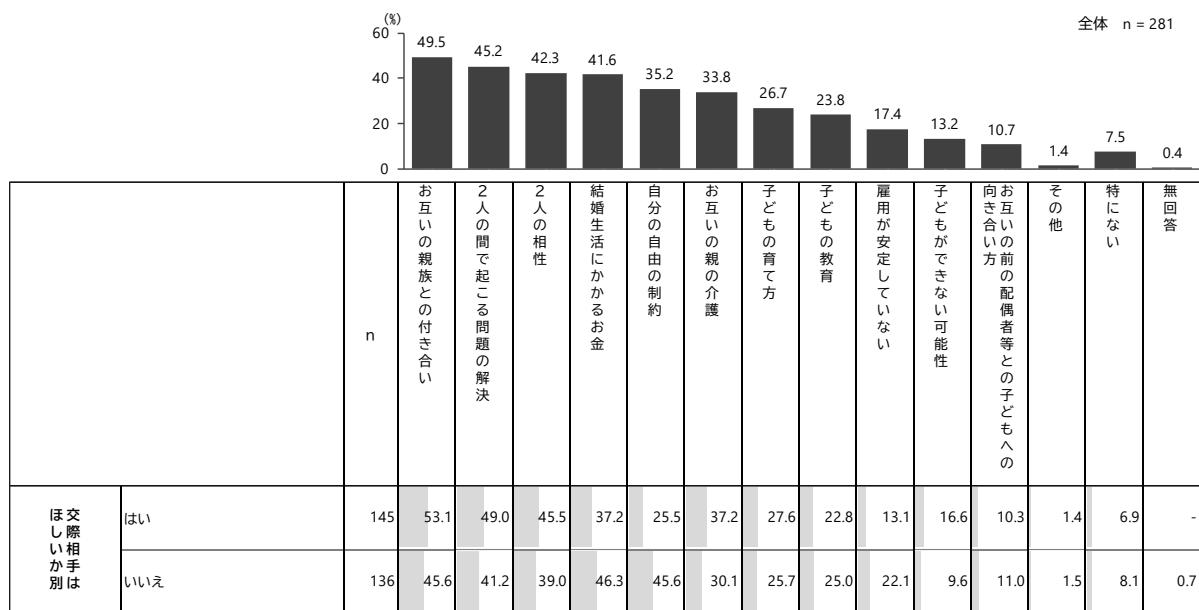
交際相手は欲しいかについては、「はい」が51.6%、「いいえ」が48.4%となっています。
平成28年度県調査と比較すると、「いいえ」が12.6ポイント高くなっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／交際相手は欲しいか



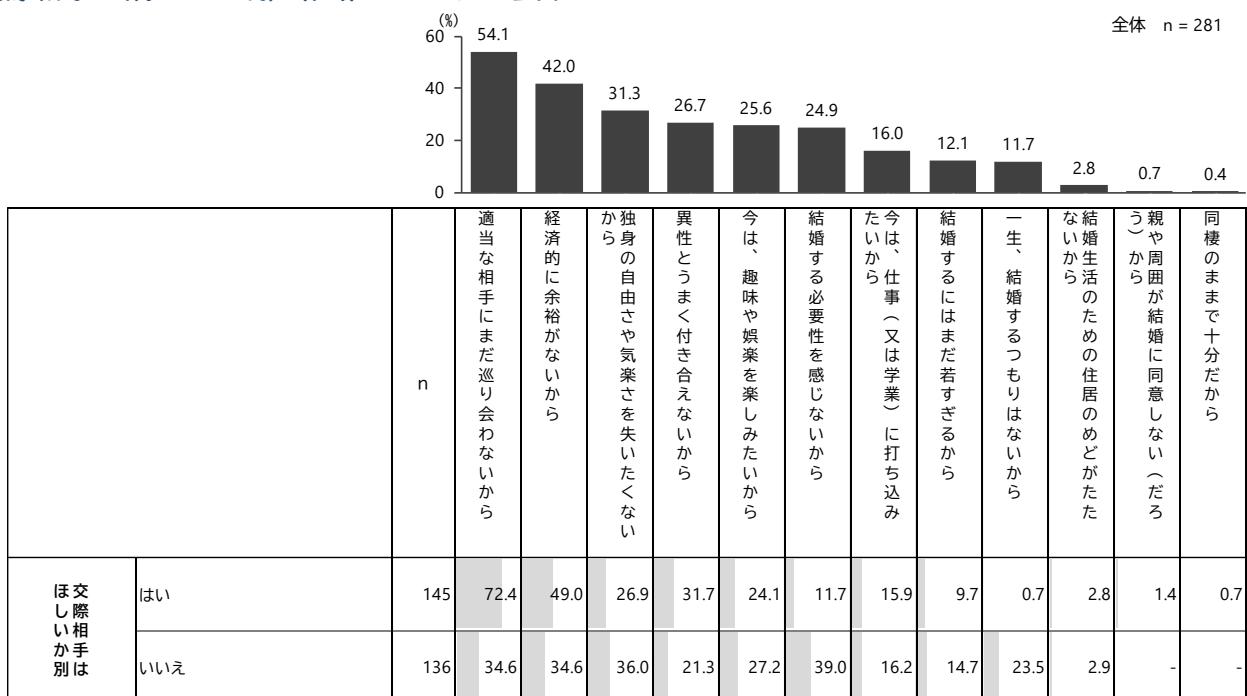
性年代別にみると、男性では18-19歳を除く全ての年代で「はい」が「いいえ」に比べ回答割合が高くなっています。一方、女性では30-39歳を除く全ての年代で「いいえ」が「はい」に比べ回答割合が高くなっています。

◆交際相手は欲しいか別／結婚生活について不安に感じること



交際相手は欲しいか別に結婚生活について不安に感じることをみると、『交際相手が欲しい』（「いいえ」と回答）の方は、『交際相手が欲しい』（「はい」と回答）方に比べ「自分の自由の制約」が20.1ポイント高くなっています。

◆交際相手は欲しいか別／結婚していない理由



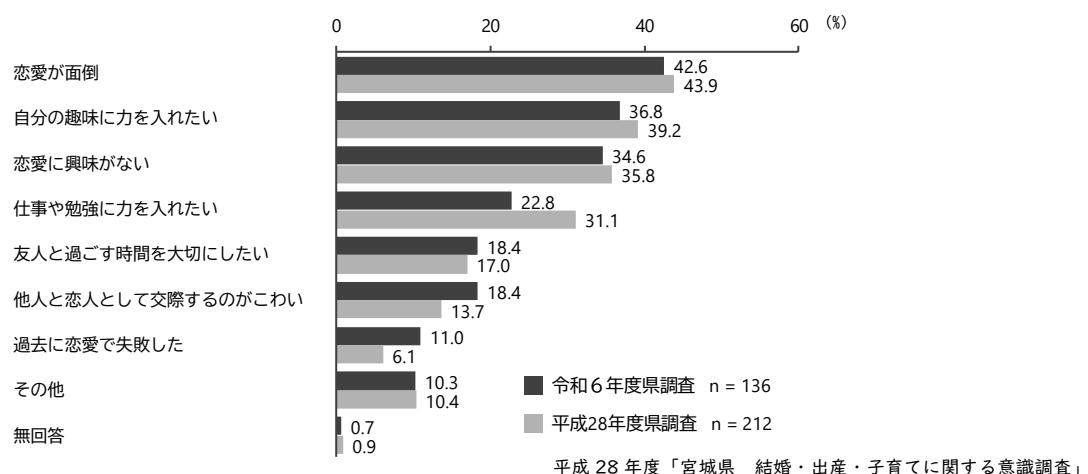
※「その他」「特にない」「無回答」は非掲載

交際相手は欲しいか別に結婚していない理由みると、『交際相手が欲しくない』（「いいえ」と回答）の方は、『交際相手が欲しい』（「はい」と回答）方に比べ「結婚する必要性を感じないから」が27.3ポイント、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が9.1ポイント高くなっています。また、「一生、結婚するつもりはないから」は2割を超えていました。

3-12 交際相手が欲しくない理由

【問21で「いいえ（今、交際相手が欲しくない）」とお答えの方にお伺いします】

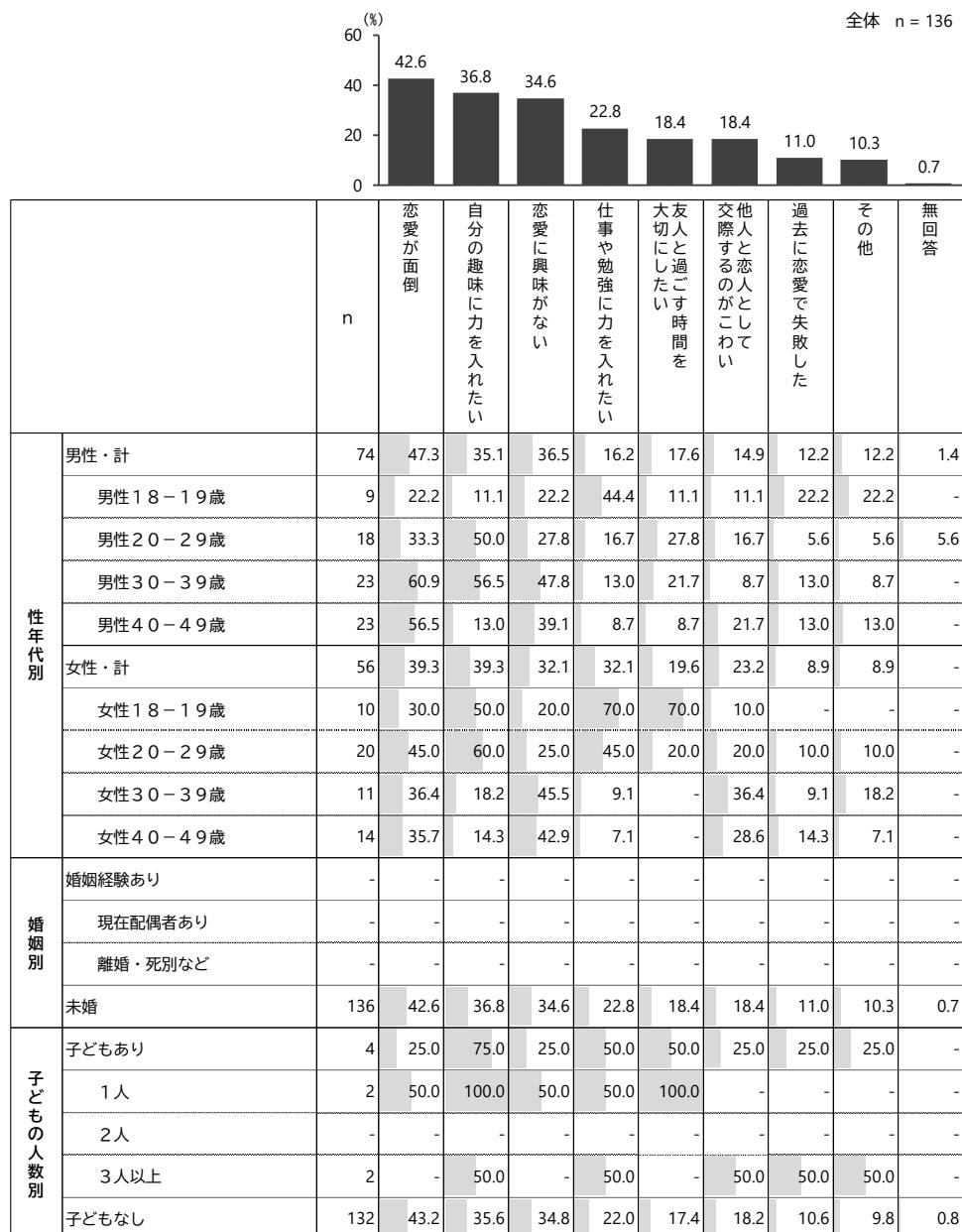
問22 交際相手が欲しいと思わない理由を教えてください。（○はいくつでも）



交際相手が欲しくない理由については、「恋愛が面倒」が42.6%と最も高く、次いで「自分の趣味に力を入れたい」(36.8%)、「恋愛に興味がない」(34.6%)となっています。

平成28年度県調査と比較すると、「仕事や勉強に力を入れたい」が8.3ポイント低くなっているものの、全体的な回答結果に大きな差はみられませんでした。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／交際相手が欲しくない理由

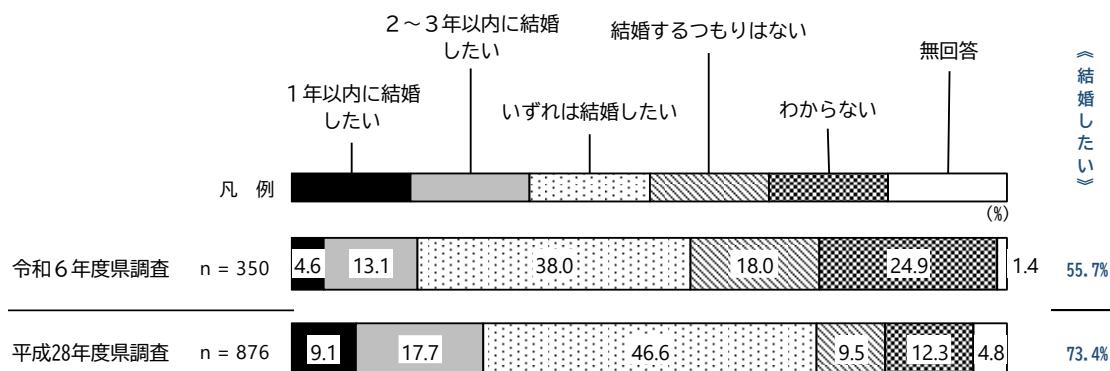


性年代別にみると、調査数 (n) が少ないと留意が必要ですが、男女ともに 18-19 歳では「仕事や勉強に力を入れたい」、20-29 歳では「自分の趣味に力を入れたい」、男性 30 歳以上では「恋愛が面倒」、女性 30 歳以上では「恋愛に興味がない」が最も高くなっています。性別や年代によって交際相手が欲しくない理由に違いがみられます。

3-13 結婚の時期

【未婚の方にお伺いします】

問23 あなたは、あなたご自身の結婚の時期について、どのように考えていますか。最もよく当てはまるものをお選びください。 (○は1つ)



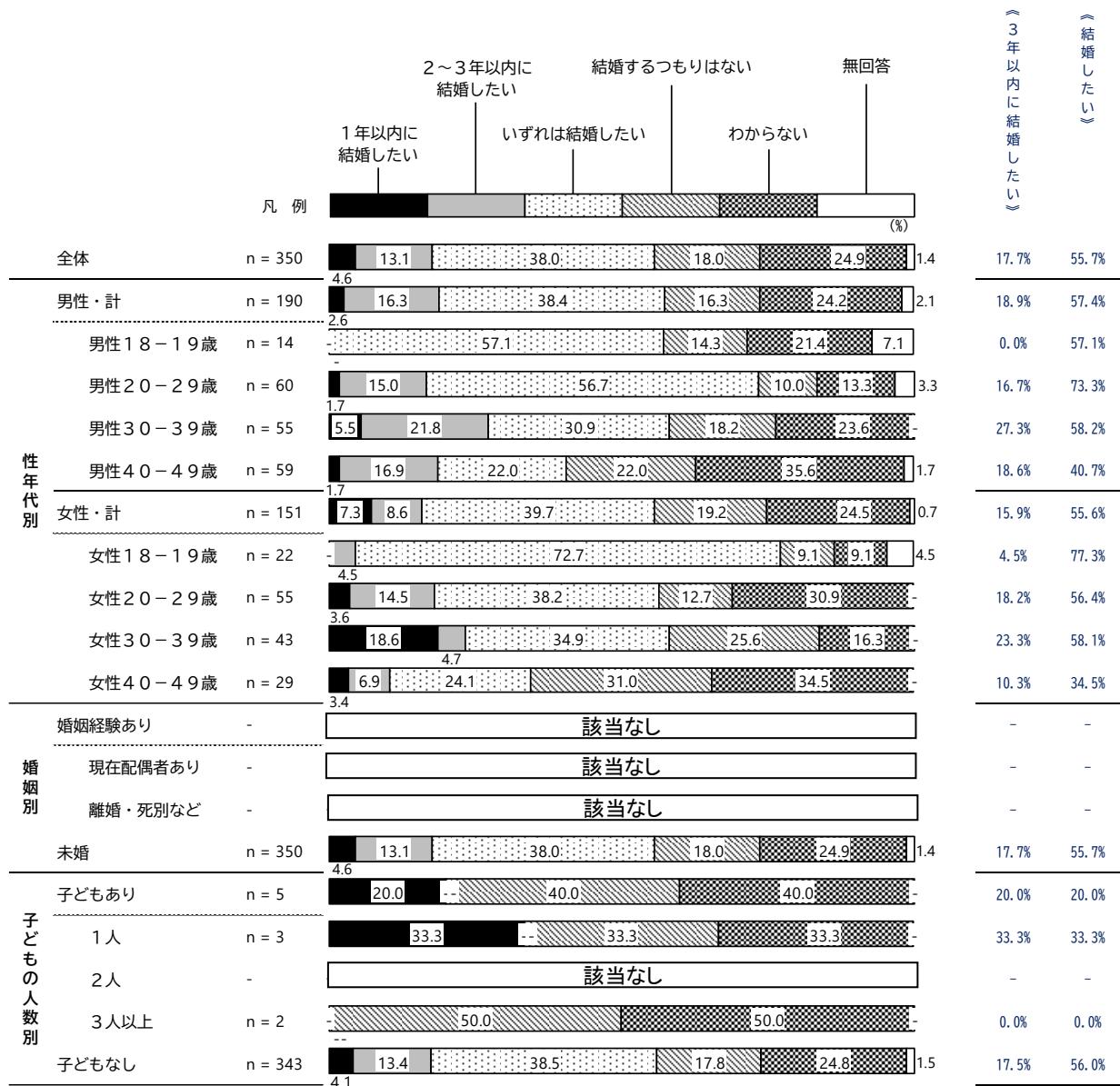
平成28年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」

結婚の時期については、「いずれは結婚したい」が38.0%と最も高く、次いで「結婚するつもりはない」(18.0%)、「2~3年以内に結婚したい」(13.1%)となっています。また、「わからない」との回答も24.9%みられます。

平成28年度県調査と比較すると、《結婚したい》(「1年以内に結婚したい」+「2~3年以内に結婚したい」+「いずれは結婚したい」の合計)が17.7ポイント低くなっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／結婚の時期

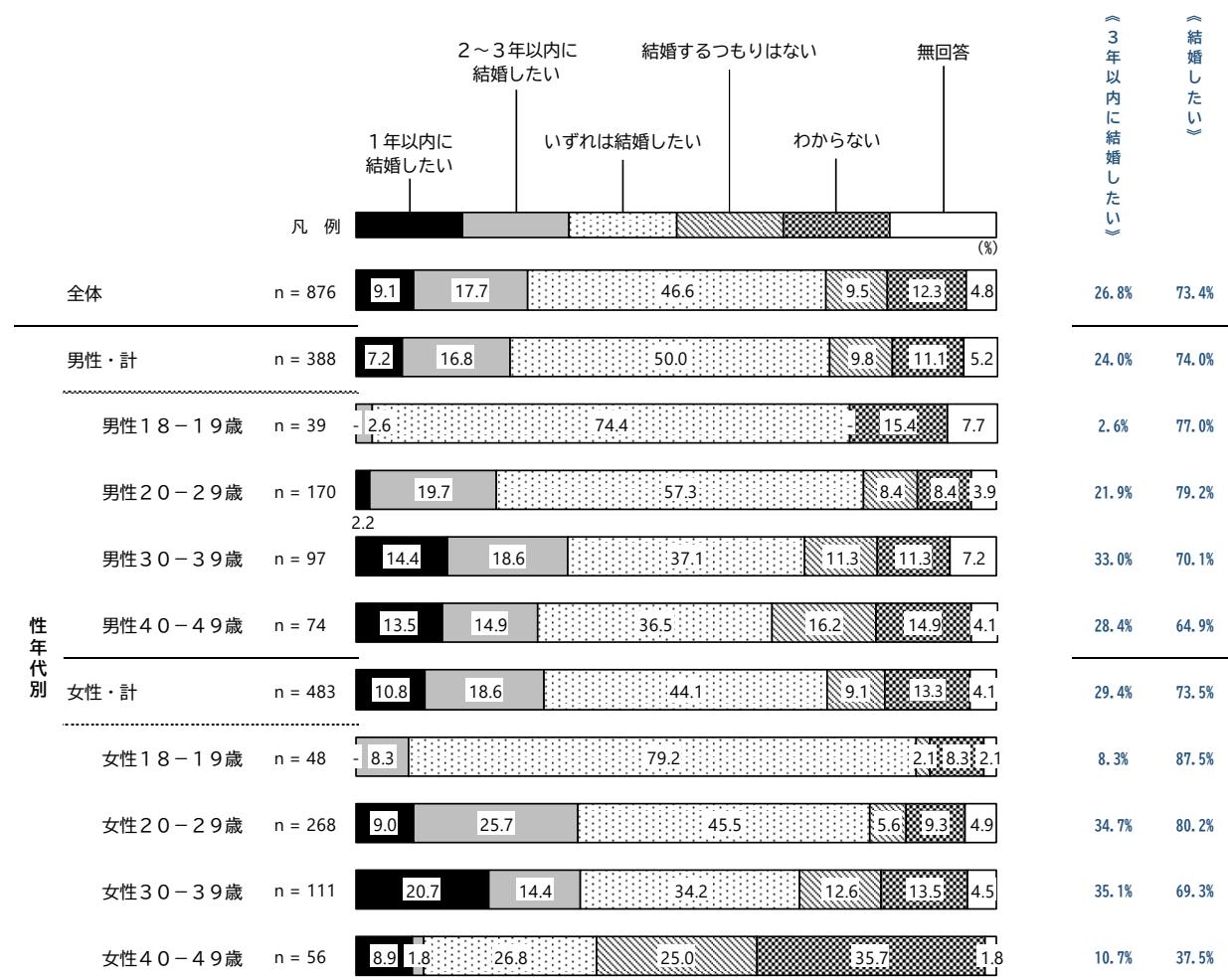
【令和6年度県調査】



◆性年代別／結婚の時期

【平成 28 年度県調査】

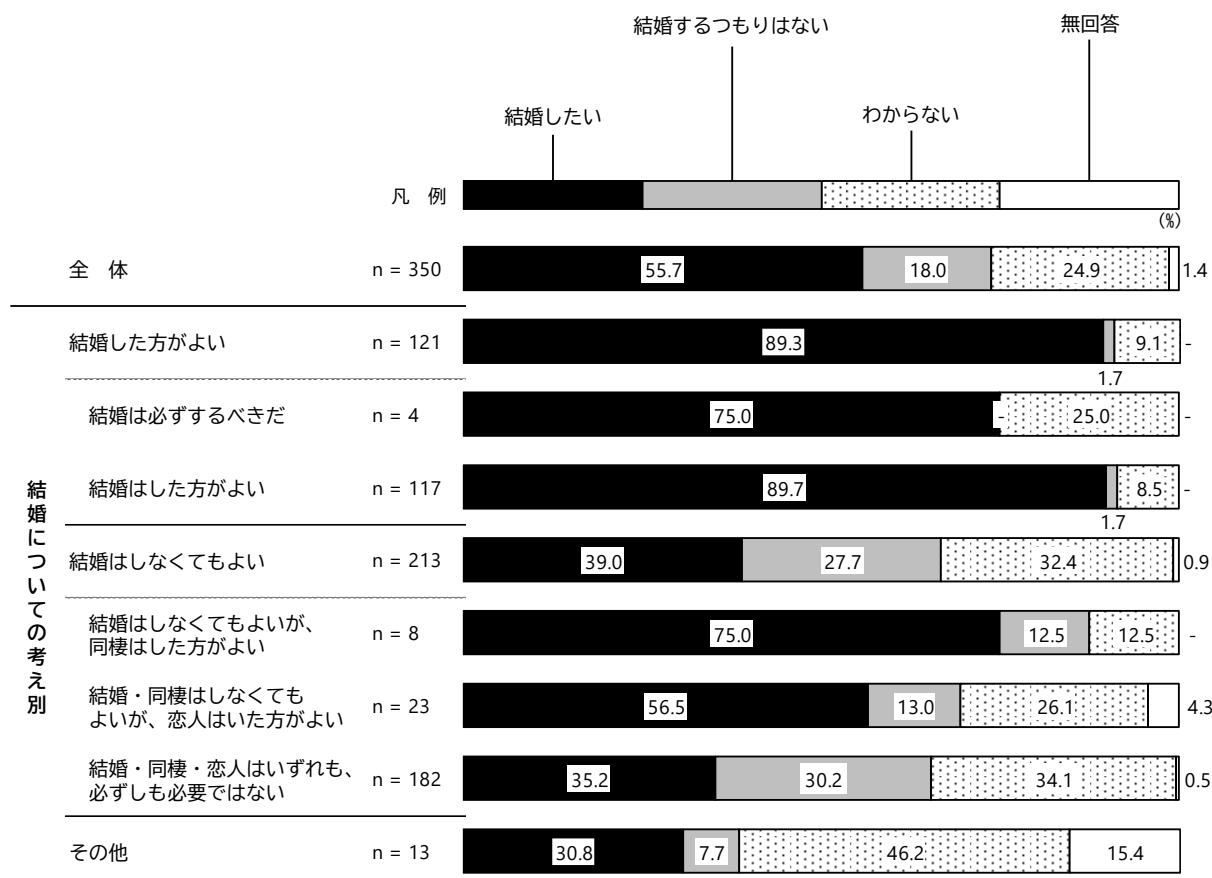
平成 28 年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」



性年代別にみると、《3年内に結婚したい》（「1年内に結婚したい」 + 「2~3年内に結婚したい」の合計）では男女ともに 30-39 歳で回答割合が最も高くなっています。一方、《結婚したい》では男性では 20-29 歳、女性では 18-19 歳で 7 割を超える回答割合が高くなっています。

平成 28 年度県調査と比較すると、男性 30-39 歳及び 40-49 歳では「1年内に結婚したい」が 1 割以下となり、「わからない」は 10 ポイント以上高くなっています。女性 20-29 歳では《3年内に結婚したい》が 10 ポイント以上低く、「わからない」が 20 ポイント以上高くなっています。女性 30-39 歳では「結婚するつもりはない」が 10 ポイント以上高くなっています。《3年内に結婚したい》では男女ともに全ての年代で回答割合が低くなっています。特に、女性 20-29 歳で 16.5 ポイント、女性 30-39 歳で 11.8 ポイント低くなっています。また、女性 40-49 歳を除くいずれの性年代でも、「わからない」の回答が高くなっています。一方、《結婚したい》では概ね全ての性年代で回答割合が低くなっています。全体では 17.7 ポイント低くなっています。

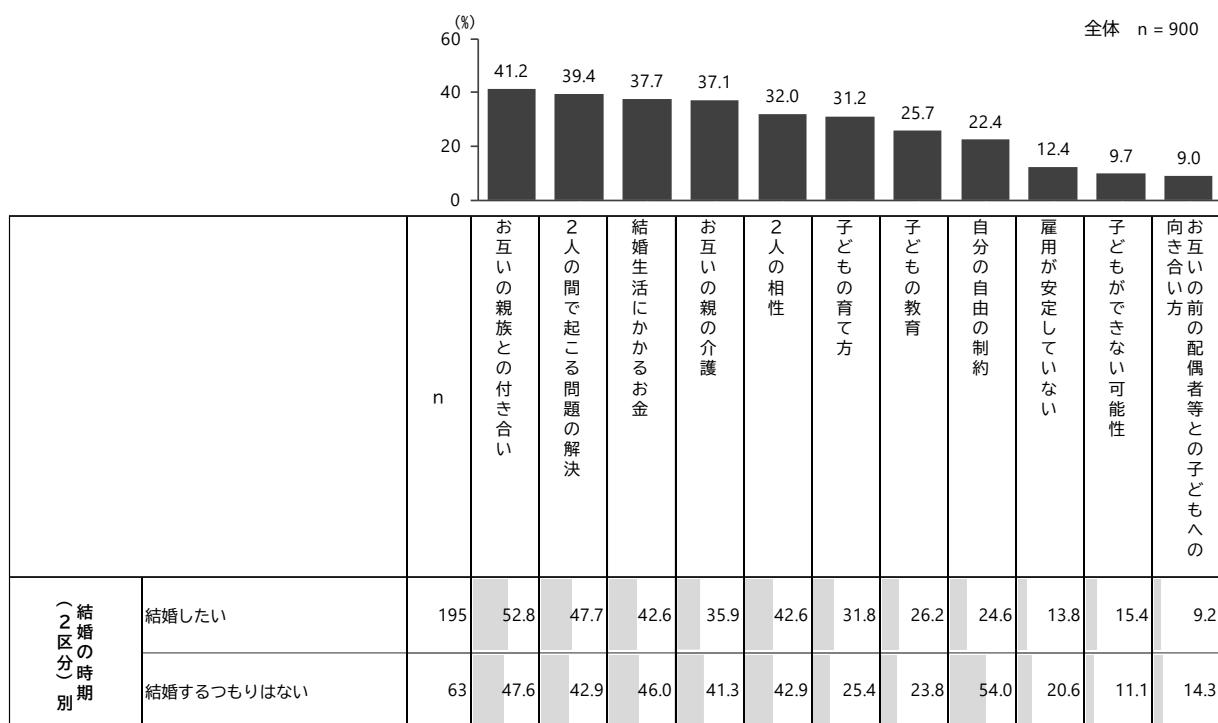
◆結婚に対する考え方別／未婚者の希望する結婚の時期



未婚の方の結婚の希望について、結婚に対する考え方別にみると、『結婚はした方がよい』方では「結婚したい」（「1年以内に結婚したい」+「2~3年内に結婚したい」+「いずれは結婚したい」の合計）が約9割と高い割合になっています。一方、『結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない』方は同割合が35.2%と4割未満となっており、その一方で「結婚するつもりはない」は30.2%と、『結婚はした方がよい』方の同割合（1.7%）に比べ大幅に高くなっています。

『結婚はしなくてもよい』（『結婚はしなくてもよいが、同棲はした方がよい』+『結婚・同棲はしなくてもよいが、恋人はいた方がよい』+『結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない』の合計）と考えている方では、同時に「結婚するつもりはない」と回答する方も27.7%みられる一方、「結婚したい」と考えている方も39.0%いることがわかります。

◆結婚の時期（2区分）別／結婚生活について不安に感じること



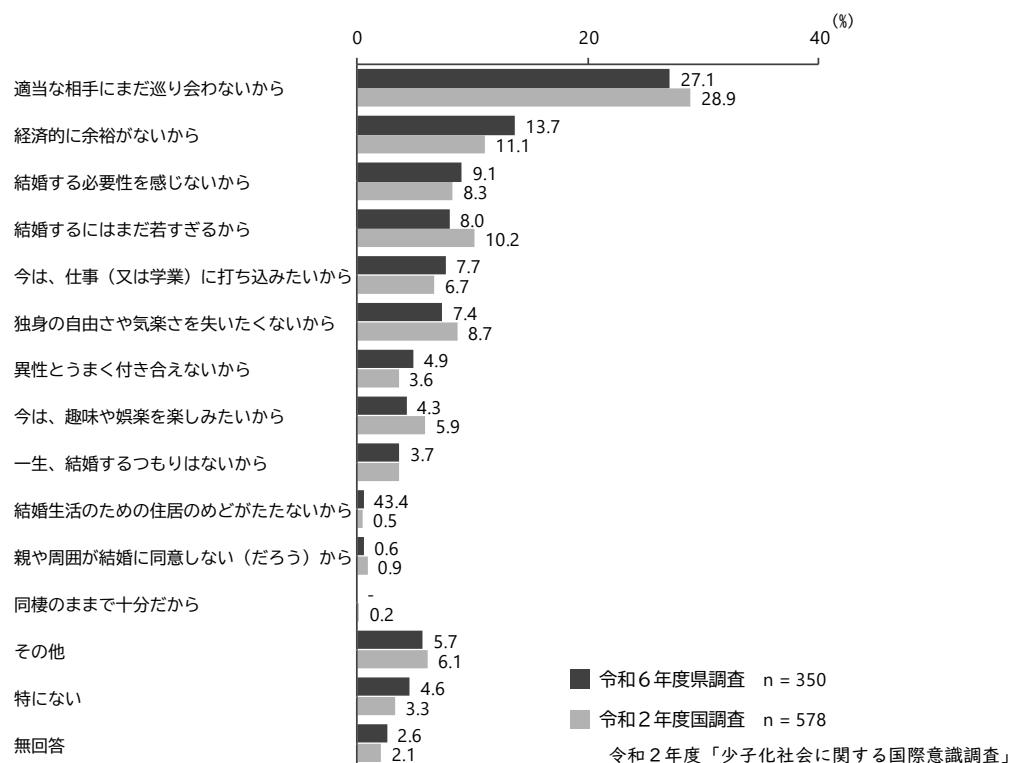
※「その他」「特にない」「無回答」は非掲載

結婚の時期（2区分）別に結婚生活について不安に感じることをみると、『結婚するつもりはない』方は「自分の自由の制約」が『結婚したい』（「1年内に結婚したい」+「2~3年内に結婚したい」+「いずれは結婚したい」の合計）方に比べ29.4ポイント高くなっています。

3-14 現在結婚していない理由

問 24 あなたが現在結婚していない理由を、次の中から選ぶとすればどれですか。当てはまるものから順に3つまで選んで、回答欄に番号をご記入ください。

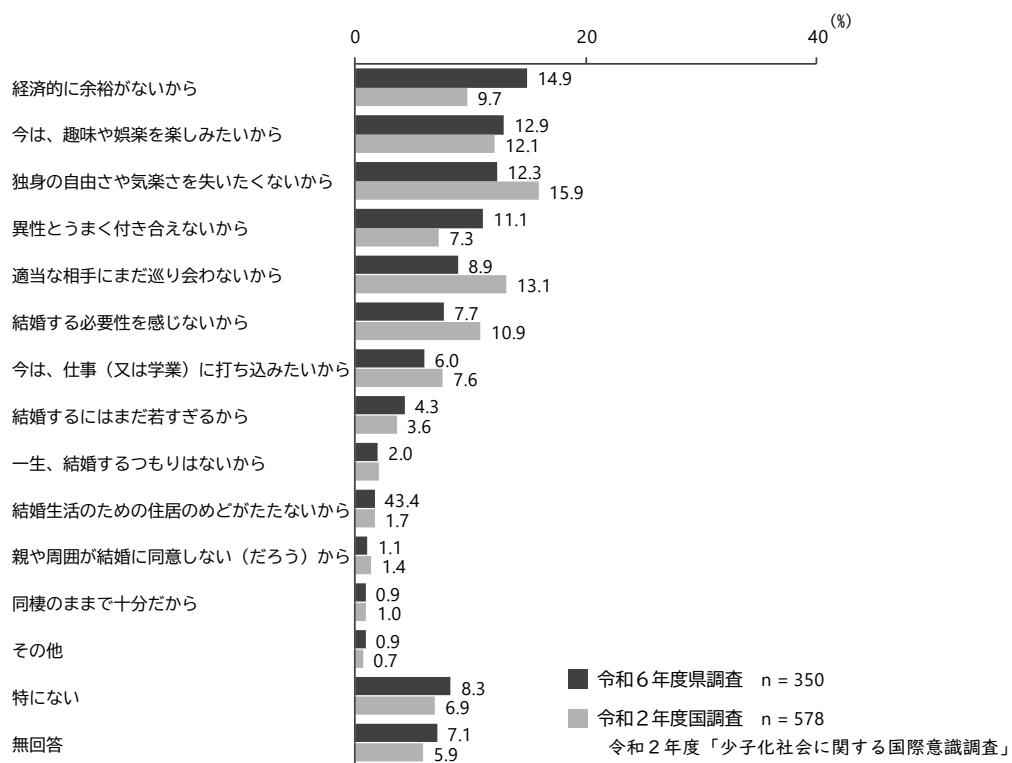
1 番当てはまる理由



現在結婚していない理由（1番当てはまる理由）については、「適当な相手にまだ巡り会わないから」が27.1%と最も高く、次いで「経済的に余裕がないから」（13.7%）、「結婚する必要性を感じないから」（9.1%）となっています。

令和2年度国調査と比較すると、全体的な回答結果に大きな差はみられませんでした。

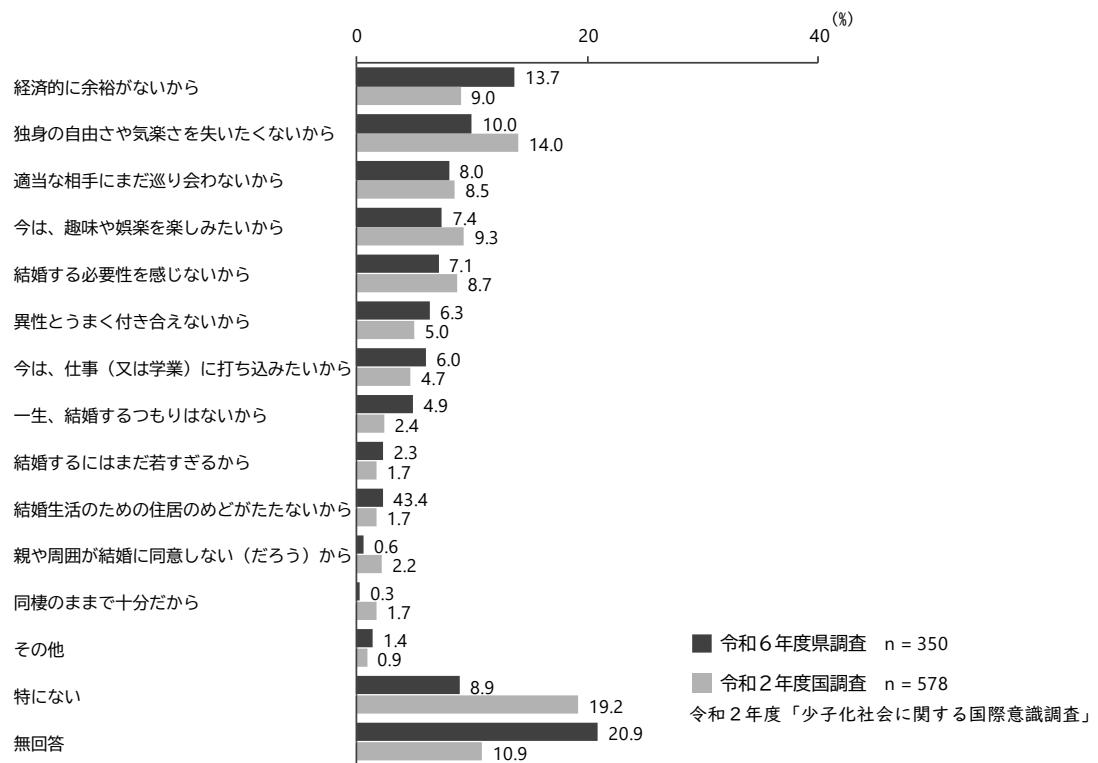
2番目に当てはまる理由



結婚していない理由（2番目に当てはまる理由）については、「経済的に余裕がないから」が14.9%と最も高く、次いで「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」（12.9%）、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」（12.3%）となっています。

令和2年度国調査と比較すると、「経済的に余裕がないから」は5.2ポイント高くなっているものの、全体的な回答結果に大きな差はみられませんでした。

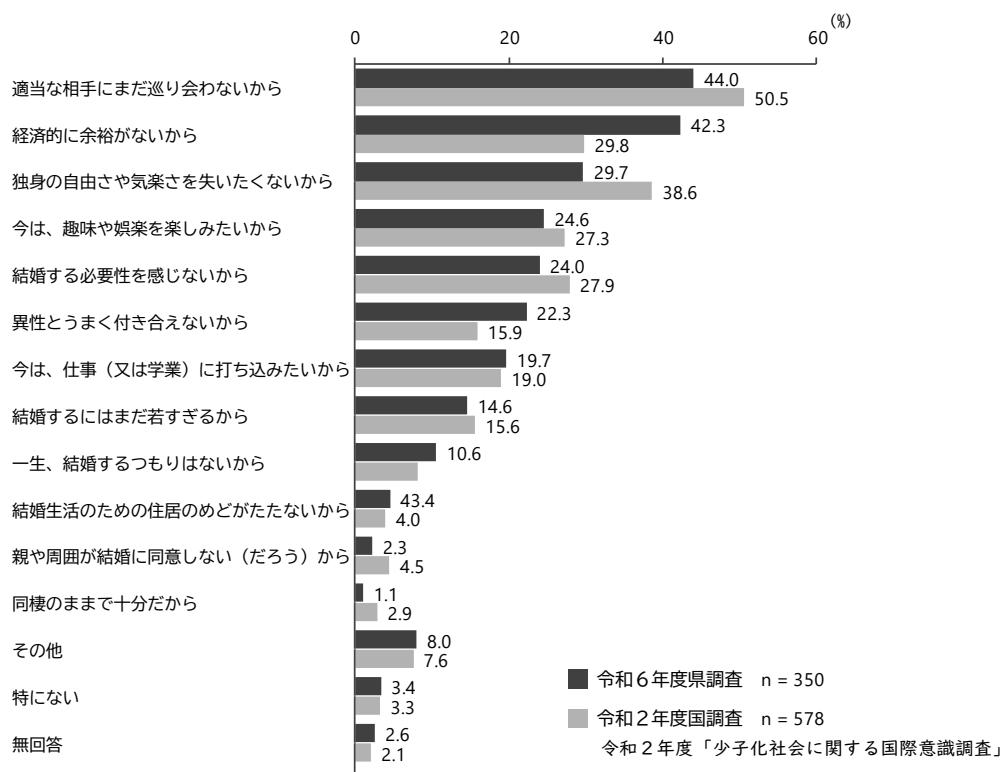
3番目に当てはまる理由



結婚していない理由（3番目に当てはまる理由）については、「経済的に余裕がないから」が13.7%と最も高く、次いで、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」（10.0%）、「適当な相手にまだ巡り会わないから」（8.0%）となっています。

令和2年度国調査と比較すると、全体的な回答結果に大きな差はみられませんでした。

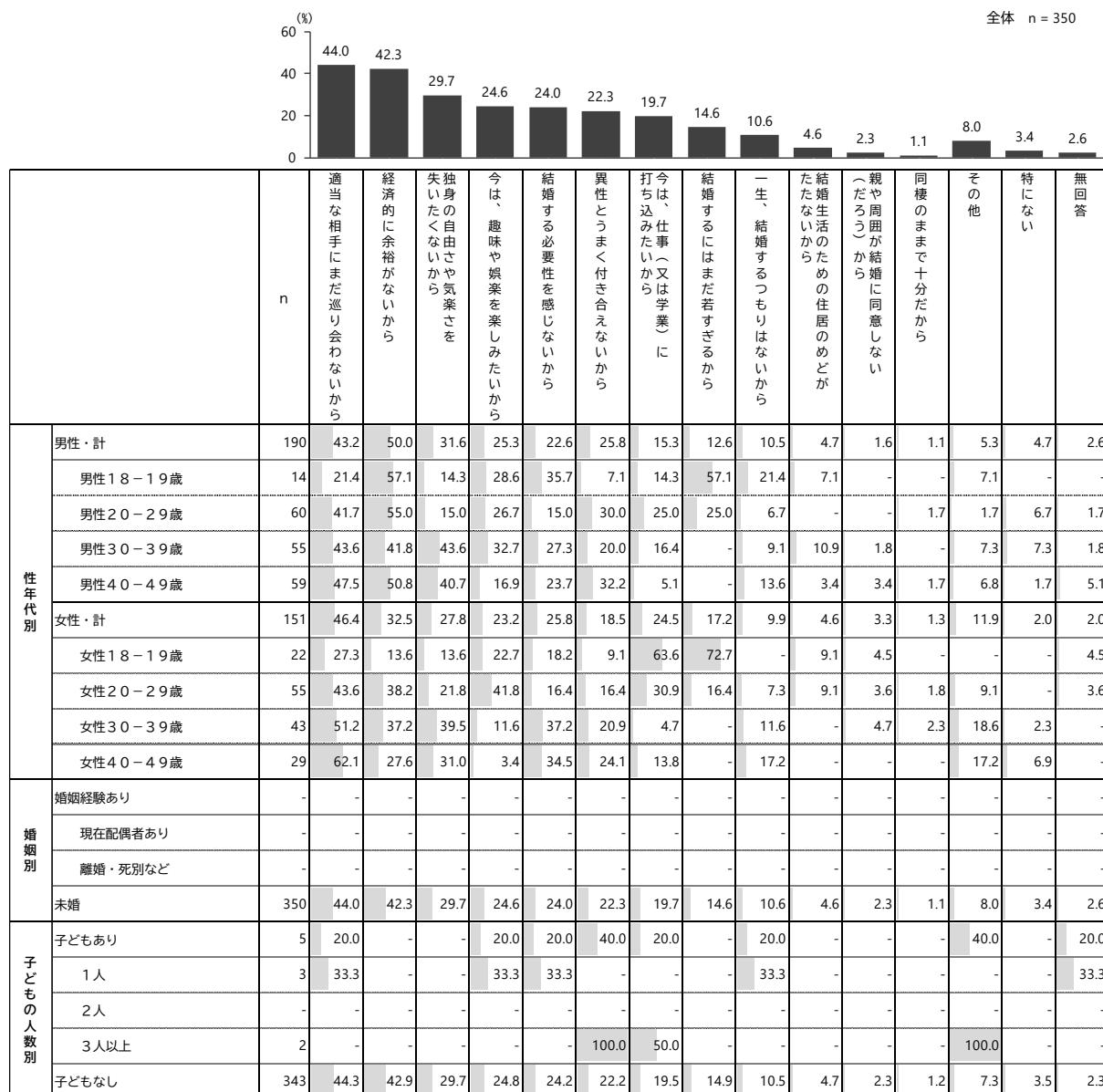
複数回答として集計



現在結婚していない理由について、上位3項目を複数回答として集計したところ、「適当な相手にまだ巡り会わないから」が44.0%と最も高く、次いで「経済的に余裕がないから」(42.3%)、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」(29.7%)となっています。

令和2年度国調査と比較すると、「経済的に余裕がないから」が12.5ポイント高くなっています。一方、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が8.9ポイント低くなっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／現在結婚していない理由（複数回答として集計）



現在結婚していない理由について、上位3項目を複数回答として集計し、性年代別にみると、「適当な相手にまだ巡り合わないから」「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」は、男女ともに概ね年代が上がるにつれて高くなる傾向にあります。男性では「経済的に余裕がないから」が全ての年代で女性に比べ高く、男性・計は女性・計に比べ17.5ポイント高くなっています。一方、女性・計では「適当な相手にまだ巡り合わないから」が最も高くなっています。男性18-29歳では「経済的に余裕がないから」、男性30-49歳では「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」、女性30-49歳では「結婚する必要性を感じないから」が全体と比べて10ポイント以上高くなっています。また、女性18-29歳では「今は、仕事（又は学業）に打ち込みたいから」が同年代の男性に比べて高くなっています。

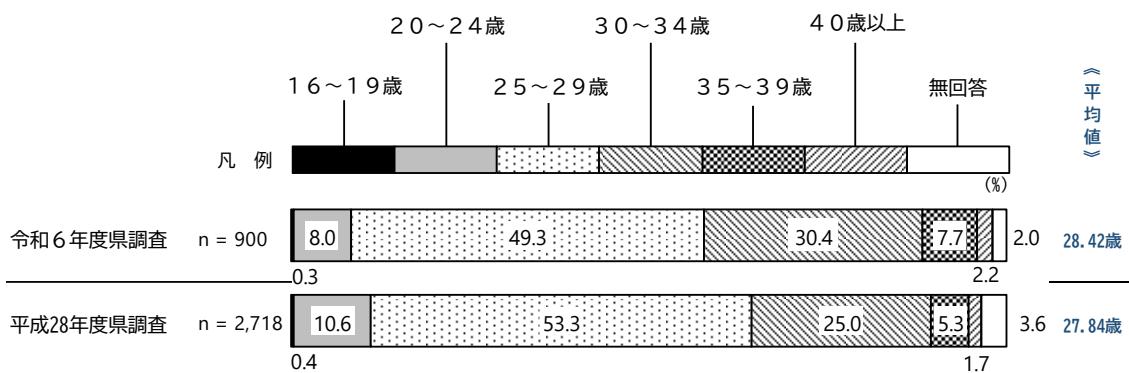
4 子どもや育児について

4-1 第一子を持つ理想の年齢

問25 あなたご自身は、理想的には何歳くらいで子ども(第一子)を持ちたいと思いますか。

※実際にどうであるかは別として、あなたにとっての理想の年齢をお答えください。

(数字を記入)

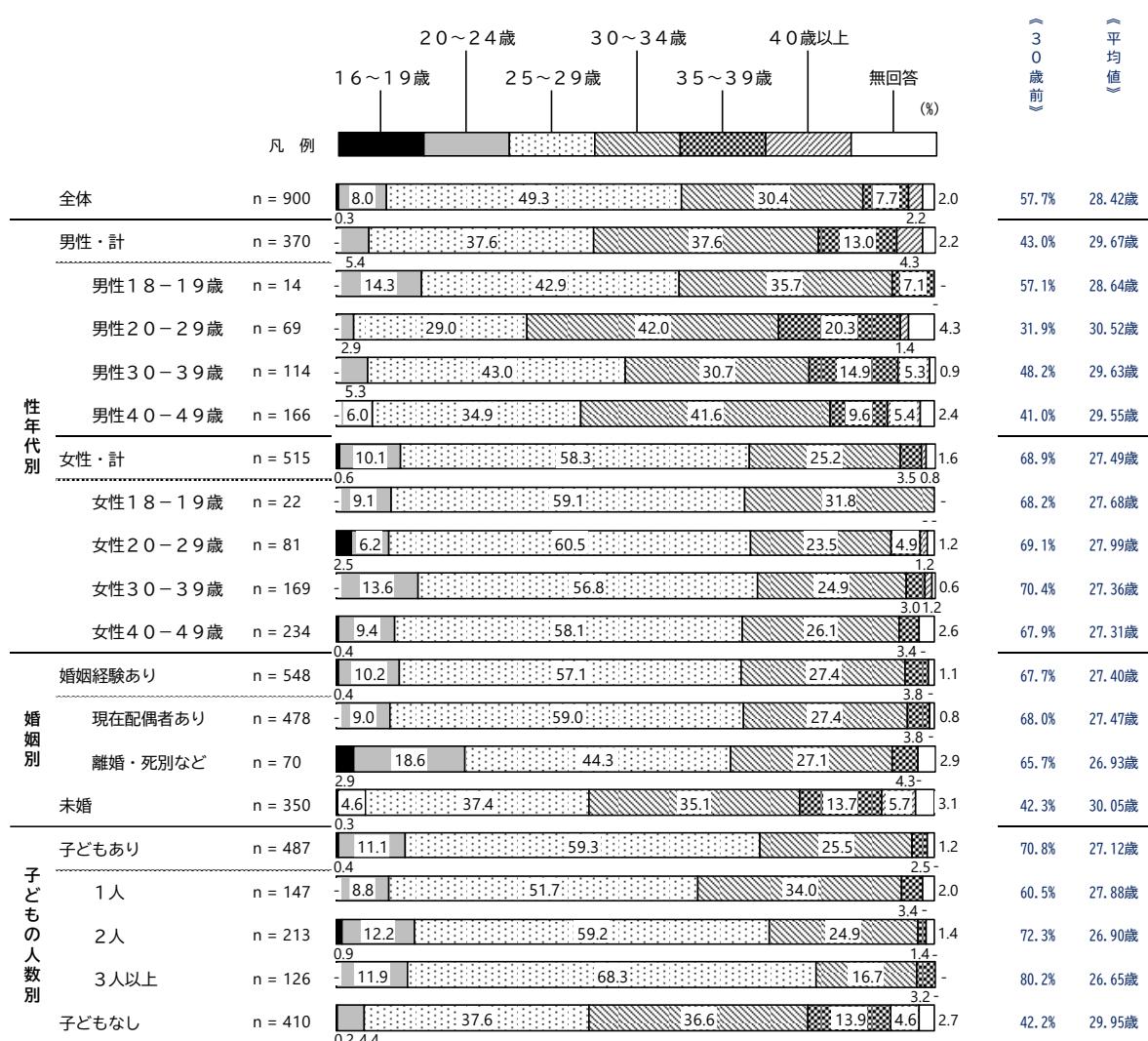


平成 28 年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」

第一子を持つ理想の年齢について、年齢を 5 歳ごとに区分して集計したところ、「25~29 歳」が 49.3% と最も高く、次いで「30~34 歳」 (30.4%)、「20~24 歳」 (8.0%) となっています。

平成 28 年度県調査と比較すると、平均値が 0.58 歳高くなっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／第一子を持つ理想の年齢



性年代別にみると、男性・計では《30歳前》（「16~19歳」+「20~24歳」+「25~29歳」の合計）が約4割に対して、女性・計では約7割となっています。

子どもの人数別にみると、子どものありの方では《30歳前》が約7割となっている一方、子どもなしの方では約4割となっています。

平均値は、性年代別・婚姻別・子どもの人数別いずれも28歳前後となっていますが、男性20~29歳及び未婚の方では30歳を越えています。

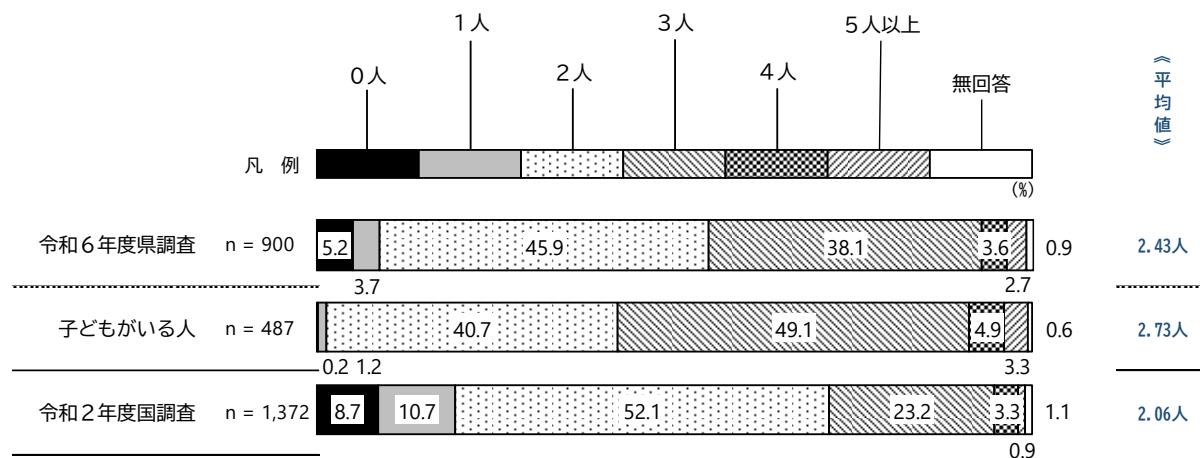
4-2 理想の子どもの人数

問 26 あなたにとって、理想の子どもの人数は何人ですか。また、現実に持てると思う子どもの人数は何人ですか。

※現在子どもがいる方は、その子どもも含めた人数をお答えください。

※子どもを持つつもりのない方は、「0」とご記入ください。

◆理想の人数 令和2年度国調査との比較

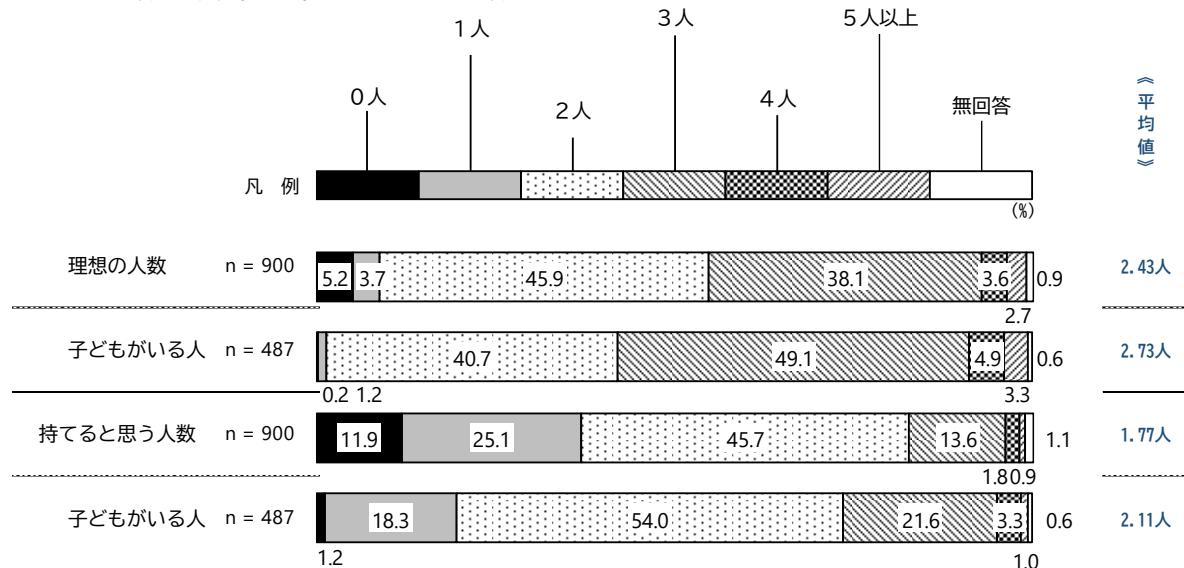


令和2年度「少子化社会に関する国際意識調査」

理想の子どもの人数については、「2人」が45.9%と最も高く、次いで「3人」(38.1%)となっています。一方で、「0人」も5.2%みられます。

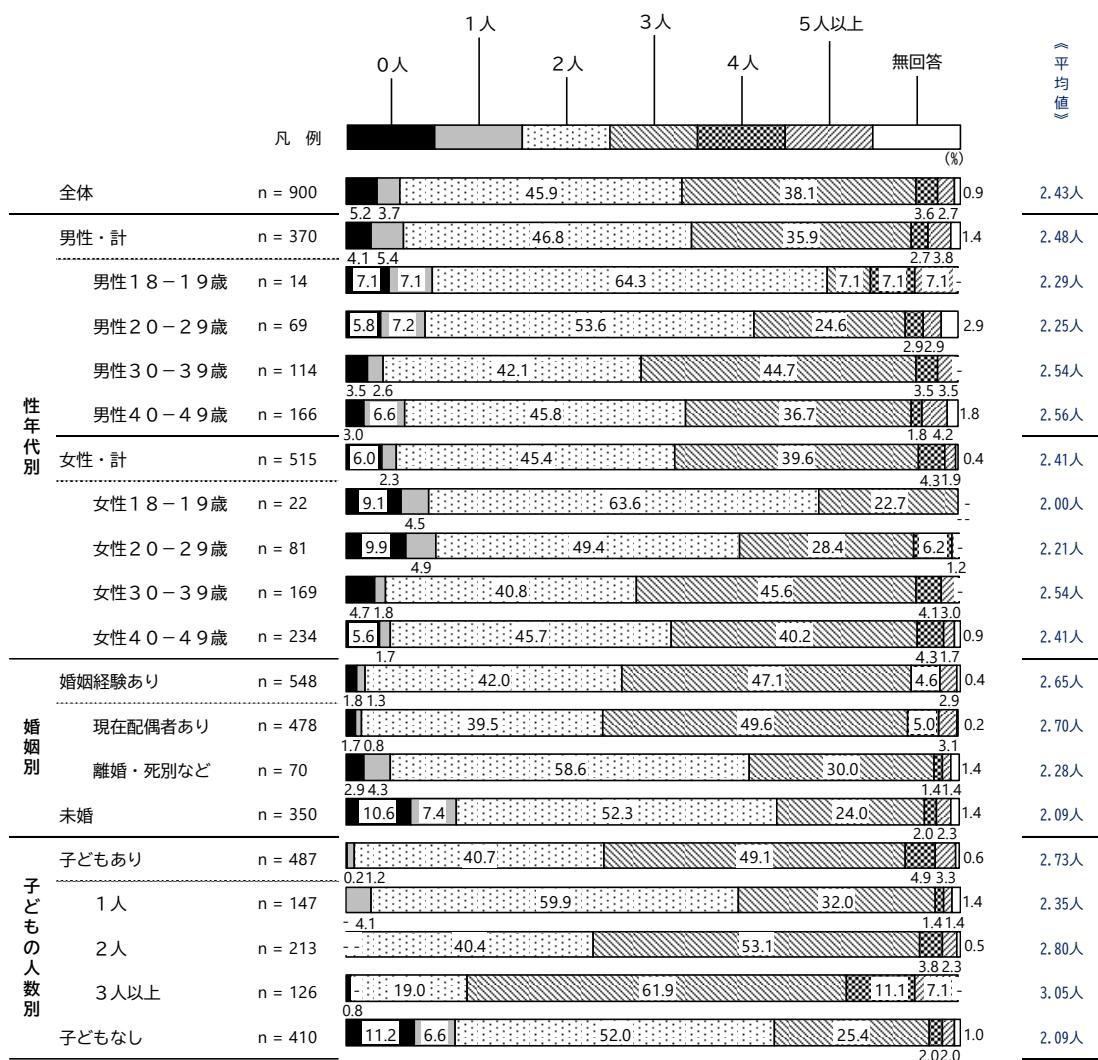
令和2年度国調査と比較すると、全体の平均値は2.43人と国調査を上回っており、0.37人多くなっています。

◆理想の人数と実際に持てると思う人数



理想の子どもの人数と実際に持てると思う人数を比較すると、実際に持てると思う人数では平均値が1.77人と理想の人数を下回っており、かつ2人を下回っています。子どもがいる人では、実際に持てると思う子どもの人数の平均値は2.11人と全体の平均値を0.34人上回っています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／理想の人数

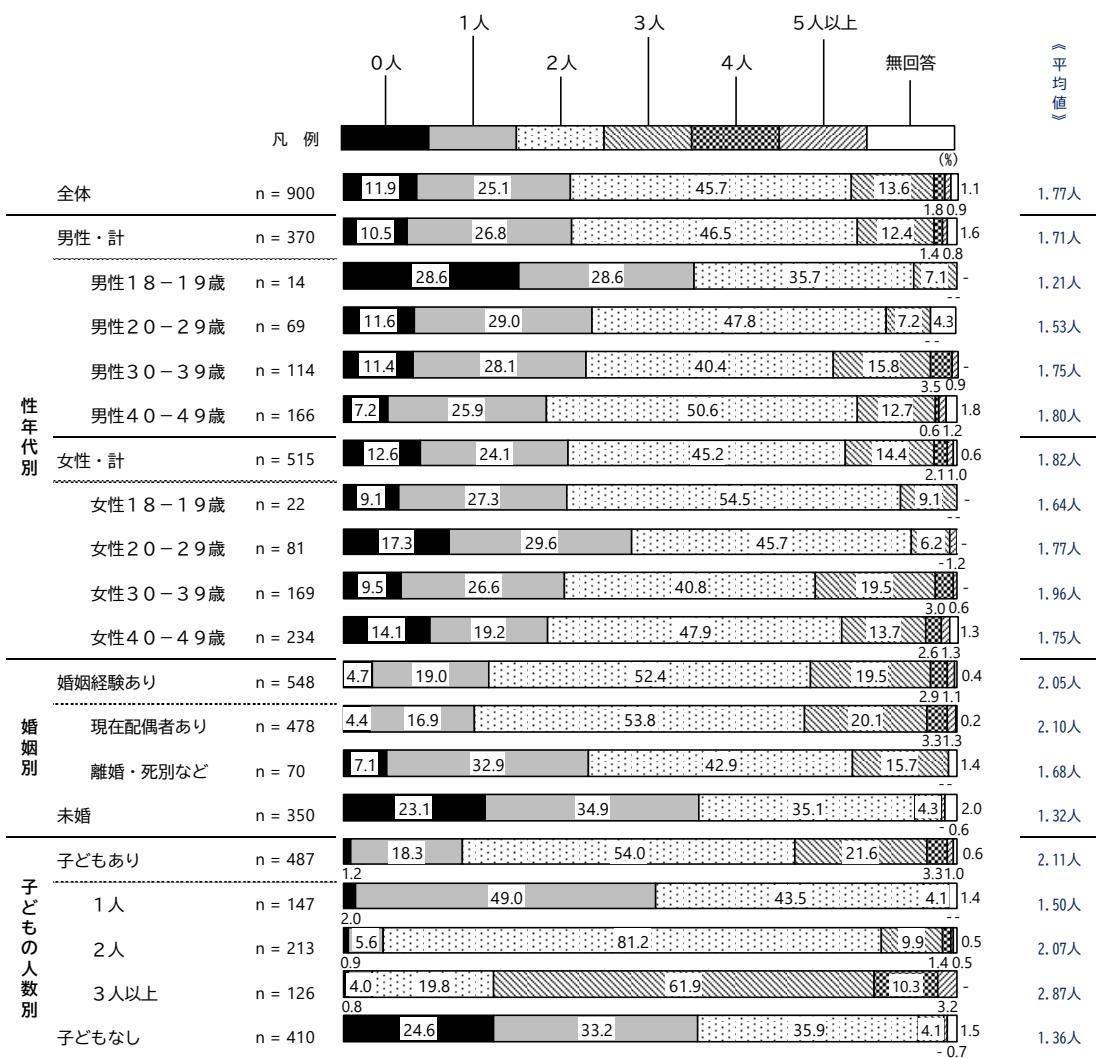


性年代別にみると、男女ともに概ね年代が下がるにつれて2人以下の割合が高くなっています。特に、29歳以下では「0人」や「1人」が高い傾向となっています。

婚姻別にみると、婚姻経験ありの方では「2人」及び「3人」で約9割を占めている一方、未婚の方では8割未満となり、「0人」及び「1人」が約2割となっています。

子どもの人数別にみると、子どもが1人の方では90%以上が「2人以上」が理想と回答しています。また、子どもが2人の方では約6割が「3人以上」が理想と回答しています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／実際に持てると思う人数



性年代別にみると、女性 40-49 歳を除き、男女とも年代が下がるにつれて平均値が低くなっています。

婚姻別にみると、未婚の方では「0人」及び「1人」が婚姻経験ありの方に比べて10ポイント以上高くなっています。

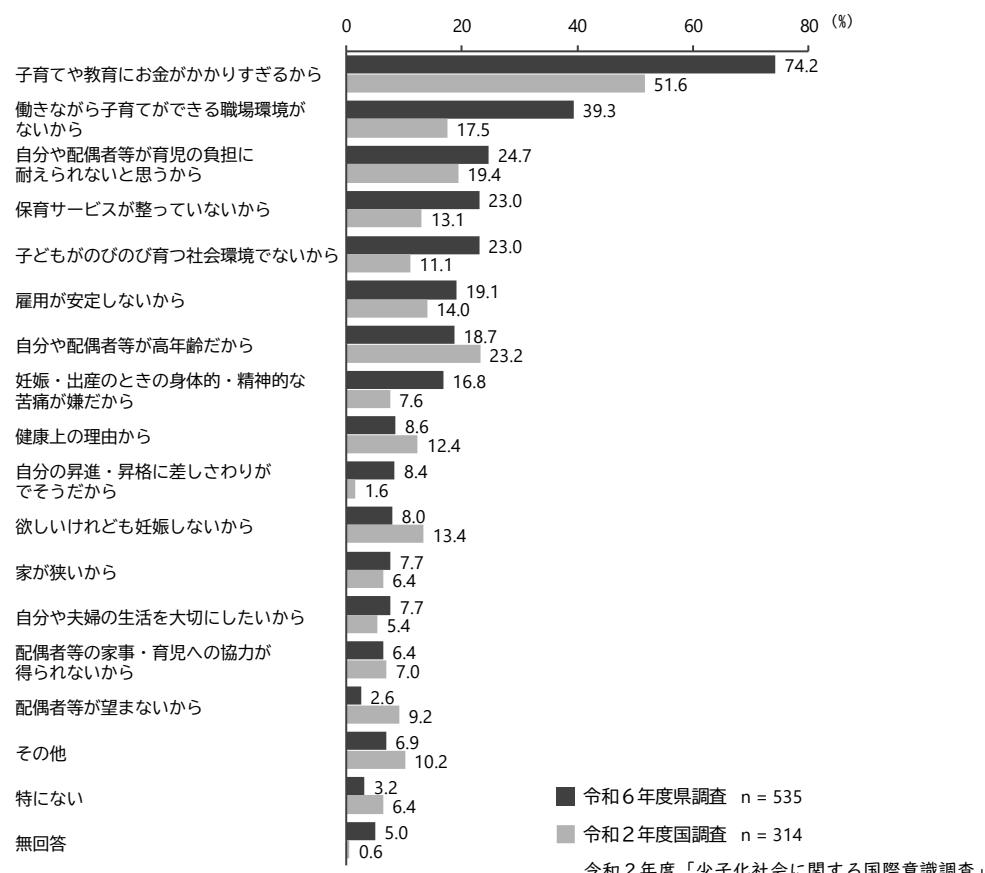
子どもの人数別にみると、子どもが1人の方は「1人」と「2人」が約半数ずつ、2人の方は「2人」、3人以上の方は「3人」の回答割合が高くなっています。2人以上子どもがいる方では現在の子どもの人数まで8割以上を占めています。

平均値は、婚姻経験ありの方、子どもありの方のみ2人を上回っています。

4-3 実際に持てると思う子どもの数が理想より少ない、または子どもを持つつもりがない理由

【問26で、実際に持てると思う子どもの人数が理想の人数に比べ少ない方、または理想的な人数が0人の方にお伺いします】

問27 その理由として、考えられるものはなんですか。 (○はいくつでも)



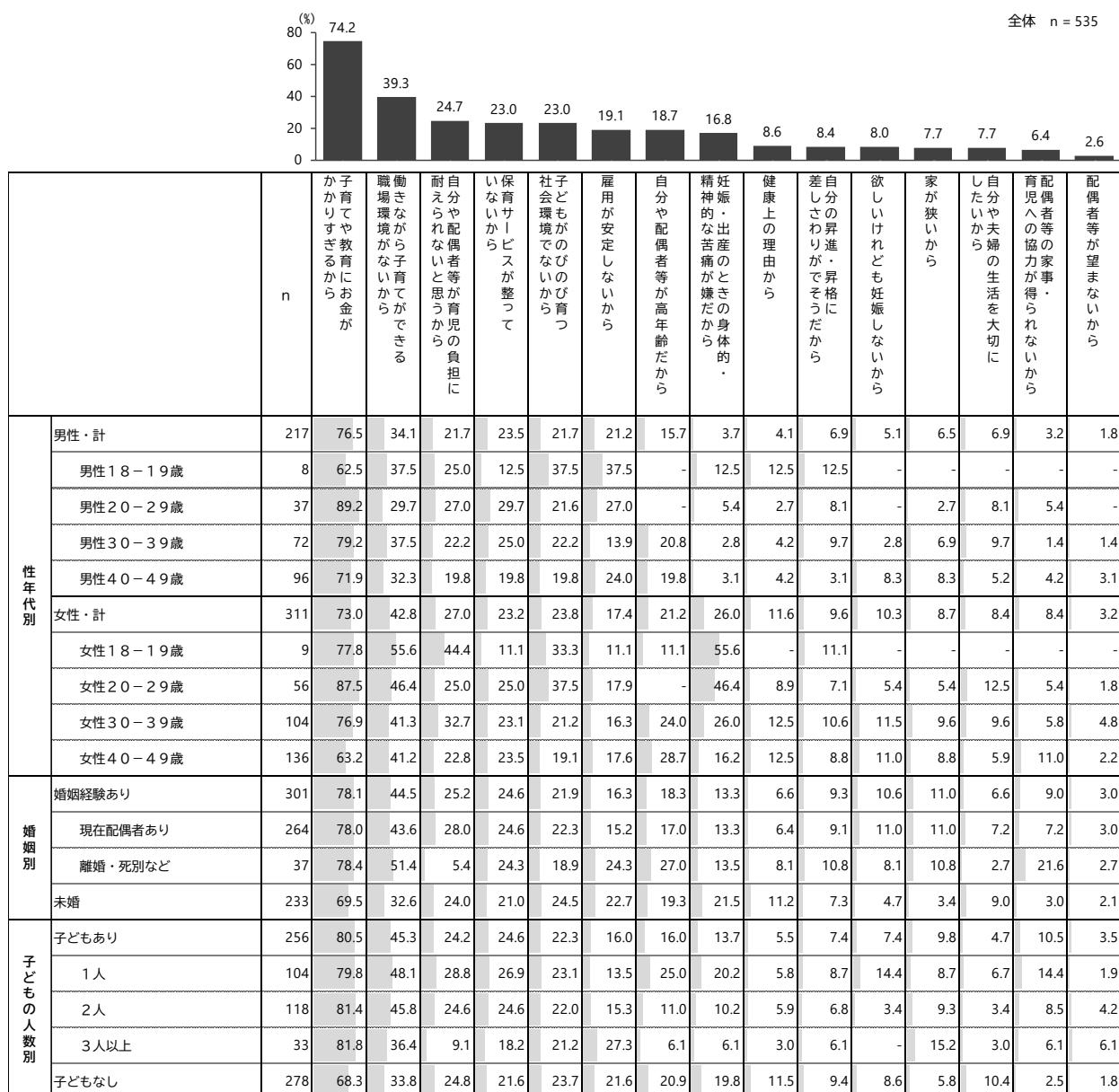
※令和2年度国調査では「希望する数まで又は今よりも子供を増やさない（増やせない）理由」として聴取している

実際に持てると思う子どもの数が理想より少ない、または子どもを持つつもりがない理由については、「子育てや教育にお金がかかるから」が74.2%と最も高く、次いで「働きながら子育てができる職場環境がないから」(39.3%)、「自分や配偶者等が育児の負担に耐えられないと思うから」(24.7%)となっています。

聴取内容が異なるため参考程度の比較になりますが、令和2年度国調査と比較すると、「子育てや教育にお金がかかるから」が回答率第1位であることは同様であるものの、第2位が令和2年度国調査では「自分や配偶者等が高年齢だから」であるのに対し、令和6年度県調査では「働きながら子育てができる職場環境がないから」となっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／

実際に持てると思う子どもの数が理想より少ない、または子どもを持つつもりがない理由



※「その他」「特になし」「無回答」は非掲載

性年代別にみると、男女ともに全ての年代で「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も高くなっています。特に、男女ともに20-29歳では全体と比べ10ポイント以上高くなっています。また、女性18-29歳では「妊娠・出産のときの身体的・精神的な苦痛が嫌だから」が約50%となっており、2番目に回答割合が高くなっています。

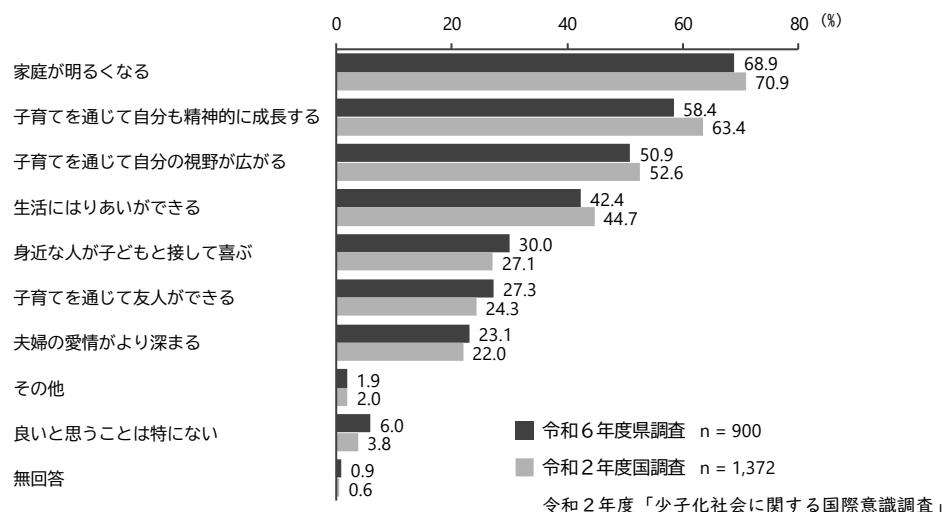
子どもの有無別にみると、子どもありの方では「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が子どもなしの方に比べ12.2ポイント、「働きながら子育てができる職場環境がないから」が11.5ポイント高くなっています。一方、「妊娠・出産のときの身体的・精神的な苦痛が嫌だから」は6.1ポイント低くなっています。

4-4 子育てをしていて良かったと思うこと

問28 あなたが、子育てをしていて、良かったと思うことは何ですか。

※子どもがいない方は、仮にご自分が子育てをする場合を想定して選んでください。

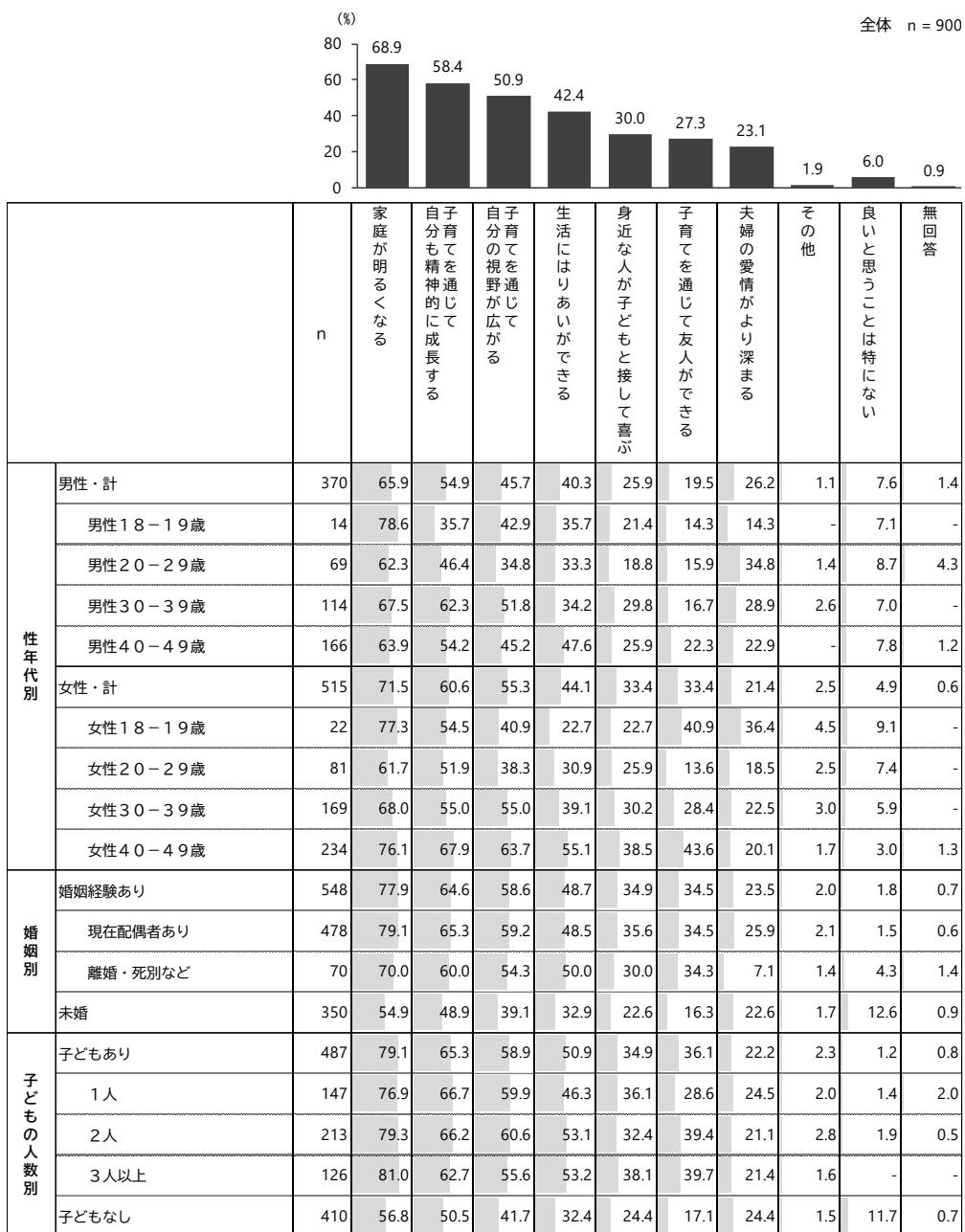
(○はいくつでも)



子育てをしていて良かったと思うことについては、「家庭が明るくなる」が68.9%と最も高く、次いで「子育てを通じて自分も精神的に成長する」(58.4%)、「子育てを通じて自分の視野が広がる」(50.9%)となっています。

令和2年度国調査と比較すると、全体的な回答結果に大きな差はみられませんでした。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／子育てをしていて良かったと思うこと



性年代別にみると、女性・計では「子育てを通じて友人ができる」が男性・計と比べて 10 ポイント以上高くなっています。また、ほとんどの項目で女性・計の回答割合が男性・計より高くなっていますが、「夫婦の愛情がより深まる」では男性の回答割合が女性に比べ高くなっています。

婚姻別にみると、婚姻経験ありの方は未婚の方に比べほとんどの項目で回答割合が高くなっています。特に、「家庭が明るくなる」が 20 ポイント以上高くなっています。

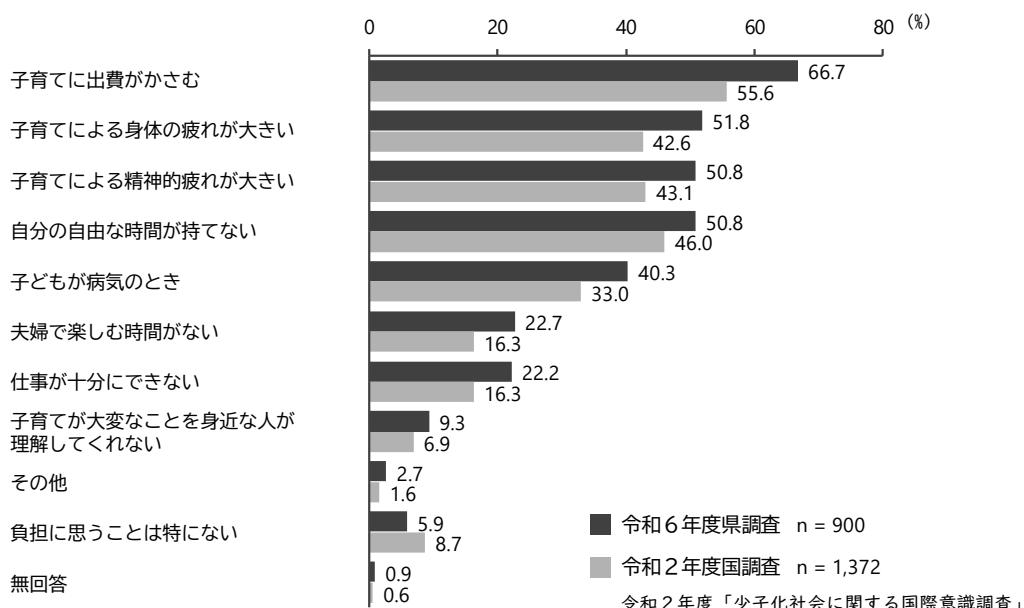
子どもの人数別にみると、子どもなしの方では「良いと思うことは特にない」が子どもありの方に比べて 10.5 ポイント高くなっています。子どもありの方では「家庭が明るくなる」が 20 ポイント以上、「子育てを通じて自分の視野が広がる」「生活にはりあいができる」「子育てを通じて友人ができる」が子どもなしの方に比べて 15 ポイント以上高くなっています。

4-5 子育てをしていて負担に思うこと

問29 あなたが、子育てをしていて、自分にとって負担に思うことはどんなことですか。

※子どもがいない方は、仮にご自分が子育てをする場合を想定して選んでください。

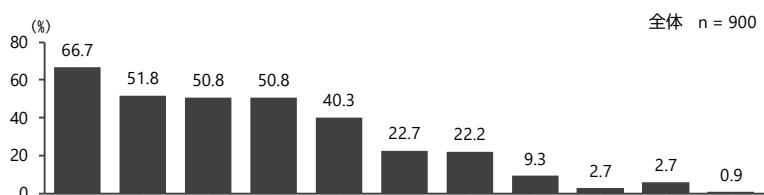
(○はいくつでも)



子育てをしていて負担に思うことについては、「子育てに出費がかさむ」が 66.7% と最も高く、次いで「子育てによる身体の疲れが大きい」(51.8%)、「子育てによる精神的疲れが大きい」「自分の自由な時間が持てない」(いずれも 50.8%) となっています。

令和 2 年度国調査と比較すると、「子育てに出費がかさむ」が 11.1 ポイント高くなっているものの、全体的な回答割合に大きな差はみられませんでした。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／子育てをしていて負担に思うこと



		n	子育てに出費がかさむ	身子育てによる身体の疲れが大きい	精子育てによる精神的疲れが大きい	自分の自由な時間が持てない	子どもが病気のとき	夫婦で楽しむ時間ががない	仕事が十分にできない	身子育て人が大変理解なしことくれない	その他	負担に思うことは特にない	無回答
性年代別	男性・計	370	60.3	44.3	45.9	46.2	31.1	25.1	11.6	7.0	0.5	9.7	1.4
	男性18～19歳	14	64.3	50.0	50.0	50.0	35.7	7.1	7.1	7.1	-	14.3	-
	男性20～29歳	69	68.1	55.1	56.5	44.9	37.7	24.6	10.1	7.2	-	5.8	4.3
	男性30～39歳	114	56.1	50.9	52.6	51.8	28.1	29.8	12.3	7.9	-	9.6	-
	男性40～49歳	166	59.6	36.1	37.3	44.0	29.5	24.7	12.0	6.6	1.2	10.2	1.2
	女性・計	515	71.3	57.7	54.8	54.4	47.0	20.8	29.5	10.9	4.3	3.3	0.6
	女性18～19歳	22	86.4	68.2	59.1	59.1	50.0	18.2	36.4	18.2	-	4.5	-
	女性20～29歳	81	81.5	74.1	65.4	61.7	43.2	30.9	25.9	9.9	4.9	1.2	-
	女性30～39歳	169	74.0	59.2	56.8	61.5	49.1	22.5	30.2	13.0	3.0	1.2	-
	女性40～49歳	234	65.0	50.4	50.0	46.2	46.6	16.2	29.1	9.0	5.1	5.1	1.3
婚姻別	婚姻経験あり	548	65.3	47.3	45.8	50.4	42.2	22.1	23.4	9.3	3.5	6.0	0.7
	現在配偶者あり	478	65.1	47.7	46.4	50.6	42.1	23.6	24.3	8.6	3.8	6.3	0.6
	離婚・死別など	70	67.1	44.3	41.4	48.6	42.9	11.4	17.1	14.3	1.4	4.3	1.4
	未婚	350	69.1	59.1	58.9	51.7	37.7	23.7	20.3	9.4	1.4	5.7	0.9
子どもの人数別	子どもあり	487	64.9	43.3	43.5	48.9	42.3	19.9	22.2	9.4	3.9	6.2	0.8
	1人	147	57.8	44.2	42.2	51.0	46.3	17.0	20.4	12.2	4.8	4.8	2.0
	2人	213	63.8	43.7	45.1	47.9	39.9	20.2	23.5	7.5	3.3	7.5	0.5
	3人以上	126	75.4	42.1	42.9	48.4	41.3	23.0	22.2	9.5	4.0	5.6	-
	子どもなし	410	69.0	62.2	59.8	53.4	38.0	26.1	22.4	9.3	1.2	5.4	0.7

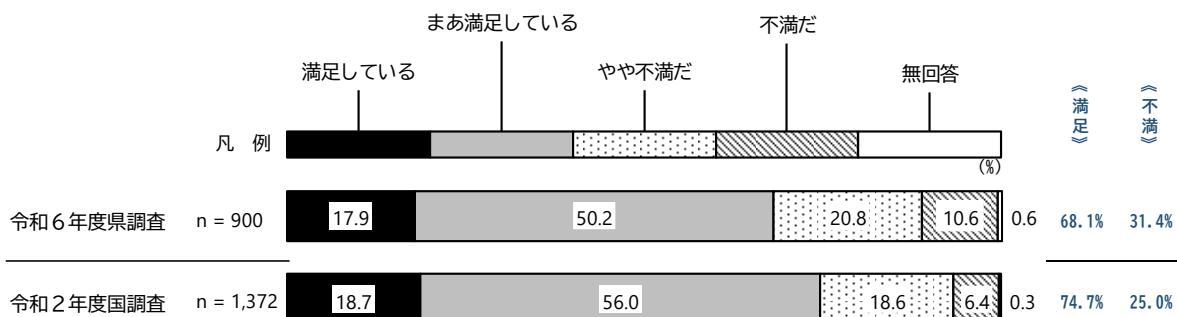
性年代別にみると、ほとんどの項目で女性が男性に比べ回答割合が高くなっています。特に、女性・計では「子育てに出費がかさむ」「子育てによる身体の疲れが大きい」「仕事が十分にできない」「子どもが病気のとき」が男性・計に比べ 10 ポイント以上高くなっています。

子どもの人数別にみると、子どもなしの方は子どもありの方に比べ多くの項目で回答割合が高くなっています。特に、「子育てによる身体の疲れが大きい」が 18.9 ポイント、「子育てによる精神的疲れが大きい」が 16.3 ポイント高くなっています。

5 仕事と生活について

5-1 現在の生活にどの程度満足しているか

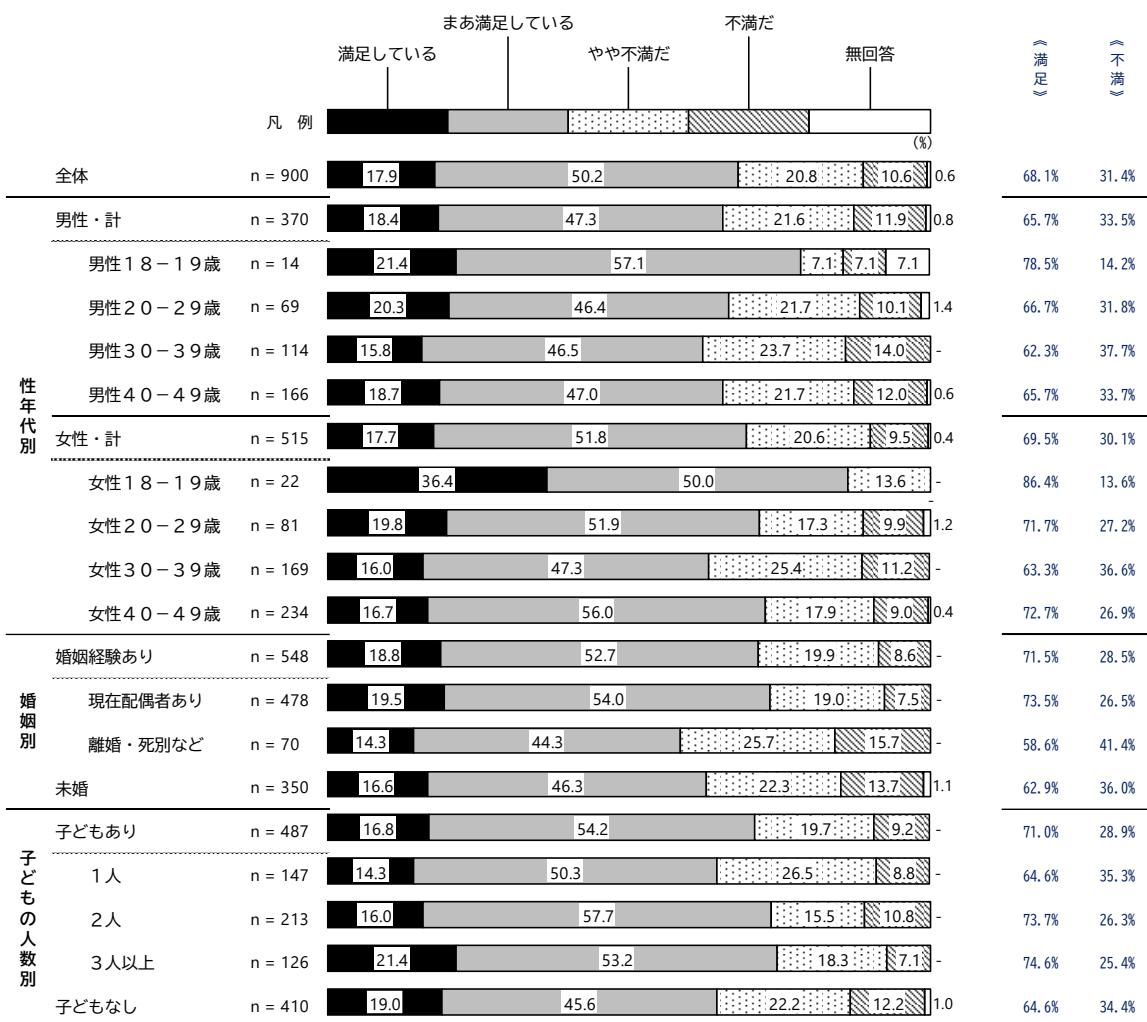
問30 あなたは、全体として、現在の生活にどの程度満足していますか。 (○は1つ)



令和2年度「少子化社会に関する国際意識調査」

現在の生活にどの程度満足しているかについては、「まあ満足している」が50.2%と最も高く、次いで「やや不満だ」(20.8%)、「満足している」(17.9%)となっています。《満足》(「満足している」+「まあ満足している」の合計)は、約7割となっています。令和2年度国調査と比較すると、《満足》は6.6ポイント低くなっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／現在の生活にどの程度満足しているか



性年代別にみると、男女ともに18-19歳で《満足》が最も高くなっています。また、いずれの年代も女性が男性に比べ《満足》の回答割合が高くなっています。

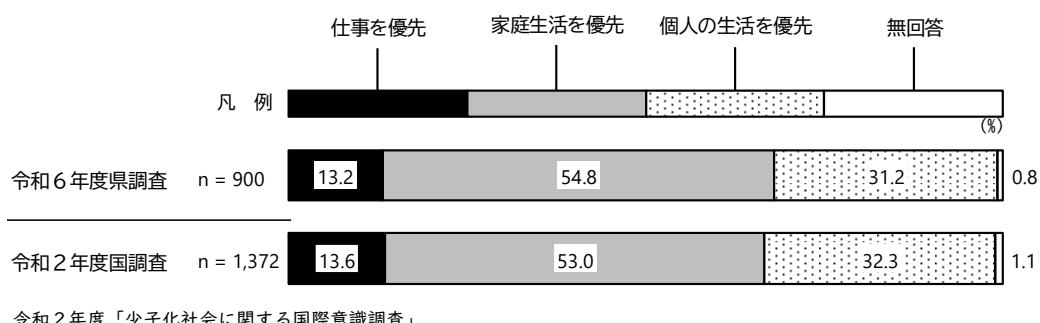
婚姻別、子どもの人数別にみると、婚姻経験ありの方、子どもの有無の方では《満足》が未婚の方、子どもなしの方と比べ約10ポイント高くなっています。子どもが1人の場合では《満足》が64.6%と、子どもなしの方と同様の値となっていますが、子どもが2人以上の方では《満足》が7割以上と高くなっています。

5-2 仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度

問31 現在のあなたの日常における、仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度をうかがいます。

(A) および (B) について、あなたのお考えに最も近いものをひとつずつお選びください。 (○は1つずつ)

(A) 希望にもっとも近いもの

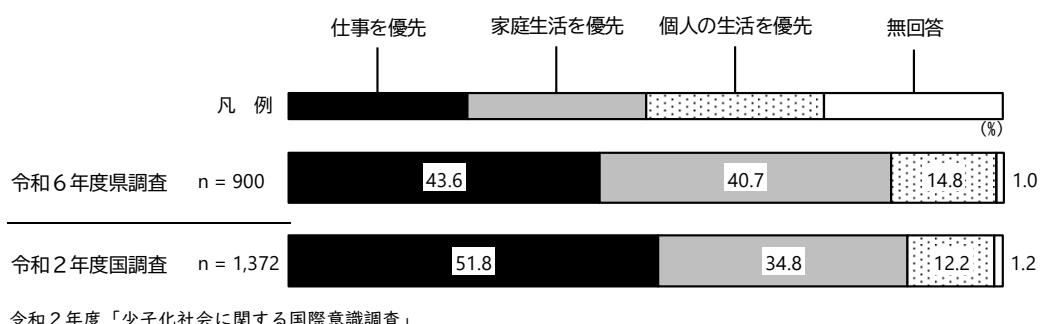


仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度の希望については、「家庭生活を優先」が54.8%と最も高く、次いで「個人の生活を優先」(31.2%)、「仕事を優先」(13.2%)となっています。

令和2年度国調査と比較すると、全体的な回答結果に大きな差はみられませんでした。

(B) 現実にもっとも近いもの

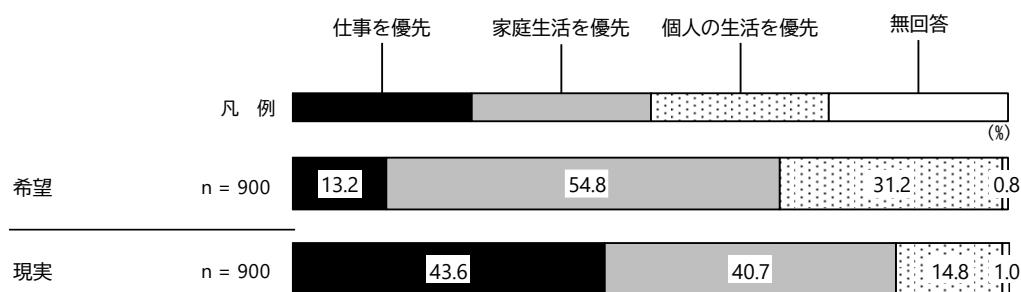
※学生の方は、「仕事」を「学業」と考えてお答えください。



仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度の現実については、「仕事を優先」が43.6%と最も高く、次いで「家庭生活を優先」(40.7%)、「個人の生活を優先」(14.8%)となっています。

令和2年度国調査と比較すると、「仕事を優先」が8.2ポイント低くなっている一方、「家庭生活を優先」が5.9ポイント高くなっています。

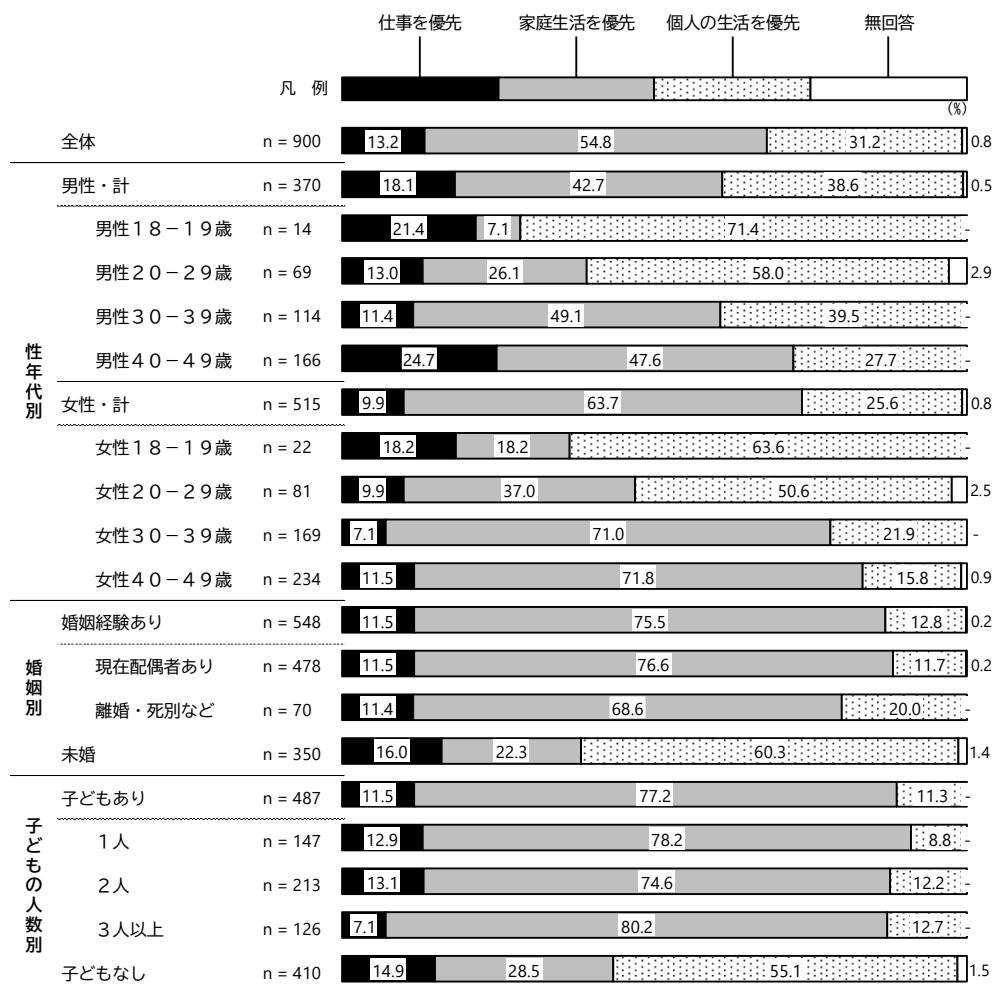
◆希望にもっとも近いものと現実にもっとも近いもの



希望では「家庭生活を優先」及び「個人の生活を優先」が「仕事を優先」を上回っていますが、現実では「仕事が優先」が43.6%と大幅に高くなっている一方、「個人の生活を優先」及び「家庭生活を優先」は希望に比べ10ポイント以上低くなっています、希望と現実の差が大きくなっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別

／仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度（希望にもっとも近いもの）

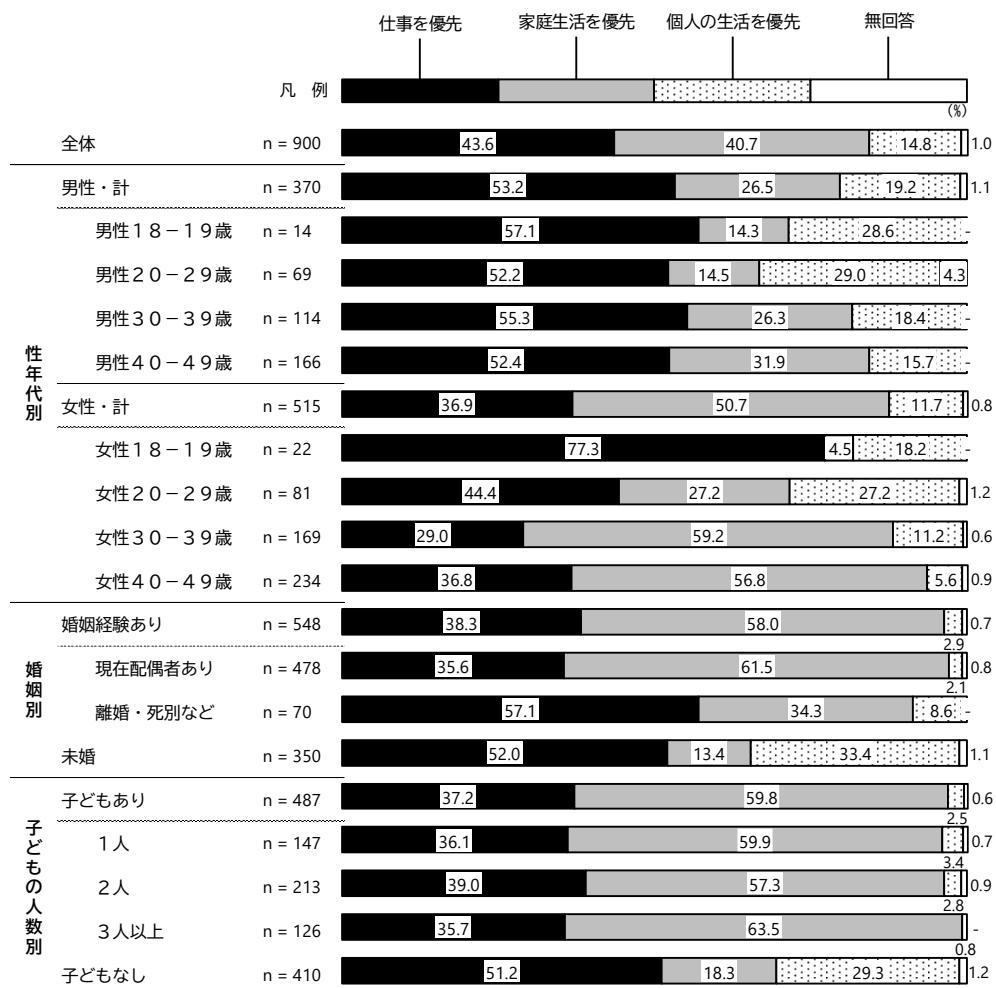


性年代別にみると、男女ともに 18-29 歳では「個人の生活を優先」が最も高く、30-49 歳では「家庭生活を優先」が最も高くなっています。

婚姻別、子どもの人数別にみると、未婚の方、子どもなしの方では「個人の生活を優先」が最も高く、婚姻経験ありの方、子どもありの方では「家庭生活を優先」が最も高くなっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別

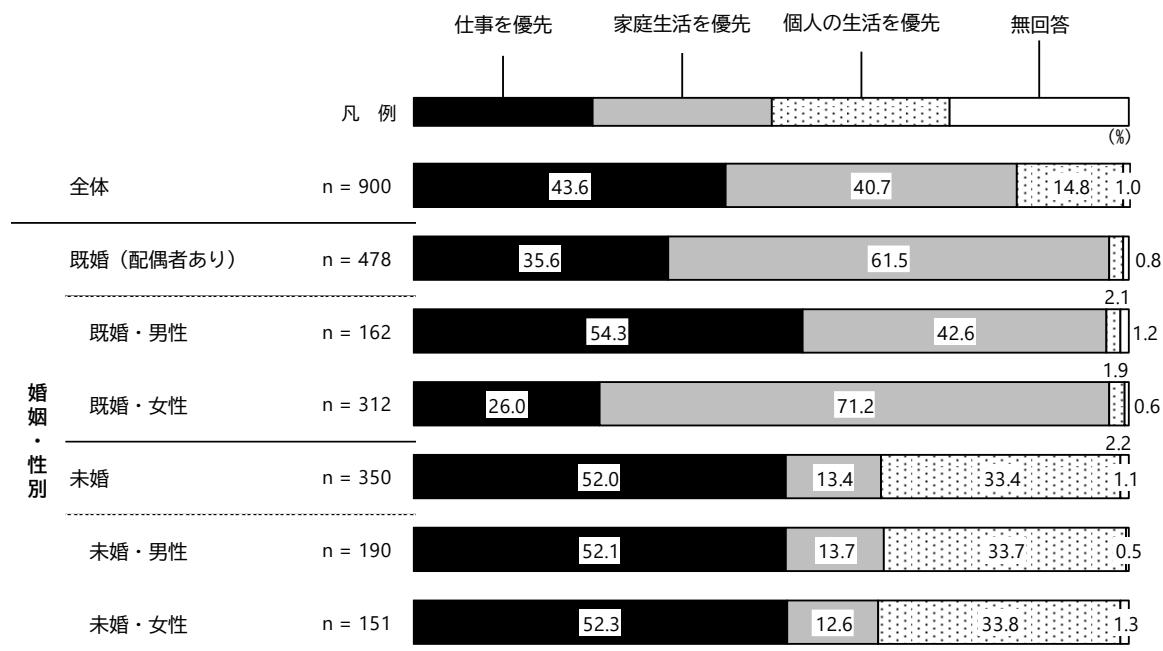
／仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度（現実にもっとも近いもの）



性年代別にみると、男性の全ての年代及び女性 18-29 歳では「仕事を優先」、女性 30-49 歳では「家庭生活を優先」が最も高くなっています。

婚姻別、子どもの人数別にみると、婚姻経験ありの方、子どもありの方では「個人の生活を優先」が 5% 未満となっているものの、未婚の方、子どもなしの方では同割合が約 30% となっています。

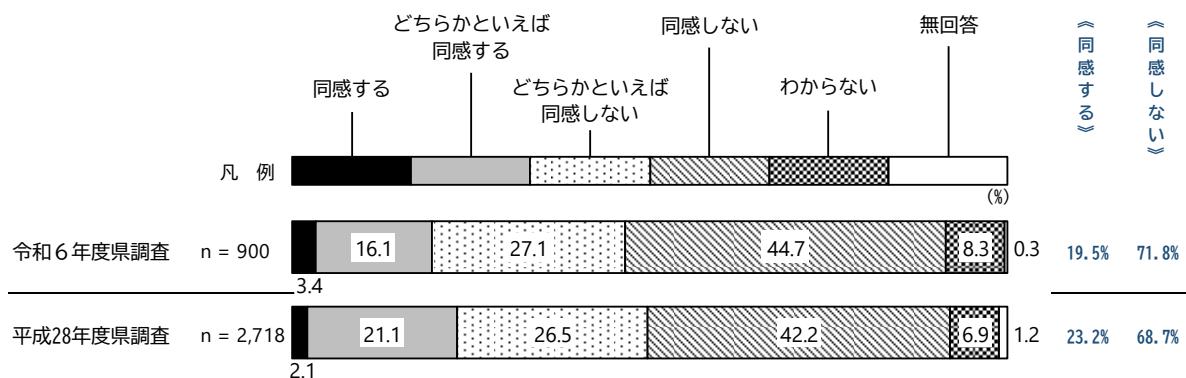
◆婚姻・性別／仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度（現実にもっとも近いもの）



婚姻・性別にみると、既婚・男性では「仕事を優先」が54.3%といずれの婚姻・性別に比べて高くなっています。既婚者（配偶者あり）のうち、男性では「仕事を優先」が女性に比べて28.3ポイントと極めて高くなっています。一方、既婚・女性では「家庭生活を優先」が最も高くなっています。約7割を占めています。未婚の方では性差がみられませんが、既婚の方では仕事、家庭生活のバランスに大きな差がみられます。

5-3 「男は仕事、女は家庭」という考え方

問 32 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という性別によって役割を固定する考え方をどのように思いますか。（○は1つ）

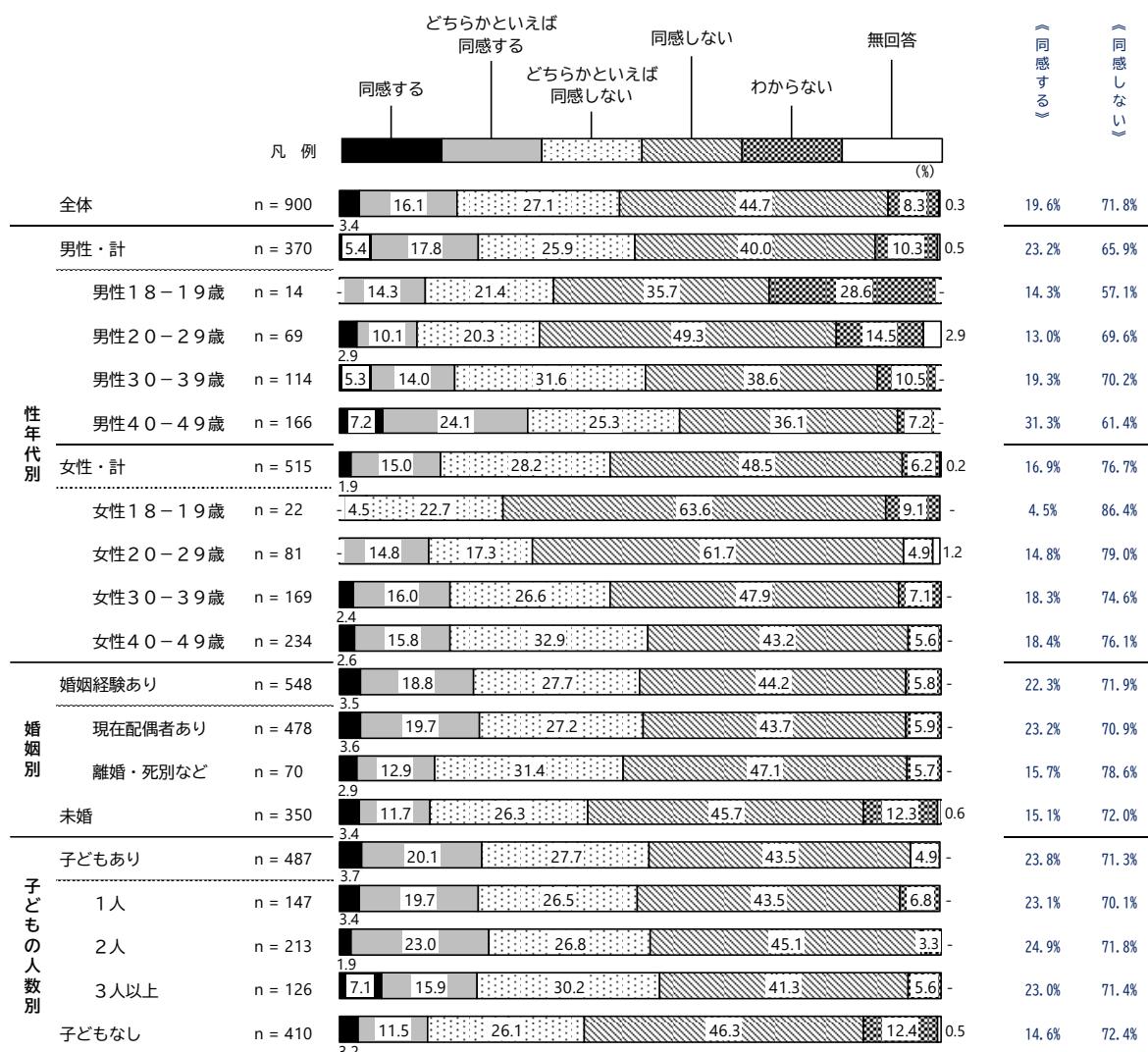


平成 28 年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」

「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「同意しない」が 44.7% と最も高く、次いで「どちらかといえば同意しない」（27.1%）、「どちらかといえば同意する」（16.1%）となっています。《同意しない》（「どちらかといえば同意しない」 + 「同意しない」の合計）は約 7 割を占めています。

平成 28 年度県調査と比較すると、全体的な回答結果に大きな差はみられませんでした。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／「男は仕事、女は家庭」という考え方

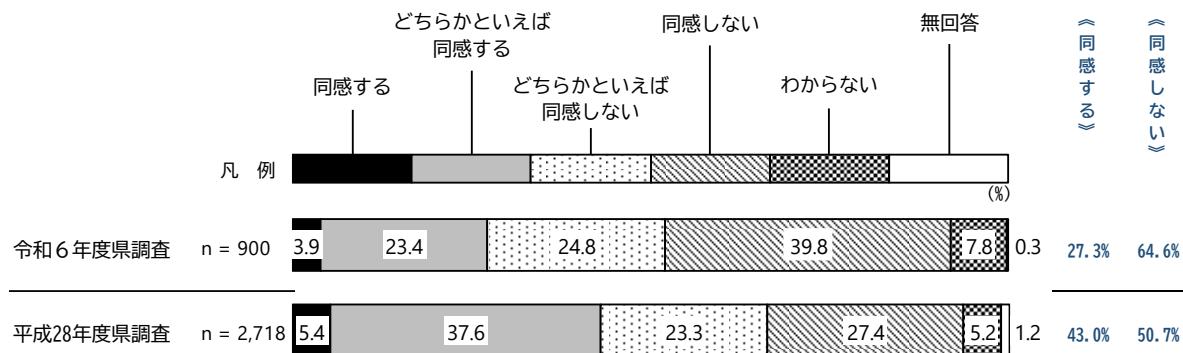


性年代別にみると、男性・計では約 65%、女性・計では約 75%が《同感しない》と回答しており、男性では女性に比べ約 10 ポイント回答割合が低くなっています。

子どもの人数別にみると、子どもありの方では《同感する》（「同感する」 + 「どちらかといえば同感する」の合計）がいずれの人数でも 20%を超えており、子どもなしの方では同割合が 15%未満となっています。

5-4 「子育ては母親でなければならない」という考え方

問33 あなたは、「子育てはやっぱり母親でなければならない」という考え方をどのように思いますか。（○は1つ）

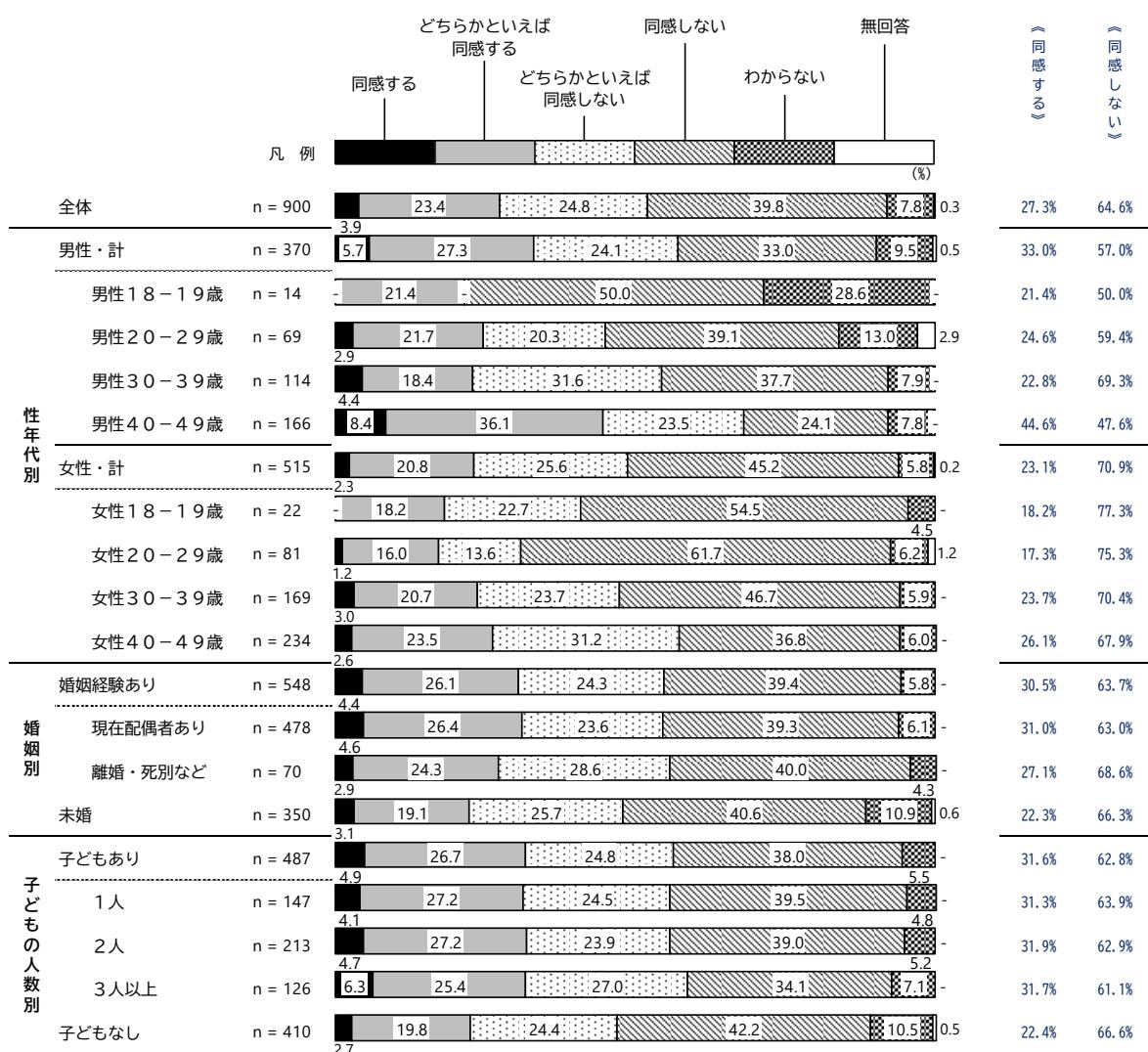


平成28年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」

「子育ては母親でなければならない」という考え方については、「感同しない」が39.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば感同しない」(24.8%)、「どちらかといえば感同する」(23.4%)となっています。また、《感同しない》（「どちらかといえば感同しない」+「感同しない」の合計）は6割以上となり、《感同する》（「感同する」+「どちらかといえば感同する」の合計）の27.3%を大幅に上回っています。

平成28年度県調査と比較すると、「どちらかといえば感同する」が14.2ポイント低くなっている一方、「感同しない」が12.4ポイント高くなっています。また、「感同する」が15.7ポイント低くなっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／「子育ては母親でなければならない」という考え方



性年代別にみると、《同感しない》では男性・計が女性・計に比べ 10 ポイント以上低く、男女の考え方には差がみられます。また、男性では 40-49 歳を除く全ての年代で《同感しない》が 5 ~ 6 割となっている一方、40-49 歳では 4 割台となっています。

子どもの人数別にみると、子どもありの方では《同感する》がいずれの人数でも 30% を超えていますが、子どもなしの方では同割合が 25% 未満となっています。

5-5 結婚した女性の働き方について

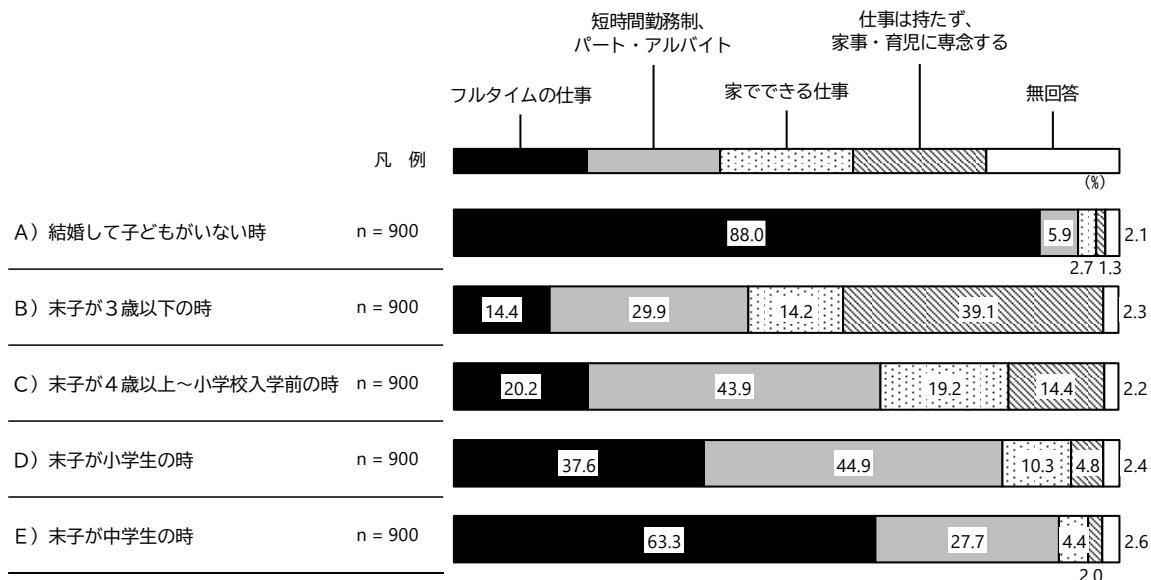
問34 結婚した女性の働き方についてご意見を伺います。

※あなたが女性の場合はあなたご自身の希望する働き方を、

あなたが男性の場合は配偶者等の方に希望する働き方を、

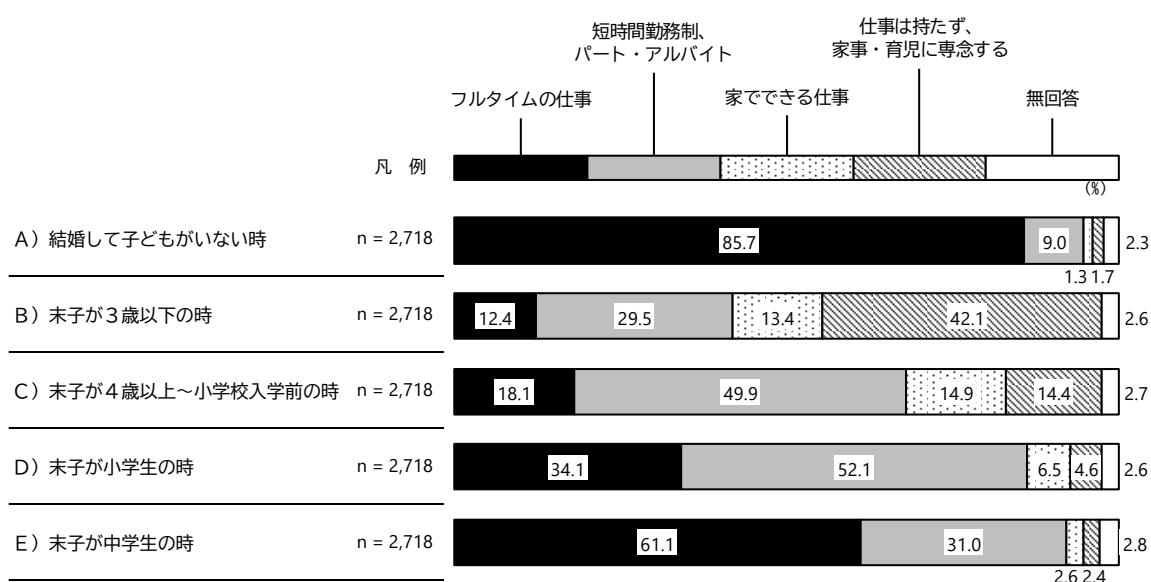
A)～E)のそれぞれの状況についてお選びください。（○は1つずつ）

【令和6年度県調査】



【平成28年度県調査】

平成28年度「宮城県 結婚・出産・子育てに関する意識調査」

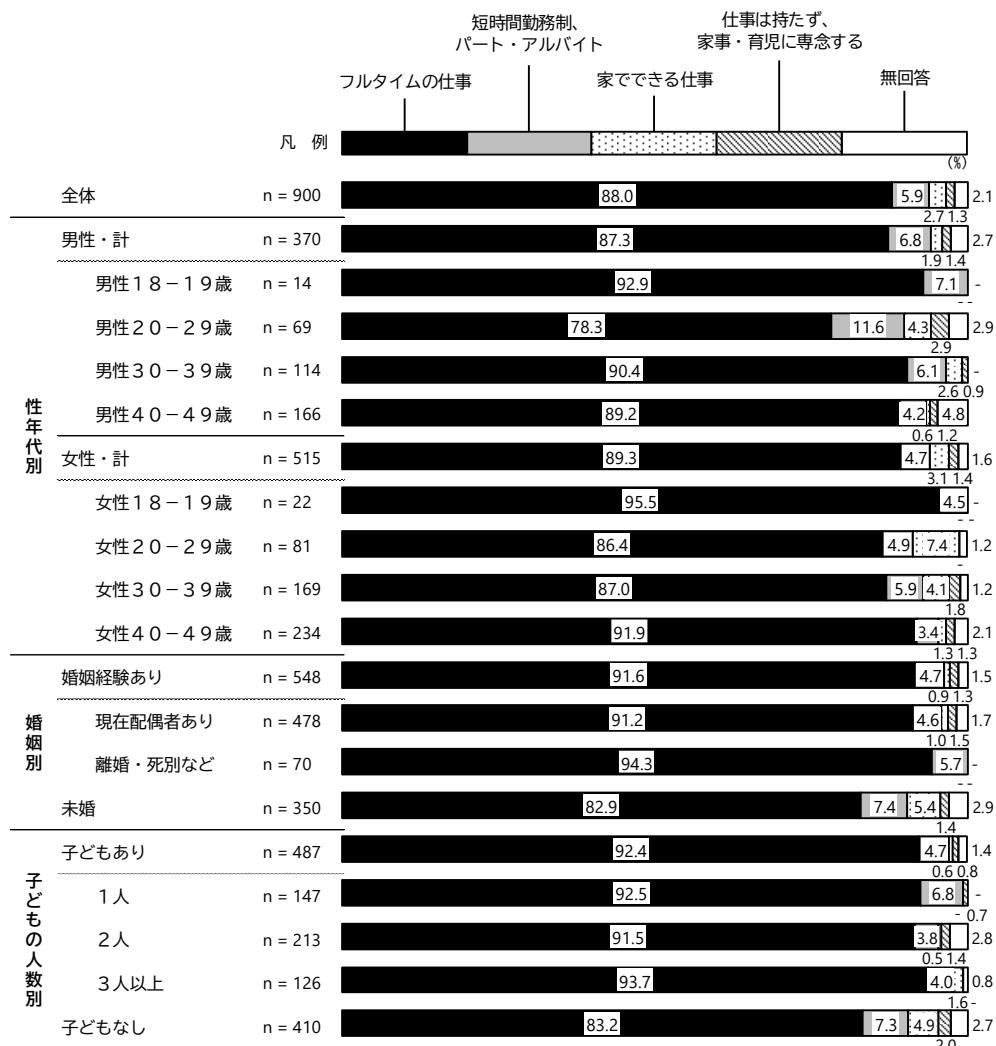


結婚した女性の働き方については、A) 結婚して子どもがいない時では大多数が有職を希望していますが、B) 末子が3歳以下の時では「仕事は持たず、家事・育児に専念する」が約4割となり、末子の成長に伴って再び有職の回答割合が増加しています。

平成28年度県調査と比較すると、D) 末子が小学生の時で「短時間勤務制、パート・アルバイト」がやや低くなっているものの、全体的な回答割合に大きな差はみられませんでした。

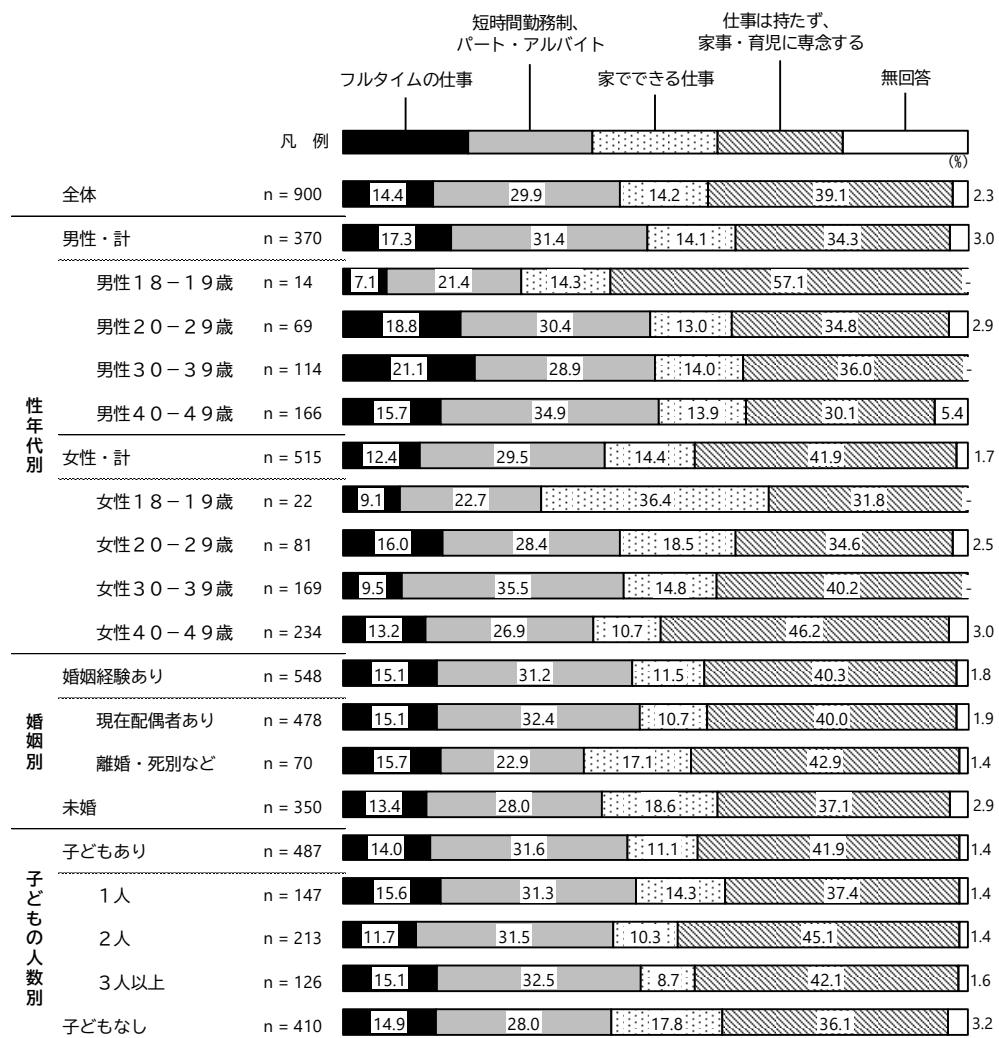
◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／結婚した女性の働き方について

A) 結婚して子どもがいない時



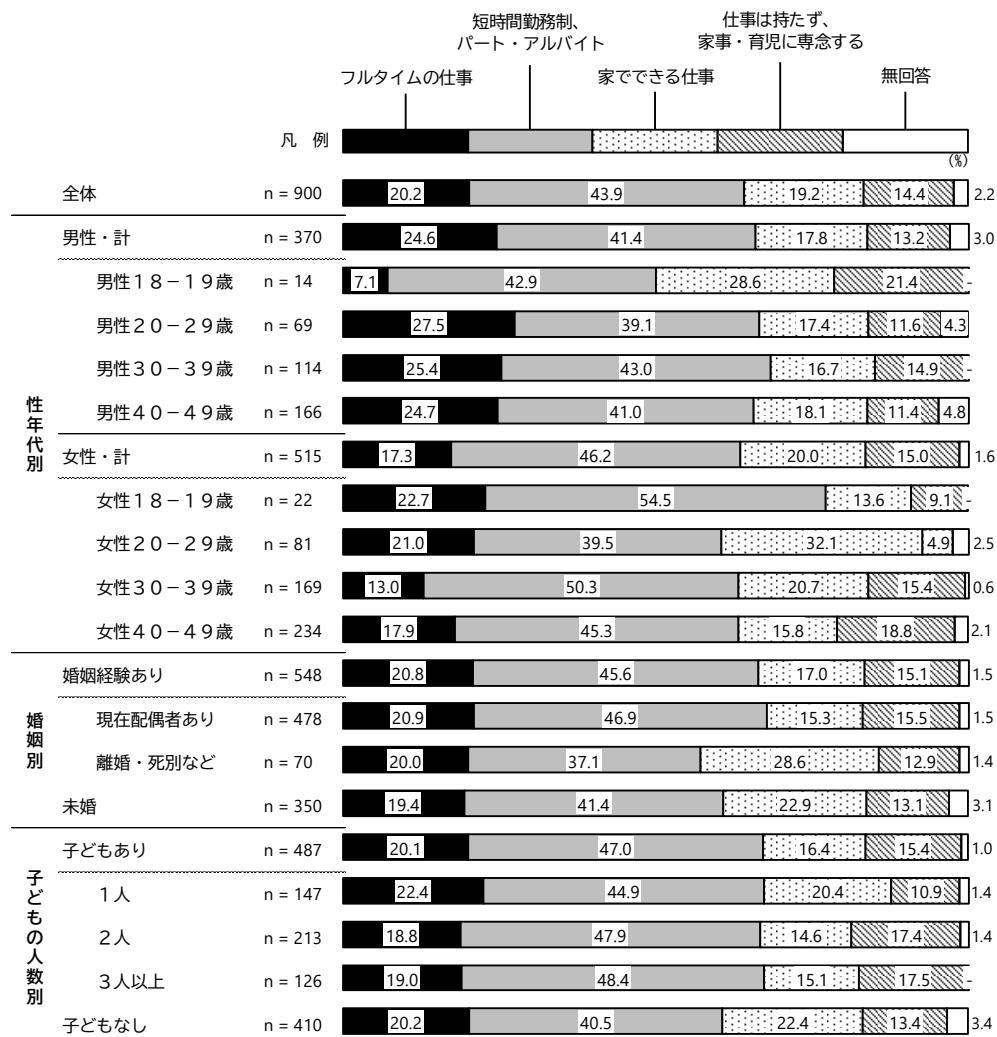
性年代別にみると、男女ともに全ての年代で「フルタイムの仕事」が最も高くなっています。ほぼ全員が有職を希望しています。

B) 末子が3歳以下の時



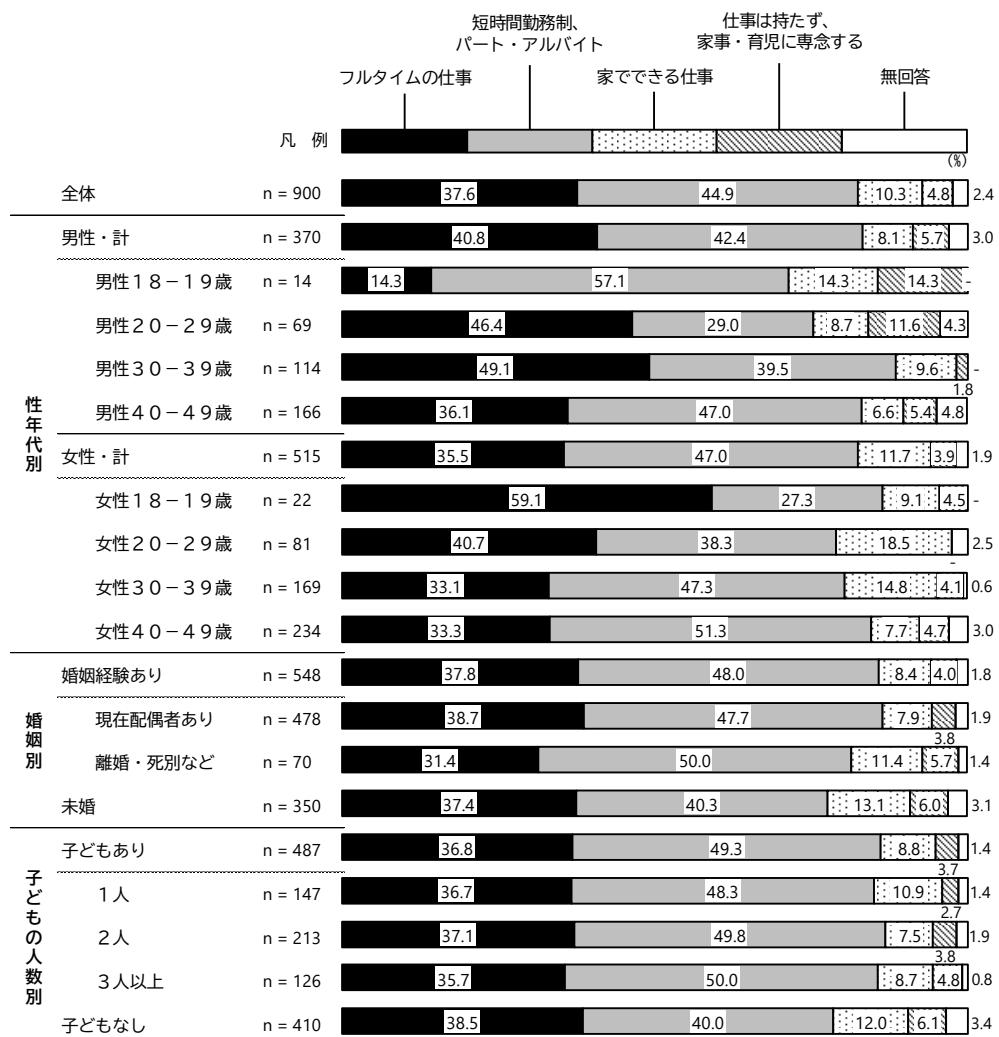
性年代別にみると、男性 40-49 歳及び女性 18-19 歳除く年代では「仕事は持たず、家事・育児に専念する」が最も高くなっています。また、男女ともに全ての年代で「短時間勤務制、パート・アルバイト」が「フルタイムの仕事」に比べ回答割合が高くなっています。

C) 末子が4歳以上～小学校入学前の時



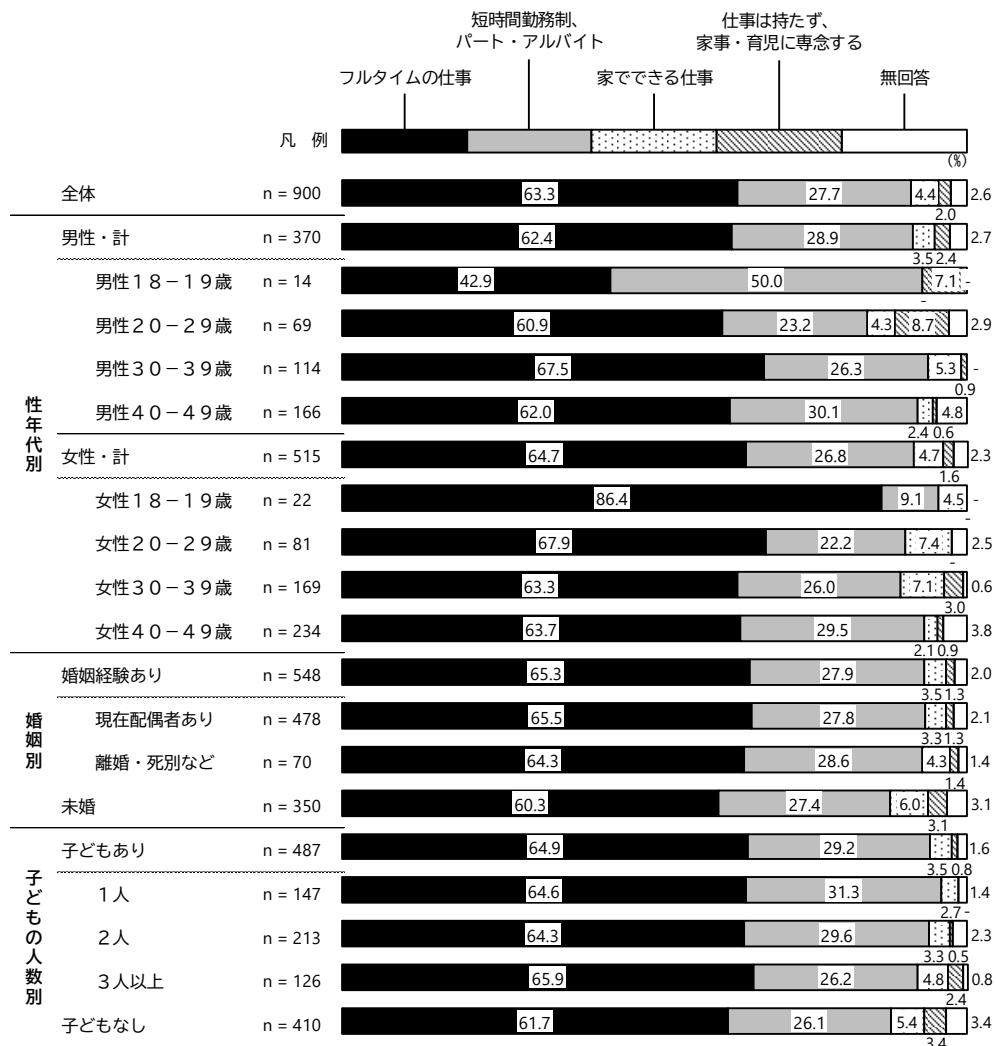
性年代別にみると、男女ともに全ての年代で「短時間勤務制、パート・アルバイト」が最も高くなっています。「フルタイムの仕事」に比べ回答割合が高くなっています。一方、「仕事は持たず、家事・育児に専念する」は概ね全ての年代で1割程度となっています。

D) 末子が小学生の時



性年代別にみると、男性 20-39 歳及び女性 18-29 歳では「フルタイムの仕事」が最も高く、それ以外の性年代では「短時間勤務制、パート・アルバイト」が最も高くなっています。

E) 末子が中学生の時



性年代別にみると、男性 18-19 歳を除く全ての年代で「フルタイムの仕事」が最も高くなっています。「短時間勤務制、パート・アルバイト」に比べ回答割合が高くなっています。また、ほぼ全員が有職を希望しています。

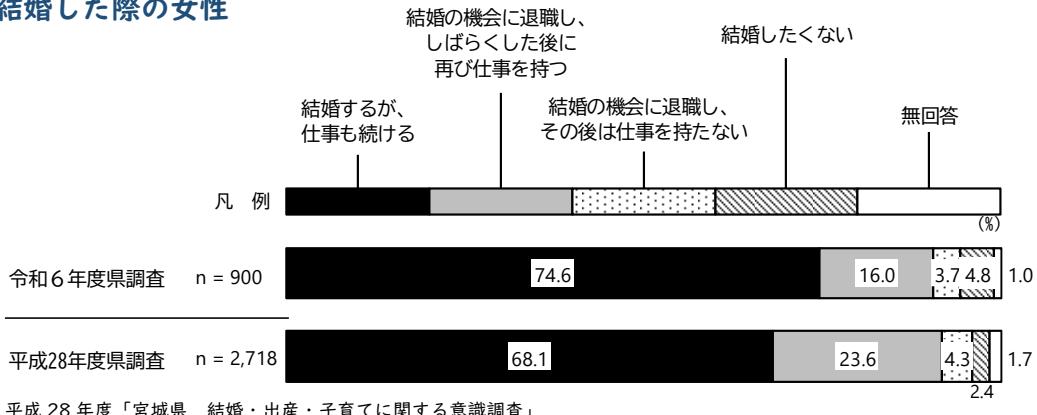
5-6 女性の生き方について

問35 女性の生き方についてご意見を伺います。

※あなたが女性の場合は、あなたご自身が理想とする生き方を、
あなたが男性の場合は、妻となる女性に送ってほしい生き方をお答えください。

(A) および (B) について、理想として最も近いと思われるものをひとつずつお選びください。(○は1つずつ)

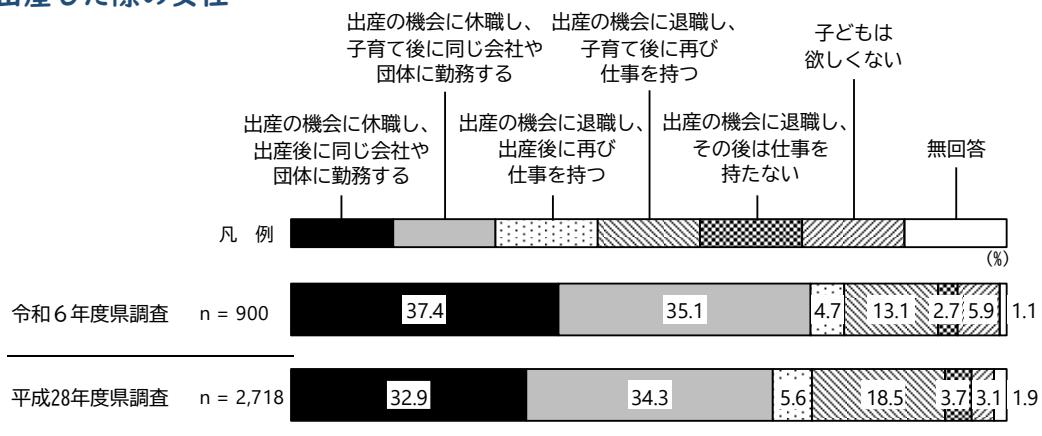
(A) 結婚した際の女性



女性の生き方のうち結婚した際の女性については、「結婚するが、仕事も続ける」が74.6%と最も高く、次いで「結婚の機会に退職し、しばらくした後に再び仕事を持つ」(16.0%)、「結婚したくない」(4.8%)となっています。

平成28年度県調査と比較すると、「結婚の機会に退職し、しばらくした後に再び仕事を持つ」が7.6ポイント低くなっているものの、全体的な回答結果に大きな差はみられませんでした。

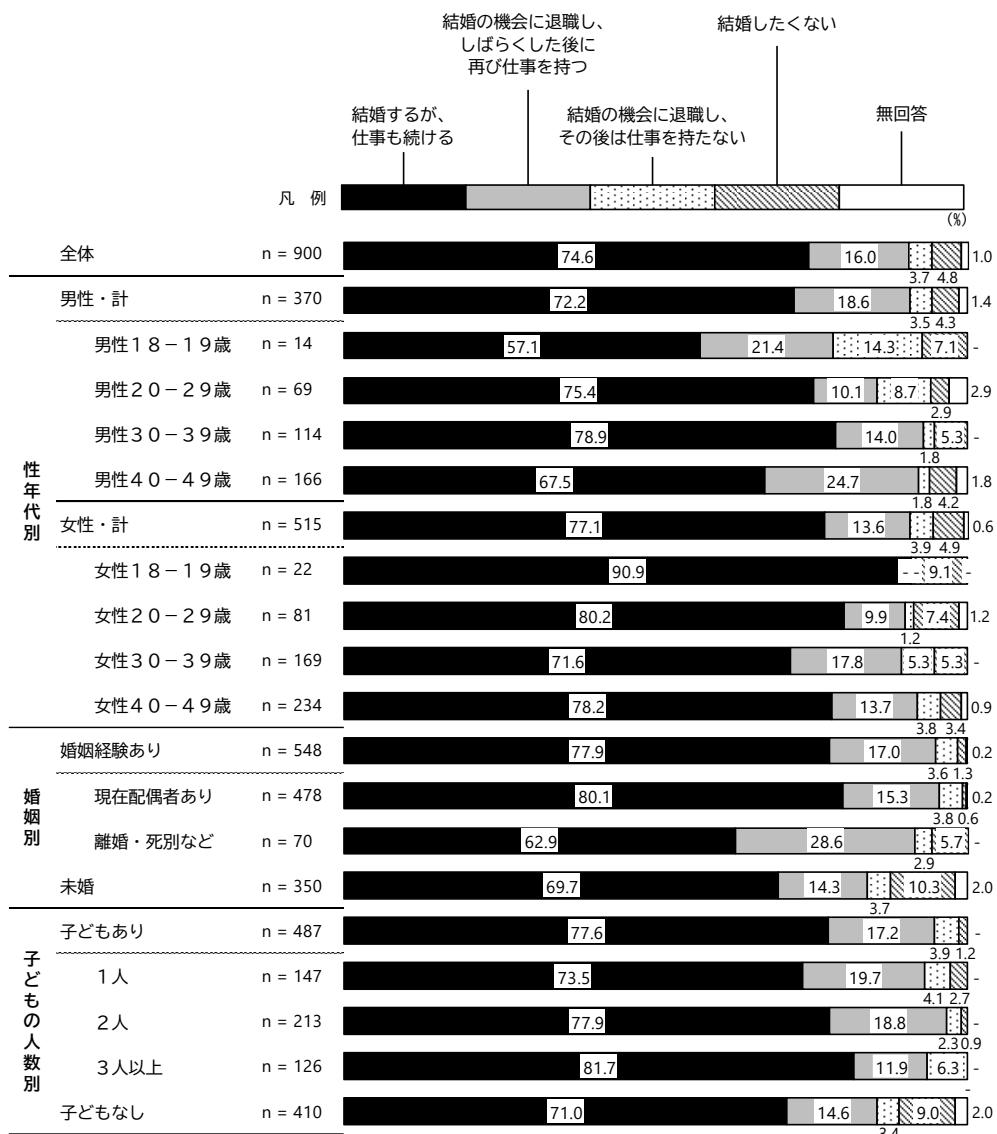
(B) 出産した際の女性



女性の生き方のうち出産した際の女性については、「出産の機会に休職し、出産後に同じ会社や団体に勤務する」が37.4%と最も高く、次いで「出産の機会に休職し、子育て後に同じ会社や団体に勤務する」(35.1%)、「出産の機会に退職し、子育て後に再び仕事を持つ」(13.1%)となっています。

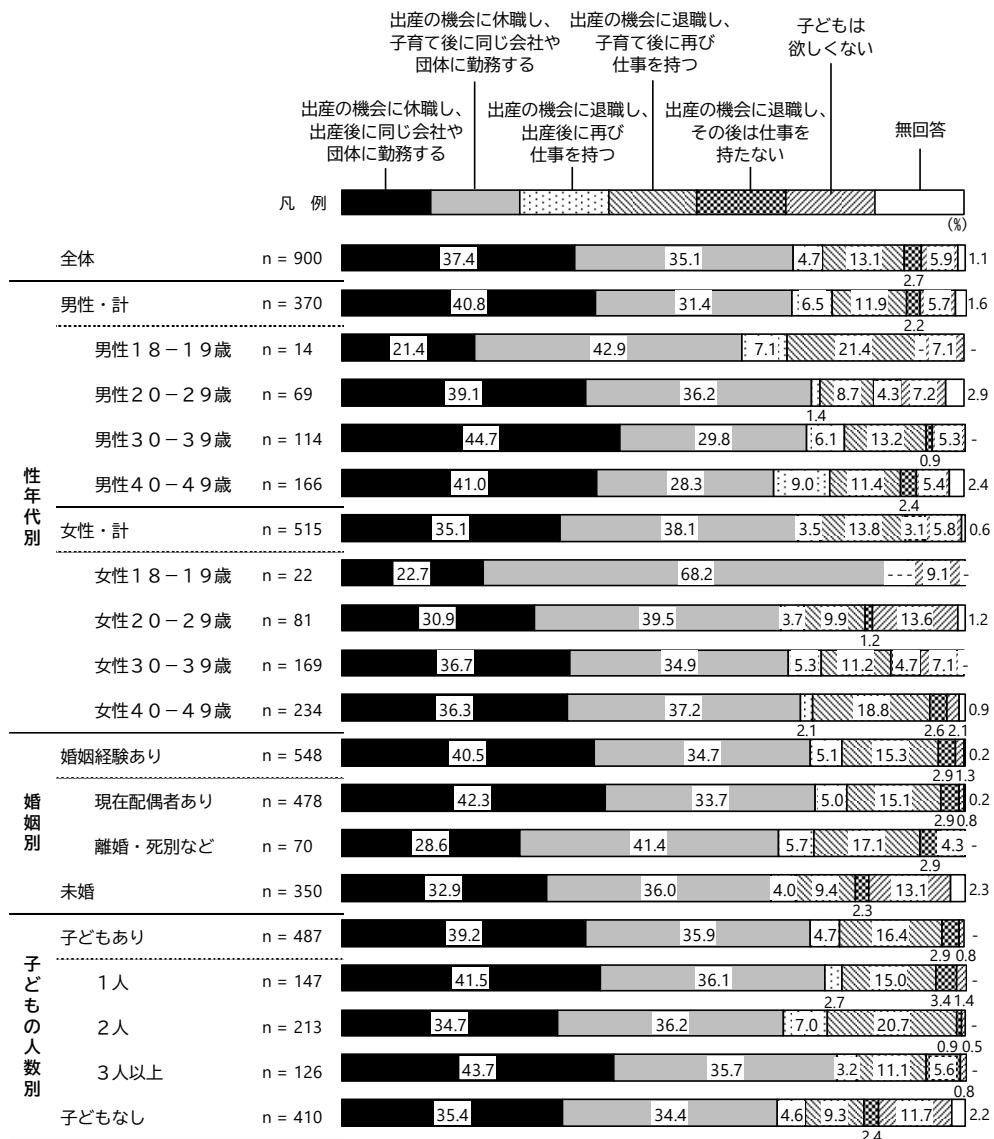
平成28年度県調査と比較すると、「出産の機会に休職し、出産後に同じ会社や団体に勤務する」が4.5ポイント高くなっているものの、出産後の復帰が子育て後の復帰を上回りました。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／女性の生き方について（結婚した際の女性）



性年代別にみると、男女ともに全ての年代で「結婚するが、仕事を続ける」が最も高くなっています。特に、女性 29 歳以下では 8 割を超え、回答割合が高くなっています。

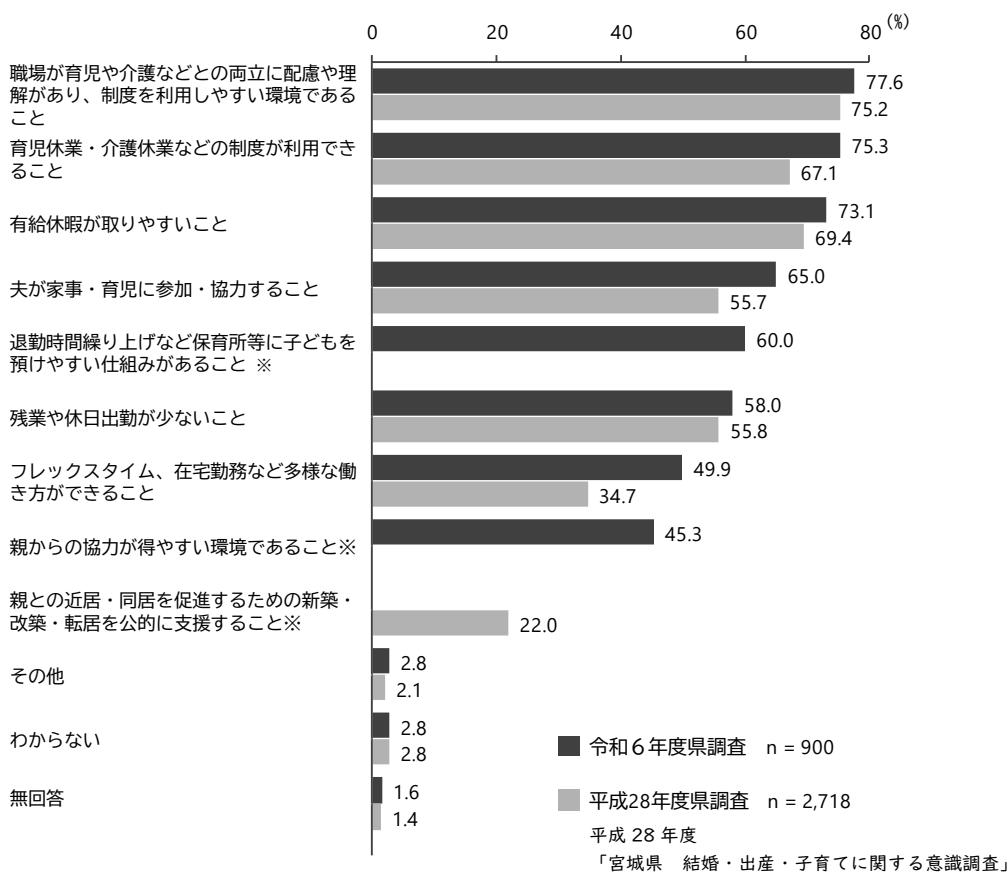
◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／女性の生き方について（出産した際の女性）



性年代別にみると、男性 18-19 歳、女性 18-29 歳及び 40-49 歳では「出産の機会に休職し、子育て後に同じ会社や団体に勤務する」が最も高くなっている一方、男性 20-49 歳及び女性 30-39 歳では「出産の機会に休職し、出産後に同じ会社や団体に勤務する」が最も高くなっています。また、女性 20-29 歳では「子どもは欲しくない」が唯一 1 割を超えていました。

5-7 仕事と生活の調和を図るために必要だと思うこと

問36 仕事と生活の調和を図るために必要だと思うことは何ですか。 (○はいくつでも)



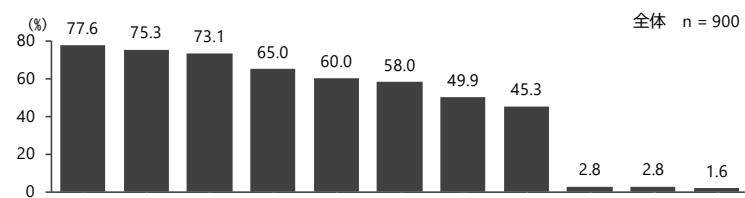
※「退勤時間繰り上げなど保育所等に子どもを預けやすい仕組みがあること」「親からの協力が得やすい環境であること」は平成28年度県調査では未聴取

※「親との近居・同居を促進するための新築・改築・転居を公的に支援すること」は令和6年度県調査では未聴取

仕事と生活の調和を図るために必要だと思うことについては、「職場が育児や介護などとの両立に配慮や理解があり、制度を利用しやすい環境であること」が77.6%と最も高く、次いで「育児休業・介護休業などの制度が利用できること」(75.3%)、「有給休暇が取りやすいこと」(73.1%)となっています。

平成28年度県調査と比較すると、全ての項目で回答割合が高くなっています。特に「フレックスタイム、在宅勤務など多様な働き方ができること」は15.2ポイントと大幅に高くなっています。「夫が家事・育児に参加・協力すること」でも9.3ポイント高くなっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／仕事と生活の調和を図るために必要だと思うこと



		n	用に職し配場や慮がすや育い理兒環境が介てあ護りありなどと度のを両立	が育児用休業で業き・介護休業などの制度	有給休暇が取りやすいこと	参夫参加が・家事協力・す育児にこと	あに退勤時間もを預り上げやすいなど保組育み所等	残業や休日出勤が少ないこと	なフレックスタイムが、在宅勤務こと	ある親からとの協力が得やすい環境で	その他	わからない	無回答
性年代別	男性・計	370	67.8	71.9	67.8	50.0	47.3	51.1	41.1	36.8	3.5	5.4	2.2
	男性18～19歳	14	64.3	64.3	64.3	28.6	35.7	42.9	42.9	35.7	-	14.3	-
	男性20～29歳	69	56.5	72.5	62.3	46.4	52.2	47.8	43.5	39.1	4.3	2.9	5.8
	男性30～39歳	114	69.3	78.1	71.9	57.9	55.3	55.3	41.2	42.1	4.4	5.3	1.8
	男性40～49歳	166	70.5	66.9	66.9	46.4	39.2	50.6	39.8	32.5	3.0	6.0	1.2
	女性・計	515	84.9	78.4	77.7	76.3	69.5	62.7	56.7	51.1	2.3	1.0	1.0
	女性18～19歳	22	95.5	90.9	77.3	95.5	59.1	50.0	45.5	59.1	-	-	4.5
	女性20～29歳	81	77.8	76.5	76.5	71.6	65.4	63.0	61.7	56.8	4.9	1.2	2.5
	女性30～39歳	169	85.8	75.7	78.1	76.9	70.4	69.2	57.4	52.1	2.4	0.6	-
	女性40～49歳	234	85.9	80.3	79.5	76.9	70.9	60.7	56.0	48.3	1.7	1.3	0.9
婚姻別	婚姻経験あり	548	81.8	77.4	75.7	68.1	64.1	61.5	53.1	46.5	3.1	0.9	0.9
	現在配偶者あり	478	81.8	77.2	76.4	68.8	64.0	61.1	54.2	46.2	3.3	0.8	0.8
	離婚・死別など	70	81.4	78.6	71.4	62.9	64.3	64.3	45.7	48.6	1.4	1.4	1.4
	未婚	350	71.4	72.6	69.4	60.6	54.0	52.6	44.9	43.4	2.3	5.7	2.3
子どもの人数別	子どもあり	487	83.0	76.6	77.4	69.0	64.3	64.3	53.6	47.8	3.5	0.8	0.8
	1人	147	84.4	77.6	77.6	67.3	67.3	70.1	55.8	46.3	4.1	0.7	1.4
	2人	213	84.5	78.4	77.9	72.3	63.8	62.4	54.0	50.7	2.8	0.9	0.5
	3人以上	126	78.6	73.0	77.0	65.9	61.9	61.1	50.8	45.2	4.0	0.8	0.8
	子どもなし	410	71.5	74.1	68.3	60.5	55.1	50.7	45.6	42.4	2.0	4.9	2.2

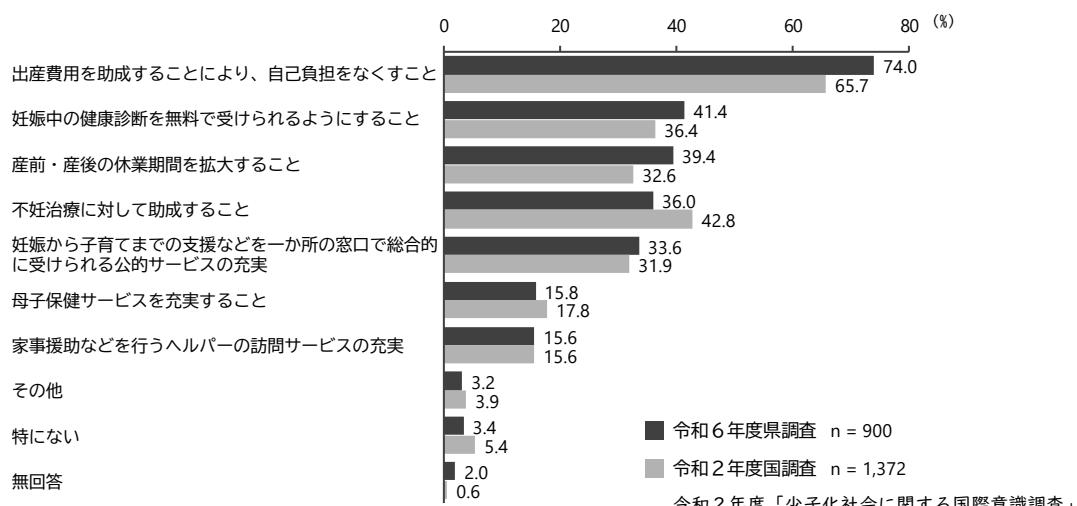
性年代別にみると、いずれの年代も女性が男性に比べ回答割合が高くなっています。特に、「夫が家事・育児に参加・協力すること」が約20ポイント以上高くなっています。

6 行政の取組みについて

6-1 妊娠・出産時の身体的・精神的・経済的負担を軽減する施策で重要と思うもの

問37 妊娠・出産時の身体的・精神的・経済的負担を軽減する施策として何が重要だと思いますか。

次の中からあなたの考えに近いものを、3つまで選んでください。（○は3つまで）

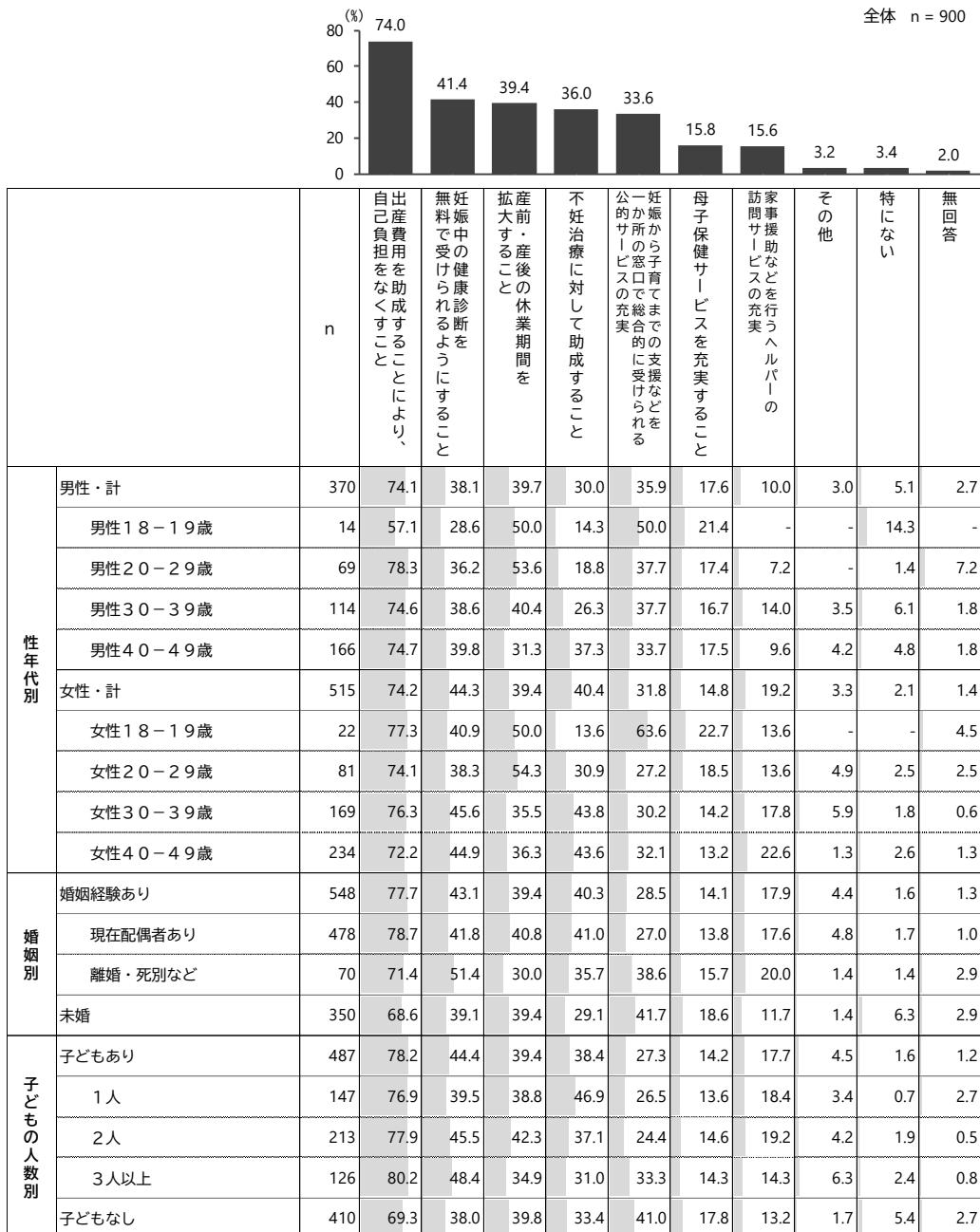


妊娠・出産時の身体的・精神的・経済的負担を軽減する施策で重要と思うものについては、「出産費用を助成することにより、自己負担をなくすこと」が74.0%と最も高く、次いで「妊娠中の健康診断を無料で受けられるようにすること」（41.4%）、「産前・産後の休業期間を拡大すること」（39.4%）となっています。

令和2年度国調査と比較すると、「出産費用を助成することにより、自己負担をなくすこと」「妊娠中の健康診断を無料で受けれるようにすること」「産前・産後の休業期間を拡大すること」「妊娠から子育てまでの支援などを一か所の窓口で総合的に受けられる公的サービスの充実」で回答割合が高くなっているものの、全体的な傾向に大きな変化はありませんでした。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／

妊娠・出産時の身体的・精神的・経済的負担を軽減する施策で重要と思うもの

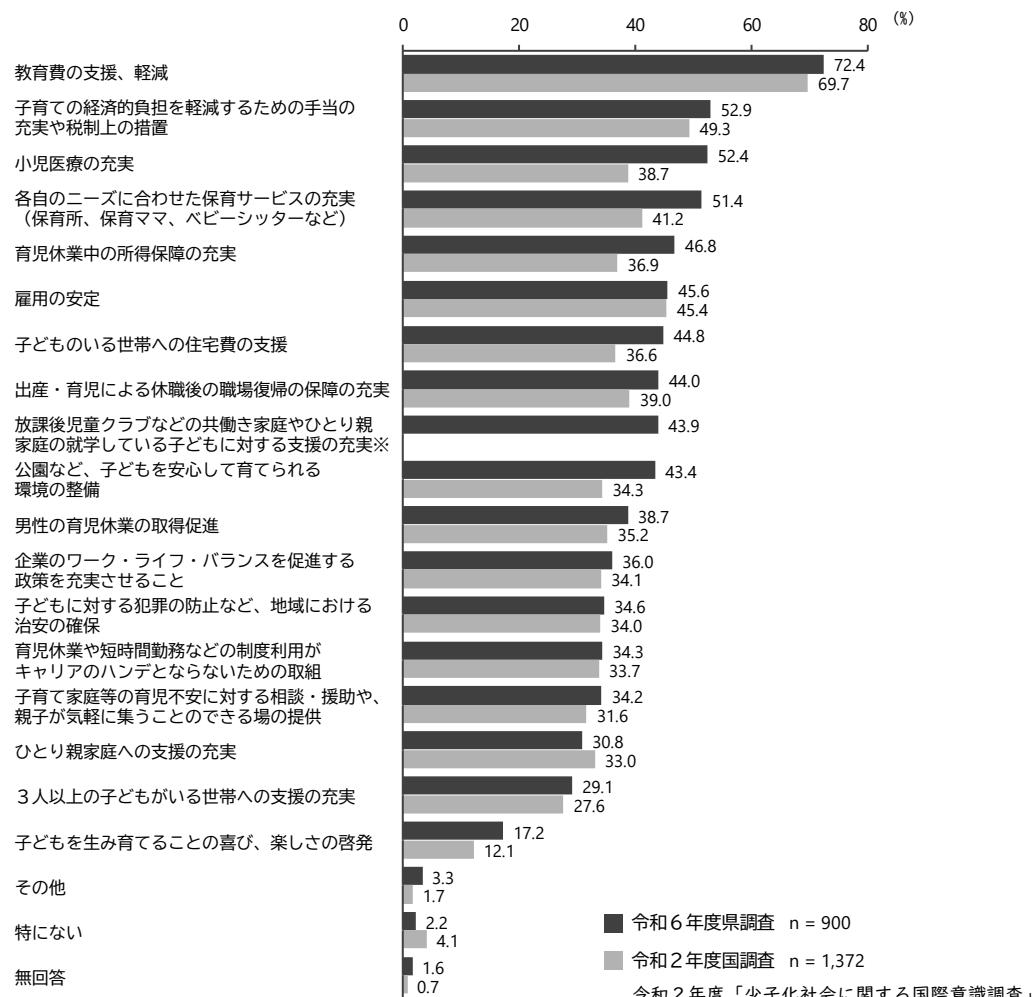


性年代別にみると、男女ともに全ての年代で「出産費用を助成することにより、自己負担をなくすこと」が最も高くなっています。また、男女ともに概ね年代が上がるにつれて「不妊治療に対して助成すること」の回答割合が高くなっています。

子どもの人数別にみると、子どもの人数が多くなるにつれて「出産費用を助成することにより、自己負担をなくすこと」が高くなっています、「妊娠中の健康診断を無料で受けられること」「産前・産後の休業期間を拡大すること」「不妊治療に対して助成すること」では子どもの有無に関わらず3～4割の回答がみられます。

6-2 育児を支援する施策として重要だと思うもの

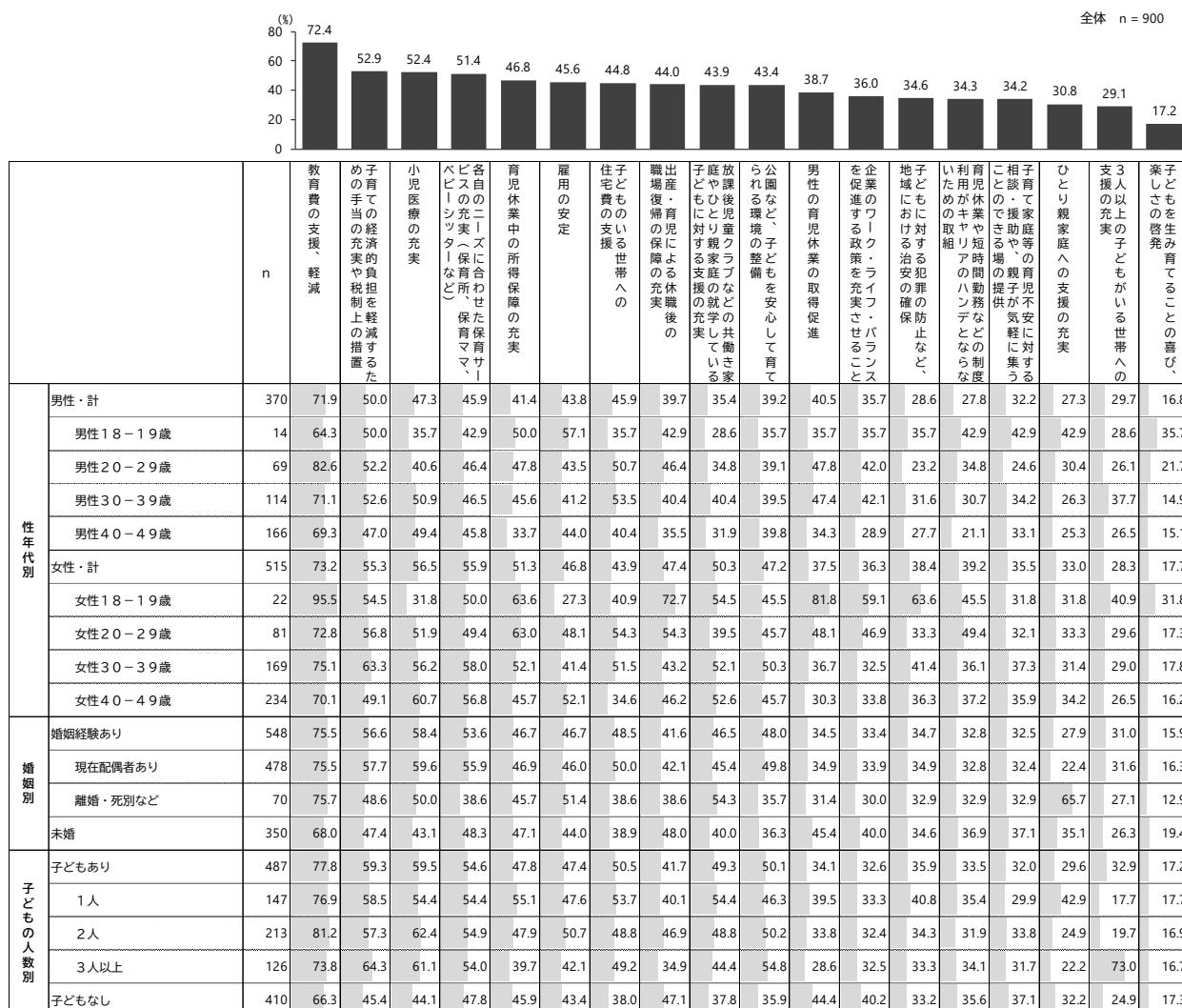
問 38 育児を支援する施策として何が重要だと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを、いくつでも選んでください。（〇はいくつでも）



育児を支援する施策として重要だと思うものについては、「教育費の支援、軽減」が72.4%と最も高く、次いで「子育ての経済的負担を軽減するための手当の充実や税制上の措置」(52.9%)、「小児医療の充実」(52.4%)となっています。

令和2年度国調査と比較すると、「小児医療の充実」が13.7ポイント、「各自のニーズに合わせた保育サービスの充実（保育所、保育ママ、ベビーシッターなど）」が10.2ポイント高くなっています。

◆性年代別・婚姻別・子どもの人数別／育児を支援する施策として重要だと思うもの



※「その他」「特ない」「無回答」は非掲載

性年代別にみると、男女ともに全ての年代で「教育費の支援、軽減」が最も高くなっています。男女ともに概ね年代が上がるにつれて「小児医療の充実」が高くなっています。男性では「雇用の安定」が概ね年代が上がるにつれて低くなっていますが、女性では高くなる傾向がみられます。また、男性では「育児休業や短時間勤務などの制度利用がキャリアのハンデとならないための取組」、女性では「男性の育児休業の取得促進」「企業のワーク・ライフ・バランスを促進する政策を充実させること」「出産・育児による休職後の職場復帰の保障の充実」が概ね年代が上がるにつれて回答割合が低くなっています。

婚姻別にみると、離婚や死別などの方では「ひとり親家庭への支援の充実」が 65.7% と現在配偶者ありの方や未婚の方に比べ大幅に回答割合が高く、また、「放課後児童クラブなどの共働き家庭やひとり親家庭の就学している子どもに対する支援の充実」も 5割を超えていました。

子どもの人数別にみると、子どもありの方では「教育費の支援、軽減」「子育ての経済的負担を軽減するための手当の充実や税制上の措置」「小児医療の充実」「子どものいる世帯への住宅費の支援」「放課後児童クラブなどの共働き家庭やひとり親家庭の就学している子どもに対する支援の充実」「公園など、子どもを安心して育てられる環境の整備」が子どもなしの方に比べ 10 ポイント以上高くなっています。一方、「男性の育児休業の取得促進」は 10 ポイント以上低くなっています。

7

自由意見

問 39 最後に、結婚・出産・子育てについて、宮城県に望むことを具体的にご記入ください。

大分類	件数
結婚について	58
出産について	66
子育てについて	241
その他	71
意見合計	436

※回答者数：315人（「特ない」などの回答は除く）

※1人の回答内容が複数の項目に該当する場合は、それぞれの項目に分類している

結婚・出産・子育てについて宮城県に望むことについて自由記述式でたずね、回答のあった意見を分類したところ、「結婚について」（58件）、「出産について」（66件）、「子育てについて」（241件）の意見が挙げられました。

大分類	小分類	件数
結婚について	経済的負担・経済的支援	20
	出会いの機会	17
	仕事・生活等環境	12
	行政	6
	その他	3
出産について	経済的負担・経済的支援	36
	医療（病院・治療・保険 等）	18
	その他	12
子育てについて	経済的負担・経済的支援	124
	遊び場・遊戯施設	26
	行政	19
	保育（施設・サポート 等）	19
	職場・地域（働き方・周囲の理解 等）	18
	医療（病院・治療・保険 等）	12
	教育（学校・習い事 等）	12
	その他	11
その他	アンケート	11
	日常・個人の感想	27
	行政への意見	33

回答のあった意見をさらに分類したところ、子育てについての「経済的負担・経済的支援」が124件と最も多く、次いで出産についての「経済的負担・経済的支援」（36件）、子育てについての「遊び場・遊戯施設」（26件）となっています。

次ページ以降に、主な意見を抜粋して掲載します。

【主な意見】 ※上位5項目

① 経済的負担・経済的支援/子育てについて

- ・子どもは1人目からでも費用や精神的・肉体的な負担が大きいです。ひとり親家庭への支援や3人以上の子どもがいる家庭への支援が大きいですが、そもそも1人目から育てていくのが大変なので1人目からも今以上の支援があると子育てが安心してできると思います。(男性30歳代)
- ・20代の給料が少なすぎる。20代で子どもを産まなければ3人まで産むのは難しいのにお金の問題でなかなか結婚できない人が多い。また、保育料が収入に合ってない。双子だと一気にかかり大変。宮城県は他の県に比べ結婚子育て、出産の支援が非常に少ないと思う。賃金も引き上げるべきです。(女性20歳代)
- ・安心して結婚、出産出来る収入を得られる事。丈夫な身体があり、年齢が若く出産の見込みがあるのに金銭的問題であきらめるのはもったいないと思います。(女性30歳代)
- ・金銭の問題で子どもを作りにくい環境にあると思うので、出産、育児に対する支援の拡大と受けられるサービスを学べる場を作って欲しい。又は、学べる場の情報を知りたい。(男性20歳代)

② 経済的負担・経済的支援/出産について

- ・妊婦健診や出産費用の無料化や不妊治療費の負担軽減。(女性40歳代)
- ・出産時15万くらい手出しがあったので、若い人は産みづらいと思いました。(女性30歳代)
- ・出産にかかるお金はすべて自治体もしくは会社で控除し、自己負担無しで出産できる体制が必要であると考える。(男性30歳代)
- ・生まれてから大学までの費用を考慮すると2人以上持つことは不安が先行してしまい出産年齢が高くなる。安心できるように1000万給付や減税が必要。(男性30歳代)

③ 遊び場・遊戯施設/子育てについて

- ・外でも中でも身体を動かして遊べる場所がもっとあればと思っています。(女性40歳代)
- ・室内遊戯施設(利用料が無料だと好ましい)を整備してほしい。(女性30歳代)
- ・子どもの遊び場が県南に集中しすぎている(男性30歳代)

④ 経済的負担・経済的支援/結婚について

- ・安定した職に就かないと結婚・出産・子育ては難しい。(女性30歳代)
- ・結婚後の費用への不安が解消されれば、経済的なゆとりと精神的なゆとりをもたらし、結婚への心持ちも改善されると思う。(男性30歳代)
- ・若者が結婚、子育てできるくらいの所得が得られ、安定させることが必要。(男性40歳代)
- ・晩婚化が進む今日において当事者たちが1番の問題としているのは経済的なことだと思います。結婚相手を見つける場や機会を行政が作る必要はなく、企業に任せて企業に対してサポートをするべきだと考えます。行政が行うべきは、結婚や出産がしやすい環境や制度を作ることだと思っています。(男性20歳代)

⑤ 行政/子育てについて

- ・仙台市中心で動かすのではなく県北、県南も出産・子育て不利にならないよう動いてほしいです。(男性 40 歳代)
- ・「～市は出産、子育ての支援ができていて住みやすい」ではなく、「どこの市町村に住んでいても安心して子育てができる」と思えるように町づくり、支援をしっかりしてほしいです。出産、子育てなどの不安を気軽に相談できる女性同士のコミュニティや男性同士のコミュニティ、夫婦で参加できるコミュニティをもっと多くつくってほしい。(女性 20 歳代)
- ・妊婦健診に手出しがあること、子供の医療費控除が 15 歳まで(仙台市)など、宮城県は他県と比べて子育て支援に遅れをとっていると感じます。子供の医療費助成は 18 歳までは最低限やっていただきたいです。無料の屋内遊び場もどんどん増やしてほしいです。(女性 30 歳代)

⑥ 保育（施設・サポート 等）/子育てについて

- ・病児保育や、専業主婦でも利用できる長時間の託児サービスが、もっと報充してほしいなと思います。(女性 40 歳代)
- ・保育所の送り迎えを自分が行けない時に同じ保育所に通う他家族に送ってもらうのを許可して欲しい。他家族にお願いする時は自己責任で月に何回などの回数を決めるなど。(女性 30 歳代)
- ・保育園の拡充、病児保育の拡充を望んでいます。(女性 30 歳代)
- ・日曜日もあづけられる保育施設を増やして欲しい (男性 30 歳代)

IV 総括

1. 未婚者の増加と晩婚化の状況

- ・平成 28 年度県調査と比べて未婚者が増加傾向にあります。特に男性の未婚者が多くなっているものの、令和 6 年県調査の結婚に対する考え方において、男性は女性に比べて結婚した方がよいと考えている方が多い状況です。【P.14,15,30】
- ・未婚の方のうち、男女とも約 4 割が交際相手がおらず、交際することを望んでいる方は平成 28 年度県調査と比べて減少傾向にあります。交際相手がほしくないこの理由として自分の自由にかかる制約への嫌悪感や、恋愛に対する興味の低さがうかがえます。【P.53,54,57】
- ・理想の結婚時期について、男性ではできるだけ若いうちに結婚したい方が女性よりも多くなっています。女性ではある程度年齢を重ねてから結婚したいとの回答が多く、別の設問では 10~20 歳代のうちは趣味や仕事に打ち込みたい、30~40 歳代では結婚する必要性がないからとの回答が多くなっています。【P.37,68】
- ・昨今の女性の社会進出に伴い、働く女性が増えて仕事に打ち込む期間が長くなつたことで結婚が遅くなっていることが考えられます。女性が働きながらもライフプランを考えられるような状況にしていくことが望まれます。

2. 社会情勢による先行きの不安感

- ・結婚に関して行政に実施してほしい取り組みとして、結婚前後の経済的支援や雇用の安定が望まれています。経済的に余裕がないために結婚に至れないとの回答が女性に比べて男性で多くなっています。生活に余裕がないことから、結婚後の金銭面での不安感を高めていることが考えられます。【P.50,68】
- ・現実の仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度をみた際に男性では、いずれの年代も「仕事を優先」と回答する方が半数を超えており、その割合は未婚の男性に比べ既婚の男性の方が高くなっています。このことから、男性は家計を支えるプレッシャーを感じていることがうかがえます。【P.85,86】

3. 子どもを持ちたい希望はあるものの経済的不安を感じている現状

- ・理想の子どもの人数は国の令和 2 年度平均値を上回っており、県の出生率は低下しているものの、子どもを持つ意思はあることがわかります。しかし、実際に持てると思う人数は理想を下回り、理想の人数にいたらない、または子どもを持ちたくない方の意見として子育てや教育にお金がかかりすぎるといった回答が約 8 割と極めて高くなっています。特に、子どもがいる方では「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が子どもがいない方に比べ 12.2 ポイント高く、子どもを複数人育てる上での経済的負担に対して不安に感じているとみてれます。【P.71,74,75】

4. 男女共同参画意識の向上

- ・結婚相手に望むことでは平成28年県調査に比べて「家事を分担してくれること」が11.6ポイント高くなっています、「子育ては母親でなければならない」という考え方についても《同感しない》が6割以上となっています。家事育児とも夫婦間での分担を一方に偏らないようにする意識が広がってきています。【P.41,89】
- ・一方で、男女のワーク・ライフ・バランスは仕事のみ又は家庭生活のみ、といった偏りは解消されつつありますが、結婚を機に男性では仕事がやや重くなるとともに家庭生活での比重が増加し、女性では仕事が急激に減少し、家庭生活での比重が増加することがうかがえます。また、男女とも「個人の生活を優先」との回答は未婚の方は3割ほどみられますが、既婚の方では5%未満になります。【P.85,86】
- ・家事、育児といった家庭生活での男女共同参画意識の普及は進んできており、特に男性での参画意識がみられます。共育での動きは少しずつ広まってきてはいますが、共働きの普及は一層推進の余地があるとみてとれます。

V 使用した調査票

宮城県 少子化施策等に関する意識調査

次世代のために、少子化施策等へのご意見をお聞かせください！

■ご回答にあたってのお願い

- この調査は、封筒の宛て名のあなたご自身がお答えください。
なお、調査への回答は無記名（住所や氏名を記入しない）でお願いします。
- 次の2つのうちどちらか1つの方法で、8月9日（金）までにご回答をお願いします。

1 パソコン・スマートフォン等によりインターネットで回答

右の二次元コードまたは下記 URL より回答画面にアクセスし、
「回答用番号（数字5ヶタ）」をご入力のうえ、画面の指示に従って
ご回答ください。

URL <https://src2.webcas.net/form/pub/src1/miyagishoshi>



回答用番号

インターネット
での回答が
便利です！

※重複回答を防ぐための番号です。個人を特定する番号ではありません

2 回答用紙（この冊子）に直接記入し、郵送により回答

- ▶ 黒か青のボールペンまたは鉛筆でご記入ください。
- ▶ ご回答は、「○は1つ」「○はいくつでも」等の表記に従って、該当する番号に○をつけてください
(一部、数字等をご記入いただく質問もございます)。
- ▶ 「その他」に○をつけた場合は、その後の（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
- ▶ 質問によって回答いただく方が限られる場合がありますので、ことわり書きや矢印にしたがってください。
- ▶ ご記入いただきましたら、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストにご投函ください。

調査実施者

宮城県 保健福祉部 子育て社会推進課

調査に関するお問い合わせ先

※本調査は、調査業務（事務局運営、集計、とりまとめ）を
株式会社サーバイリサーチセンターに委託しています

こども・少子化調査事務局（株式会社サーバイリサーチセンター内）

電話：0120-663-734 メール：miyagi.kodomo@surece.co.jp

事務局設置期間：2024年7月23日（火）～8月9日（金） 平日10時～17時（12時～13時を除く）

※メールでのお問い合わせに関しては、上記期間内は24時間いつでも受け付けています

1 初めに、あなたご自身についてお伺いします

問1 あなたの性別をお知らせください。(○は1つ)

1. 男性

2. 女性

3. 無回答

問2 あなたの満年齢をお知らせください。

令和6年5月1日時点でお答えください。(数字を記入)

満 歳

問3 あなたが現在お住まいの市町村名をお答えください。(○は1つ)

- | | | | |
|---------|----------|----------|----------|
| 1. 仙台市 | 10. 登米市 | 19. 柴田町 | 28. 大郷町 |
| 2. 石巻市 | 11. 栗原市 | 20. 川崎町 | 29. 大衡村 |
| 3. 塩竈市 | 12. 東松島市 | 21. 丸森町 | 30. 色麻町 |
| 4. 気仙沼市 | 13. 大崎市 | 22. 亘理町 | 31. 加美町 |
| 5. 白石市 | 14. 富谷市 | 23. 山元町 | 32. 涌谷町 |
| 6. 名取市 | 15. 蔵王町 | 24. 松島町 | 33. 美里町 |
| 7. 角田市 | 16. 七ヶ宿町 | 25. 七ヶ浜町 | 34. 女川町 |
| 8. 多賀城市 | 17. 大河原町 | 26. 利府町 | 35. 南三陸町 |
| 9. 岩沼市 | 18. 村田町 | 27. 大和町 | |

問4 あなたのお仕事についておたずねします。(A) お勤めの状況、(B) 業種について、当てはまるものを1つずつお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

※仕事先が複数ある場合は、主に働いているところ(時間が多いところ)を選んでお答えください。

(A) お勤めの状況

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 正規の職員・従業員 | 7. 自家営業の手伝い(家族従業者) |
| 2. パート・アルバイト | 8. 家庭内の賃仕事(内職) |
| 3. 契約社員 | 9. 無職・家事専業 |
| 4. 会社などの役員 | 10. 学生 |
| 5. 雇人のある自営業主 | 11. その他(具体的に:) |
| 6. 雇人のない自営業主 | |

【(A) で1～8に該当する方は、(B) もご回答ください】

(B) 業種

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 農業・林業・漁業 | 10. 金融業・保険業 |
| 2. 鉱業・採石業・砂利採取業 | 11. 不動産業・物品販貸業 |
| 3. 建設業 | 12. 宿泊業・飲食サービス業 |
| 4. 製造業 | 13. 教育・学習支援業 |
| 5. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 14. 医療・福祉業 |
| 6. 情報通信業 | 15. 他サービス業 |
| 7. 運輸業・郵便業 | 16. 公務員 |
| 8. 卸売業 | 17. その他(具体的に:) |
| 9. 小売業 | |

問5 あなたは、結婚なさっていますか。(○は1つ)

1. 現在結婚している →問6へ
2. 現在結婚してはいないが、以前結婚していたことがある(離婚・死別など)
3. 今まで結婚したことはない(未婚)

※結婚には事実婚を含みます (以下同じ)。

歳

【問5で「1.現在結婚している」とお答えの方にお伺いします】

問6 あなたがご結婚された年齢を教えてください。(数字を記入)

問7 あなたの配偶者等のお仕事についておたずねします。(A) お勤めの状況、(B) 業種について、当てはまるものを1つずつお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)
※仕事先が複数ある場合は、主に働いているところ(時間が多いところ)を選んでお答えください。

(A) お勤めの状況

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 正規の職員・従業員 | 7. 自家営業の手伝い(家族従業者) |
| 2. パート・アルバイト | 8. 家庭内の貢仕事(内職) |
| 3. 契約社員 | 9. 無職・家事専業 |
| 4. 会社などの役員 | 10. 学生 |
| 5. 雇人のある自営業主 | 11. その他(具体的に:) |
| 6. 雇人のない自営業主 | |

※「配偶者等」には事実婚の相手を含みます (以下同じ)。

【(A) で1～8に該当する方は、(B) もご回答ください】

(B) 業種

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 農業・林業・漁業 | 10. 金融業・保険業 |
| 2. 鉱業・採石業・砂利採取業 | 11. 不動産業・物品賃貸業 |
| 3. 建設業 | 12. 宿泊業・飲食サービス業 |
| 4. 製造業 | 13. 教育・学習支援業 |
| 5. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 14. 医療・福祉業 |
| 6. 情報通信業 | 15. 他サービス業 |
| 7. 運輸業・郵便業 | 16. 公務員 |
| 8. 卸売業 | 17. その他(具体的に:) |
| 9. 小売業 | |

【ふたたび、すべての方にお伺いします】

問8 あなたにはお子さんはいらっしゃいますか。(○は1つ)

お子さんがいらっしゃる方は、お子さんの人数もお知らせください。(数字で記入)

お子さんの人数	→	<input type="text"/>	人	1. いる	2. いない
---------	---	----------------------	---	-------	--------

問9 現在どなたと一緒に暮らしていますか。あなたご自身からみた続柄でお答えください。

(○はいくつでも)

- | | |
|-----------|-----------------|
| 1. 配偶者等 | 7. 配偶者等の母 |
| 2. 父 | 8. 配偶者等の祖父母 |
| 3. 母 | 9. 兄弟、または姉妹 |
| 4. 子ども | 10. 交際相手 |
| 5. 祖父母 | 11. その他(具体的に:) |
| 6. 配偶者等の父 | 12. 一人暮らし |

2 「恋人との交際」について、すべての方にお伺いします

問10 交際相手との出会いを求めるとしたら、どんな機会があるとよいですか。(○はいくつでも)
※現在配偶者等や交際相手のいる方は、いないと仮定してお答えください。

1. 友人・知人に紹介を頼む（紹介をうける）
2. 職場の同僚や先輩・後輩に紹介を頼む（紹介をうける）
3. 親族等に紹介を頼む（紹介をうける）
4. 趣味のサークル、資格取得・スキルアップのための学校で知り合う
5. 合コンやパーティーに行く
6. 婚活サイトなどのインターネットサイトやSNS、マッチングアプリを利用する
7. 交際相手を紹介してくれる結婚支援サービスを利用する（有料・無料を問わない）
8. 自治体が主催する結婚支援サービスを利用する
9. その他(具体的に：)
10. 特にない

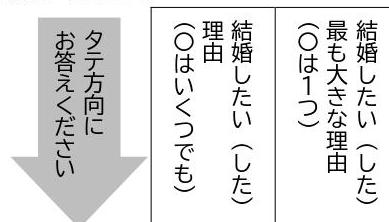
3 結婚について、すべての方にお伺いします

問11 結婚についてあなたの考えに近いものを、以下から1つ選んでください。(○は1つ)

1. 結婚は必ずするべきだ
2. 結婚はした方がよい
3. 結婚はしなくてもよいが、同棲はした方がよい
4. 結婚・同棲はしなくてもよいが、恋人はいた方がよい
5. 結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない
6. その他(具体的に：)

問12 結婚の理由について伺います。現在未婚の方は、今後結婚したいと思う理由を、また現在結婚している方（これまで結婚の経験がある方）は、当時結婚した理由を教えてください。（○はいくつでも）また、その中で、結婚したい（した）最も大きな理由を教えてください。（○は1つ）

※結婚するつもりがない方は、結婚すると仮定してお答えください。



家族を持ちたい（持ちたかった）	1	1
子どもが欲しい（欲しかった）	2	2
好きな人と一緒にいたい（いたかった）	3	3
やすらぎが欲しい（欲しかった）・一人で寂しい（寂しかった）	4	4
家事の負担を減らしたい（減らしたかった）	5	5
両親や親戚を安心させたい（させたかった）	6	6
経済的な安定を得たい（得たかった）	7	7
社会的に認められたい（認められたかった）	8	8
老後に一人でいたくない（いたくなかった）	9	9
適齢期だと思っている（思った）	10	10
子どもが生まれるのであれば結婚したほうが良いと思う（思った）	11	11
その他（具体的に：）	12	12
あてはまるものはない	13	13

問13 あなたが理想とする結婚の時期について伺います。実際にどうであるかは別として、あなたにとってこうしたい（こうしたかった）というものをお選びください。（○は1つ）

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. できるだけ若いうちに結婚する | 3. ある程度年齢を重ねてから結婚する |
| 2. いわゆる結婚適齢期に結婚する | 4. 結婚しない |

問14 あなたご自身は、理想的には何歳くらいで結婚するのが良いと思いますか。実際にどうであるかは別として、あなたにとっての理想の年齢をお答えください。（数字を記入）

※結婚するつもりがない方は、結婚すると仮定してお答えください。

歳くらい

問15 結婚相手に望むことは何ですか(何でしたか)。(○はいくつでも)

※結婚するつもりがない方は、結婚すると仮定してお答えください。

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 価値観が近いこと | 9. 一緒にいて楽しいこと |
| 2. 家事を分担してくれること | 10. 一緒にいて気をつかわないこと |
| 3. 家事や家計をまかせられること | 11. 容姿が好みであること |
| 4. 恋愛感情が続くこと | 12. 経済力があること |
| 5. 共通の趣味があること | 13. 親が同意してくれること |
| 6. 職種 | 14. 年齢 |
| 7. 学歴 | 15. 自分の仕事を理解してくれること |
| 8. 金銭感覚 | 16. 自分の親と同居してくれること |
| 17. その他(具体的に:) | |

問16 あなたが、結婚生活について不安に感じることは何ですか。あなたの考えに近いものをいくつでもお選びください。(○はいくつでも)

※同棲している方は、同棲相手との生活についてお答えください。

※結婚するつもりがない方は、結婚すると仮定してお答えください。

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1. 2人の相性 | 7. 雇用が安定していない |
| 2. 2人の間で起こる問題の解決 | 8. 自分の自由の制約 |
| 3. お互いの親族との付き合い | 9. 子どもの育て方 |
| 4. お互いの親の介護 | 10. 子どもの教育 |
| 5. お互いの前の配偶者等との
子どもへの向き合い方 | 11. 子どもができない可能性 |
| 6. 結婚生活にかかるお金 | 12. その他(具体的に:) |
| 13. 特にない | |

問17 あなたは、夫婦の間で家事の負担はどのようにしたいと思っていますか。(○は1つ)

※配偶者等がいない方は、いると仮定してお答えください。

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 夫のほうが多く負担する | 4. どちらかというと妻のほうが多く負担する |
| 2. どちらかというと夫のほうが多く負担する | 5. 妻のほうが多く負担する |
| 3. どちらも同じくらい負担する | |

問18 あなたは、夫婦の間で育児の負担はどのようにしたいと思っていますか。(○は1つ)

※配偶者等がいない方は、いると仮定してお答えください。

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 夫のほうが多く負担する | 4. どちらかというと妻のほうが多く負担する |
| 2. どちらかというと夫のほうが多く負担する | 5. 妻のほうが多く負担する |
| 3. どちらも同じくらい負担する | |

問19 結婚に関して、行政に実施してほしい取組は何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 結婚したい人同士の引き合わせ | 6. 結婚に前向きになれるような |
| 2. 出会いの場の創設 | 意識改革の手助けをすること |
| 3. 結婚資金の支援 | 7. ライフプラン形成を学ぶ場の提供 |
| 4. 結婚後の生活資金の支援 | 8. その他(具体的に:) |
| 5. 雇用の安定化 | 9. わからない |
| 10. 特にない | |

問20～問24は、未婚の方(2ページ問5で「3.今まで結婚したことない(未婚)」)とお答えの方にお伺いします。※未婚以外の方は、次ページ問25にお進みください。

問20 交際相手の有無についておたずねします。次のうち、あなたに当てはまるものをお選びください。(○は1つ)

- | | |
|--------------------------|-------|
| 1. 現在交際相手がいる | →問23へ |
| 2. 現在交際相手はいない(かつてはいた) | →問21へ |
| 3. 現在交際相手はいない(まだ交際経験がない) | |

【問20で「2～3.現在交際相手はいない」とお答えの方にお伺いします】

問21 あなたは今、交際相手が欲しいですか。(○は1つ)

- | | | | |
|-------|-------|--------|-------|
| 1. はい | →問23へ | 2. いいえ | →問22へ |
|-------|-------|--------|-------|

【問21で「2.いいえ(今、交際相手が欲しくない)」とお答えの方にお伺いします】

問22 交際相手が欲しいと思わない理由を教えてください。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 仕事や勉強に力を入れたい | 5. 恋愛が面倒 |
| 2. 自分の趣味に力を入れたい | 6. 恋愛に興味がない |
| 3. 友人と過ごす時間を大切にしたい | 7. 他人と恋人として交際するのがこわい |
| 4. 過去に恋愛で失敗した | 8. その他(具体的に:) |

【ふたたび、未婚の方すべてにお伺いします】

問23 あなたは、あなたご自身の結婚の時期について、どのように考えていますか。最もよく当てはまるものをお選びください。(○は1つ)

- | | | |
|-----------------|---------------|----------|
| 1. 1年以内に結婚したい | 3. いすれば結婚したい | 5. わからない |
| 2. 2～3年以内に結婚したい | 4. 結婚するつもりはない | |

問24 あなたが現在結婚していない理由を、次の中から選ぶとすればどれですか。当てはまるものから順に3つまで選んで、回答欄に番号をご記入ください。

【回答欄】

1番 当てはまる理由	
---------------	--

2番目に 当てはまる理由	
-----------------	--

3番目に 当てはまる理由	
-----------------	--

※下記に○は付けず、【回答欄】に番号をご記入ください

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 結婚するにはまだ若すぎるから | 8. 异性とうまく付き合えないから |
| 2. 結婚する必要性を感じないから | 9. 経済的に余裕がないから |
| 3. 同棲のままで十分だから | 10. 結婚生活のための住居のめどがたたないから |
| 4. 今は、仕事（又は学業）に打ち込みたいから | 11. 親や周囲が結婚に同意しない（だろう）から |
| 5. 今は、趣味や娯楽を楽しみたいから | 12. 一生、結婚するつもりはないから |
| 6. 独身の自由さや気楽さを失いたくないから | 13. その他(具体的に：) |
| 7. 適当な相手にまだ巡り会わないから | 14. 特にない |

4 ここからは、「子ども」や「育児」について、すべての方にお伺いします

問25 あなたご自身は、理想的には何歳くらいで子ども（第一子）を持ちたいと思いますか。

※実際にどうであるかは別として、あなたにとっての理想の年齢をお答えください。（数字を記入）

--

歳くらい

問26 あなたにとって、理想の子どもの人数は何人ですか。また、現実に持てると思う子どもの人数は何人ですか。

※現在子どもがいる方は、その子どもも含めた人数をお答えください。

※子どもを持つつもりのない方は、「0」とご記入ください。

理想の子どもの人数

--

人くらい

実際に持てると思う子どもの人数

--

人くらい

【問26で、実際に持てると思う子どもの人数が理想の人数に比べ少ない方、または理想の人数が0人の方にお伺いします】

問27 その理由として、考えられるものはなんですか。（○はいくつでも）

1. 子育てや教育にお金がかかりすぎるから
2. 保育サービスが整っていないから
3. 雇用が安定しないから
4. 働きながら子育てができる職場環境がないから
5. 自分の昇進・昇格に差しさわりがでそうだから
6. 家が狭いから
7. 子どもがのびのび育つ社会環境でないから
8. 自分や夫婦の生活を大切にしたいから
9. 自分や配偶者等が高年齢だから
10. 自分や配偶者等が育児の負担に耐えられないと思うから
11. 妊娠・出産のときの身体的・精神的な苦痛が嫌だから
12. 健康上の理由から
13. 欲しいけれども妊娠しないから
14. 配偶者等の家事・育児への協力が得られないから
15. 配偶者等が望まないから
16. その他（具体的に： ）
17. 特にない

問28 あなたが、子育てをしていて、良かったと思うことは何ですか。

※子どもがいない方は、仮にご自分が子育てをする場合を想定して選んでください。

(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1. 家庭が明るくなる | 6. 子育てを通じて自分も精神的に成長する |
| 2. 身近な人が子どもと接して喜ぶ | 7. 夫婦の愛情がより深まる |
| 3. 生活にはりあいができる | 8. その他(具体的に :) |
| 4. 子育てを通じて友人ができる | 9. 良いと思うことは特にない |
| 5. 子育てを通じて自分の視野が広がる | |

問29 あなたが、子育てをしていて、自分にとって負担に思うことはどんなことですか。

※子どもがいない方は、仮にご自分が子育てをする場合を想定して選んでください。

(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------|----------------------------|
| 1. 子育てによる身体の疲れが大きい | 6. 仕事が十分にできない |
| 2. 子育てによる精神的疲れが大きい | 7. 子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない |
| 3. 子育てに出費がかさむ | 8. 子どもが病気のとき |
| 4. 自分の自由な時間が持てない | 9. その他(具体的に :) |
| 5. 夫婦で楽しむ時間がない | 10. 負担に思うことは特にない |

5 仕事と生活について、すべての方にお伺いします

問30 あなたは、全体として、現在の生活にどの程度満足していますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|----------|
| 1. 満足している | 3. やや不満だ |
| 2. まあ満足している | 4. 不満だ |

問31 現在のあなたの日常における、仕事、家庭生活、個人の生活等の優先度をうかがいます。

(A) および (B) について、あなたのお考えに最も近いものをひとつずつお選びください。

(○は1つずつ)

(A) あなたの希望にもっとも近いもの

- | | | |
|----------|------------|-------------|
| 1. 仕事を優先 | 2. 家庭生活を優先 | 3. 個人の生活を優先 |
|----------|------------|-------------|

(B) あなたの現実にもっとも近いもの

※学生の方は、「仕事」を「学業」と考えてお答えください。

- | | | |
|----------|------------|-------------|
| 1. 仕事を優先 | 2. 家庭生活を優先 | 3. 個人の生活を優先 |
|----------|------------|-------------|

問32 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という性別によって役割を固定する考え方をどのように思いますか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------------|------------------|----------|
| 1. 同感する | 3. どちらかといえば同感しない | 5. わからない |
| 2. どちらかといえば同感する | 4. 同感しない | |

問33 あなたは、「子育てはやっぱり母親でなければならない」という考え方をどのように思いますか。

(○は1つ)

- | | | |
|-----------------|------------------|----------|
| 1. 同感する | 3. どちらかといえば同感しない | 5. わからない |
| 2. どちらかといえば同感する | 4. 同感しない | |

問34 結婚した女性の働き方についてご意見を伺います。

※あなたが女性の場合はあなたご自身の希望する働き方を、

あなたが男性の場合は配偶者等の方に希望する働き方を、

A)～E)のそれぞれの状況についてお選びください。(○は1つずつ)

フルタイムの仕事	パート・アルバイト	短時間勤務制	家でできる仕事	仕事は持たず、家事・育児に専念する
A) 結婚して子どもがいない時	1	2	3	4
B) 末子が3歳以下の時	1	2	3	4
C) 末子が4歳以上～小学校入学前の時	1	2	3	4
D) 末子が小学生の時	1	2	3	4
E) 末子が中学生の時	1	2	3	4

問35 女性の生き方についてご意見を伺います。

※あなたが女性の場合は、あなたご自身が理想とする生き方を、

あなたが男性の場合は、妻となる女性に送ってほしい生き方をお答えください。

(A) および (B) について、理想として最も近いと思われるものをひとつずつお選びください。
(○は1つずつ)

(A) 結婚した際の女性

1. 結婚するが、仕事も続ける
2. 結婚の機会に退職し、しばらくした後に再び仕事を持つ
3. 結婚の機会に退職し、その後は仕事を持たない
4. 結婚したくない

(B) 出産した際の女性

1. 出産の機会に休職し、出産後に同じ会社や団体に勤務する
2. 出産の機会に休職し、子育て後に同じ会社や団体に勤務する
3. 出産の機会に退職し、出産後に再び仕事を持つ
4. 出産の機会に退職し、子育て後に再び仕事を持つ
5. 出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない
6. 子どもは欲しくない

問36 仕事と生活の調和を図るために必要だと思うことは何ですか。(○はいくつでも)

1. 育児休業・介護休業などの制度が利用できること
2. 職場が育児や介護などとの両立に配慮や理解があり、制度を利用しやすい環境であること
3. 残業や休日出勤が少ないこと
4. 有給休暇が取りやすいこと
5. フレックスタイム、在宅勤務など多様な働き方できること
6. 夫が家事・育児に参加・協力すること
7. 親からの協力が得やすい環境であること
8. 退勤時間繰り上げなど保育所等に子どもを預けやすい仕組みがあること
9. その他(具体的に:)
10. わからない

6 最後に、行政の取組みについて、すべての方にお伺いします

問37 妊娠・出産時の身体的・精神的・経済的負担を軽減する施策として何が重要だと思いますか。
次の中からあなたの考えに近いものを、3つまで選んでください。(○は3つまで)

1. 出産費用を助成することにより、自己負担をなくすこと
2. 不妊治療に対して助成すること
3. 妊娠中の健康診断を無料で受けられるようにすること
4. 産前・産後の休業期間を拡大すること
5. 母子保健サービスを充実すること
6. 家事援助などを行うヘルパーの訪問サービスの充実
7. 妊娠から出産、子育てまでの医療、相談、支援などを、一か所の窓口で総合的に受けられる公的サービスの充実
8. その他(具体的に:)
9. 特にない

問38 育児を支援する施策として何が重要だと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものを、いくつでも選んでください。(○はいくつでも)

1. 各自のニーズに合わせた保育サービスの充実（保育所、保育ママ、ベビーシッターなど）
2. 子育て家庭等の育児不安に対する相談・援助や、親子が気軽に集うことのできる場の提供
3. 教育費の支援、軽減
4. 小児医療の充実
5. 公園など、子どもを安心して育てられる環境の整備
6. 雇用の安定
7. 企業のワーク・ライフ・バランスを促進する政策を充実させること
8. 男性の育児休業の取得促進
9. 育児休業中の所得保障の充実
10. 育児休業や短時間勤務などの制度利用がキャリアのハンデとならないための取組
11. 出産・育児による休職後の職場復帰の保障の充実
12. 子育ての経済的負担を軽減するための手当の充実や税制上の措置
13. 放課後児童クラブなどの共働き家庭やひとり親家庭の就学している子どもに対する支援の充実
14. ひとり親家庭への支援の充実
15. 3人以上の子どもがいる世帯への支援の充実
16. 子どものいる世帯への住宅費の支援
17. 子どもを生み育てる喜び、楽しさの啓発
18. 子どもに対する犯罪の防止など、地域における治安の確保
19. その他(具体的に：)
20. 特にない

問39 最後に、結婚・出産・子育てについて、宮城県に望むことを具体的にご記入ください。

お忙しいところをご協力いただき、ありがとうございました。

【回答用紙(この冊子)でお答えいただいた場合】

ご記入いただいた回答用紙は、同封の返信用封筒に入れて、8月9日（金）までに
ポストにご投函ください。なお、切手は不要です。

【インターネットでお答えの場合】

8月9日（金）中に お答えください。